

VERSYS 1100

モーターサイクル

取 扱 説 明 書

⚠ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

Kawasaki
Let the Good Times Roll

お車には定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、タイヤ、ブレーキパッド、ホース類等）があり、その点検は法により義務付けられております。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

ご愛用の皆様に

カワサキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取り扱い方、安全な運転の仕方、簡単な整備の方法等について説明してあります。より快適に、より安全にお乗りいただくために、この取扱説明書を是非お読みください。また、メンテナンスノート、セーフティハンドブックも是非お読みください。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。最新の情報は、カワサキウェブサイトのオンライン取扱説明書から閲覧可能です。

[取扱説明書]
https://pws. ktivs. net/dispeBook? file=99817-0120&manual_kind=OM&lang_code=JA&mark=KLZ1100CV

998170120JA

お車の受け取りの際には、お買いあげいただきましたカワサキ正規取扱店より「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティハンドブック」を受け取り、下記の説明を必ず受けてください。

- お車の正しい取り扱い方について
- 保証の内容と保証期間について
- 保証書の発行方法について
- 初回点検について
- 日常点検、定期点検整備について
- 車両の確認とお受け取りの署名について

- 車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更等により図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2名まで乗車できます。
- この車は排出ガス規制適合車です。

本書では正しい取り扱い方法および点検・整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠ 危険

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が大きいと想定される場合を示しています。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

アドバイス

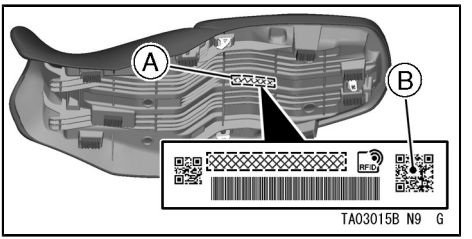
○ 製品の操作や整備に関連して知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

カワサキモータース株式会社
株式会社カワサキモータースジャパン

© 2026 カワサキモータース株式会社 2026. 4. 1 (1)

車両情報ラベル

シート裏側にある車両情報ラベル右側のQRコードを読み取ることで、お車の情報をご確認いただけます。



A. 車両情報ラベル
B. QRコード

アドバイス

○ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

目次

安全運転のために **10**
主要諸元 **22**
各部の名称 **26**
ハイリーデュラブルペイント（一部のカラーバリエーションのみ） 29
エンジン番号・車台番号 **30**
メータの見方・使い方 **31**
メータユニット 31
画面タイプ1 32
画面タイプ2 33
背景色の切り替え 34
光度センサ 34
インジケータ 35
インジケータ初期動作 36
警告インジケータが点灯または点滅したとき 37
その他のインジケータ 41
スピードメータ／タコメータ 43
機能 44
ギヤポジションインジケータ 44
シフトアップインジケータ機能 45
燃料計 46
水温計 46
外気温計 47
ECO走行インジケータ 48
加速度／減速度インジケータ 49
スロットル開度計 49
フロントブレーキ圧計 50
インテグレイテッドライディングモードインジケータ 50
クルーズコントロールシステムインジケータ 50
KQSモードインジケータ 51
KECSプリロードモードインジケータ 51
Bluetooth®接続インジケータ 52
サービスインジケータ 53
操作ボタン 54
マルチファンクションディスプレイ 55
マルチファンクションディスプレイのリセット 60
メニューモード 62
メニューモードの開始／終了方法 62

メニューモードの基本操作 63
車両設定（Vehicle Settings） 63
画面表示（Display） 70
日付と時刻（Date and Clock） 72
サービス（Service） 76
ブルートゥース®（Bluetooth） 80
表示単位（Units） 84
スイッチの使い方 **87**
イグニションスイッチ 87
イモビライザシステム 89
ステアリングロック 91
左ハンドルスイッチ 92
ディマ／パッシングボタン 93
上MODEボタン／下MODEボタン 94
ミドルボタン 94
ターンシグナルスイッチ ◀ ▶ 94
ホーンボタン 95
ハザードスイッチ 95
RESETボタン 95
クルーズコントロールボタン 95
右ハンドルスイッチ 96
エンジンスタート／ストップスイッチ 96
SELECTボタン 97
各部の取り扱い方 **98**
サイドスタンド 98
センタスタンド 98
ブレーキレバーアジャスタ 99
クラッチレバーアジャスタ 100
シート 100
アウタミドルカウリング 102
クイックリベット（ピンタイプ）の取り外し 102
クイックリベット（ピンタイプ）取りつけ 102
左アウタミドルカウリングの取り外し 103
左アウタミドルカウリングの取り付け 105
右アウタミドルカウリングの取り外し 105
右アウタミドルカウリングの取り付け 108
バックミラー 108
グリップヒータ 110
ツールキット 112
荷掛けフック 113

ヘルメットロック..... 113
ウインドシールド..... 114
リヤキャリア..... 115
コーナリングライト..... 116
DC電源ソケット..... 117
USBソケット..... 118
アクセサリコネクタ..... 119
ETCの取り扱い方 122
ETCとは..... 122
ETC2.0の情報提供サービス..... 122
ETCを利用するには..... 122
ETC利用上の注意 122
車載器各部の名称..... 128
ETCカードの挿入 130
ETCインジケータの表示について 132
ETCレーンでの注意 134
故障かなと思ったら..... 136
燃料の補給.....139
正しい運転操作.....143
エンジンのかけ方..... 143
ならし運転..... 145
走り方..... 146
シフトダウンの仕方..... 147
ブレーキの使い方..... 148
ABS..... 149
KIBS..... 151
エンジンの止め方..... 152
エンジンの非常停止..... 152
駐車の仕方..... 152
インテグレイテッドライディングモード..... 156
ライダモード（RIDER） 157
KTRC..... 164
KTRCインジケータ 165
KTRCモード 166
パワーモード..... 166
KECS..... 166
プリロードモード 167
減衰力 169
クルーズコントロールシステム 169
KQS..... 173
KCMF..... 174
慣性計測装置（IMU） 175
点検整備について.....176
簡単な整備 178
ブレーキ液量の点検..... 179
ブレーキライトスイッチの調整 180
クラッチレバーの遊びの調整..... 181
エンジンオイルの補給..... 182

冷却液..... 185
エアクリーナ..... 191
スロットルの点検..... 192
アイドリング回転速度の調整..... 193
ドライブチェーン..... 193
サスペンションセッティング..... 198
フロントフォーク 198
セッティング表 200
タイヤ..... 201
バッテリ..... 204
ヒューズの交換..... 207
ヒューズボックス（アウタミドルカウリングの裏）へのアクセス方法..... 209
車のお手入れ.....**210**
注意事項..... 211
洗車..... 213
長期間の格納..... 214
環境保護について.....**216**
DFI自己診断システムコネクタの位置 **219**
車両情報の記録に関して.....**220**
イベントデータレコーダ **221**
万一の故障に備えて.....**223**
お客様相談室.....**225**
リコールについてのお願い **226**
適合宣言.....**227**
バッテリに関する補足情報 **229**
バッテリ全般に関する情報..... 229
ボタン型電池の追加情報..... 233

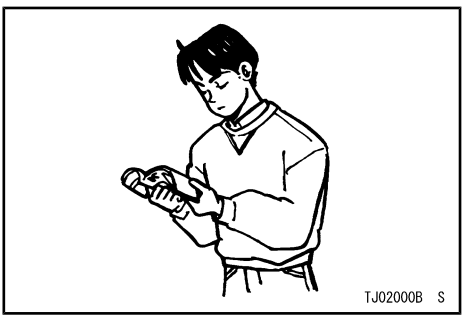
安全運転のために

ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものです。これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

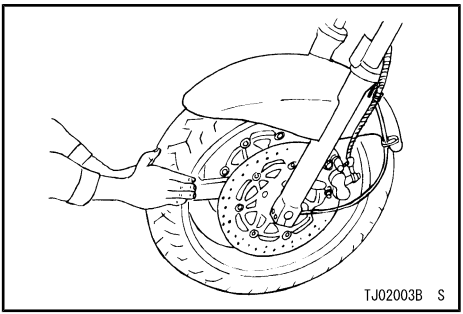
車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗るとき、いつも心がけねばならない重要な注意事項を書いた“安全項目ラベル”が車に貼ってあります。これらの注意をいつもお守りください。

運転する前に

- **取扱説明書をよく読んでください。**
  車の取り扱いをよくご存じの方も、この車特有の構造や取り扱い方がありますので、この説明書を必ずお読みください。

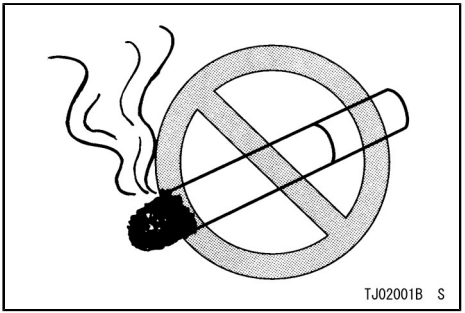


- **日常点検を必ず行ってください。**
  車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。日常点検については、メンテナンスノートの「日常点検」をご覧ください。

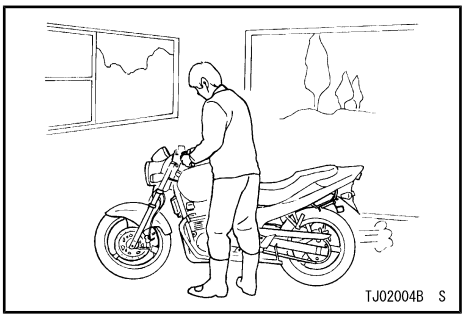


- **定期点検を必ず行ってください。**
  定期点検については、メンテナンスノートの「定期点検」をご覧ください。

- **ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。**



- **排出ガスには、一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジン始動、暖機運転は、風通しの良い場所で行ってください。**



服装

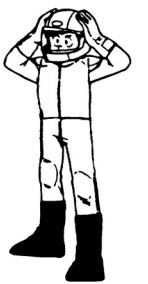
- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。
  - ヘルメットは正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください。
  - ヘルメットは二輪車用でPSCマークのあるものを必ずお選びください。頭にしっくり合って、圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットにはフェースシールドを取り付けてください。取り付けできないときは、ゴーグルを使用してください。
- 手袋を着用してください。手袋は、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- 可能な限り身体の各部（胸、肩、背中、ひじ、ひざ等）を保護する機能のあるライディングウェアを着用してください。または、身体各部を保護するプロテクタを装着してください。

– 身体の露出が少ない長ズボンと長袖のジャケットを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
– 動きやすい服を着用してください。
– すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやクラッチ、チェンジ操作の邪魔になり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
– 被視認性の観点から、明るく目だつ色の動きやすい服を着用してください。

● 靴は、ブレーキ操作やチェンジ操作のしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆う、足にあったサイズのものを選んでください。

⚠ 警告

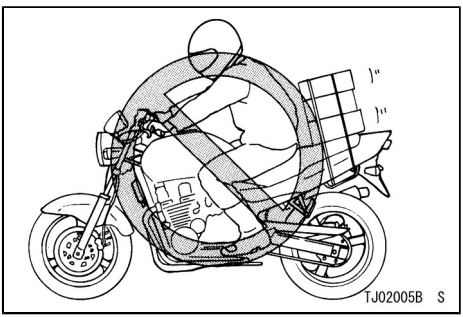
● ヘルメットは正しく着用してください。正しく着用していないと、事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
● 運転者と同乗者は乗車時、ヘルメット、保護具および保護性の高い服を必ず着用してください。



TJ02002B S

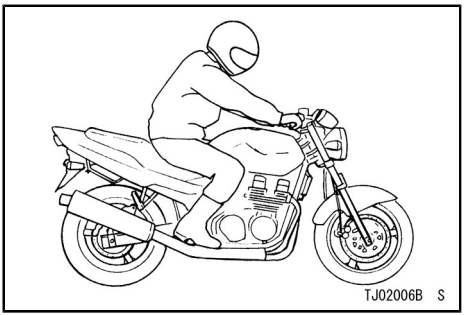
荷物を積むときは

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積むときは、**“積み過ぎない”、“荷物をしっかりと固定する”**等充分注意して、安全に走行してください。



乗り方

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



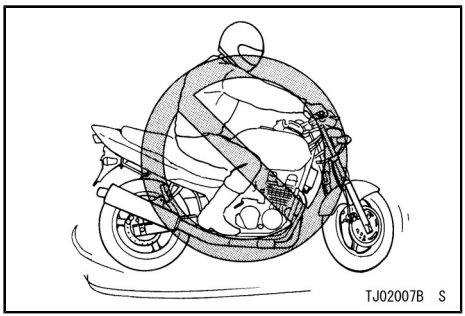
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足は必ず、同乗者用ステップに乗せさせてください。

- この車の乗車定員は2名です。なお、次の運転者は法令により2人乗りすることはできません。

一般道路
免許取得後1年未満の運転者

高速道路
免許取得後3年未満の運転者、20歳未満の運転者、または2人乗り運転が禁止されている区間

- **急激なハンドル操作や片手運転は横すべりや転倒の原因となります。絶対におやめください。**



駐車するときは

⚠ 警告

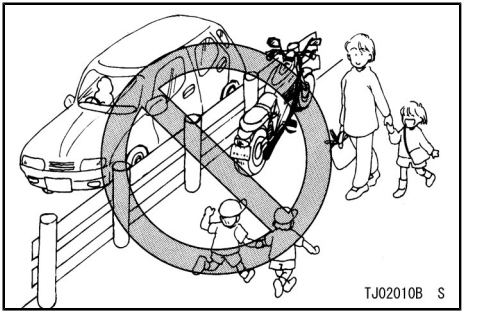
可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

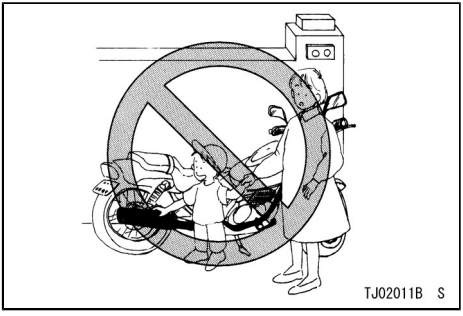
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

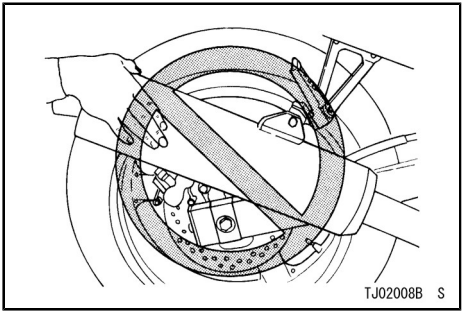
- 車は水平でしっかりとした地面の場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面等の不安定な場所に駐車するときは、車の転倒、動き出しのないよう、安全処置に充分留意してください。
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。

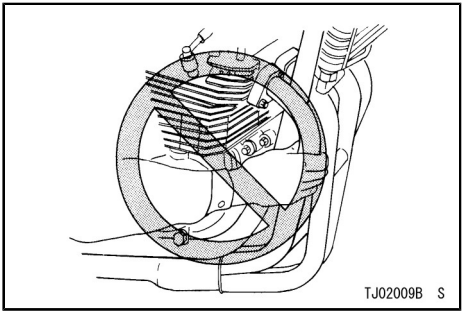


- エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。

- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは、他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。







洗車後や水たまりを走行したときは

- 洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
- ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

タイヤ

- 異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

調整

- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジンの調整はカワサキ正規取扱店におまかせください。

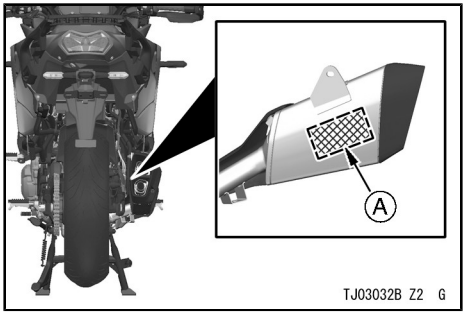
触媒装置

- この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の有害物質の排出量を低減します。

触媒装置の適切な使用のため、下記の注意点をご確認ください。

改造

- **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。**
- **車を改造することは法律に触れることは勿論、他の人への迷惑行為となります。**
- **他のマフラをこの車に取り付けますと、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**
- **マフラには、カワサキ純正部品を表わす"Kawasaki"マークが刻印されています。**



A. **Kawasaki**マーク

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

昼間もヘッドライトオン

- この車は、イグニションスイッチをオンにすると、ヘッドライトが点灯するデイライトシステム（昼間点灯システム）を採用しています。

注意

- **イグニションスイッチをオンにしたまま、またはエンジン始動後にアイドリング状態のまま長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

カウリングの取り扱い上の注意

- 走行中は、カウリングと車体の間に、物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。

主要諸元

エンジン

エンジンオイル	カワサキ純正4サイクルオイル
エンジンオイル量	4.0 L
冷却液量	2.8 L
スパークプラグ	NGK CR9EIA-9
スパークプラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm

フレーム

タイヤサイズ：	
前輪	120/70ZR17M/C (58W)
後輪	180/55ZR17M/C (73W)
燃料タンク容量（車体直立状態）	21 L
ブレーキフルード	DOT4

電装品

バッテリ	12 V 10 Ah (10 HR)

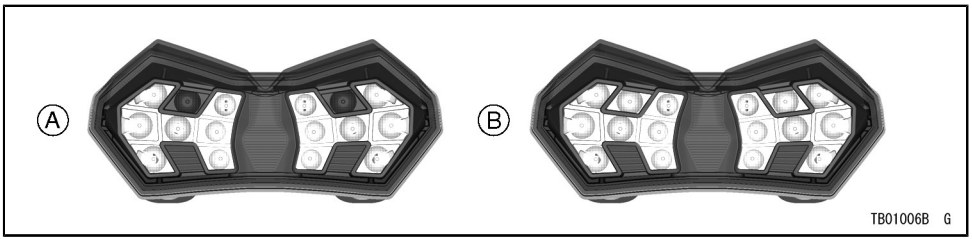
ヘッドライト：	
ハイビーム	LED
ロービーム	LED
ポジションライト	LED
コーナリングライト	LED
ブレーキ／テールライト	LED
ターンシグナルライト	LED
ライセンスプレートライト	LED

この車のヘッドライト、ポジションライト、ブレーキ／テールライト、ターンシグナルライト、ライセンスプレートライトにはLED（発光ダイオード）を採用しています。LEDライトが一つでも点灯しないときは、カワサキ正規 取扱店にご相談ください。

ブレーキ/テールライト

ブレーキ/テールライトは下記のように点灯します。

イグニションスイッチをオンにしたときに点灯しないLEDがありますが、故障ではありません。



A. イグニションスイッチオン時
B. ブレーキ時

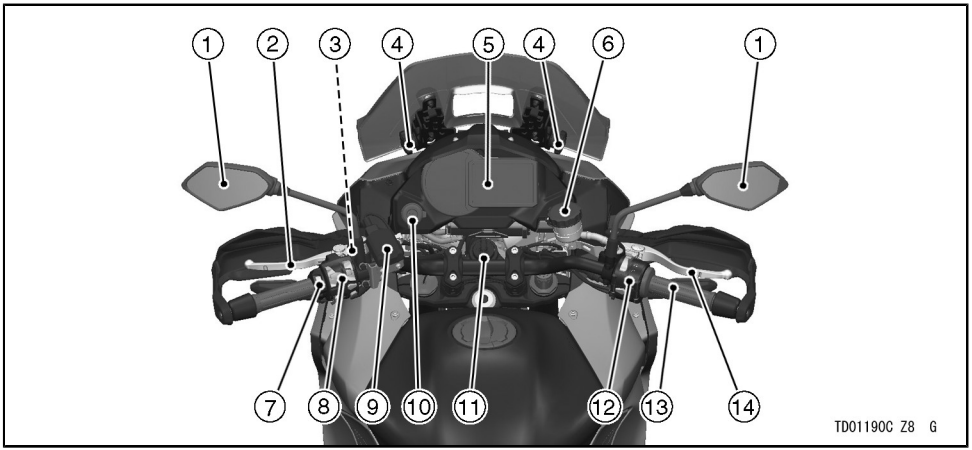
詳しい諸元の情報については、カワサキウェブサイトで最新情報をご確認ください。また、仕様は予告なく変更される場合があります。

【主要諸元】

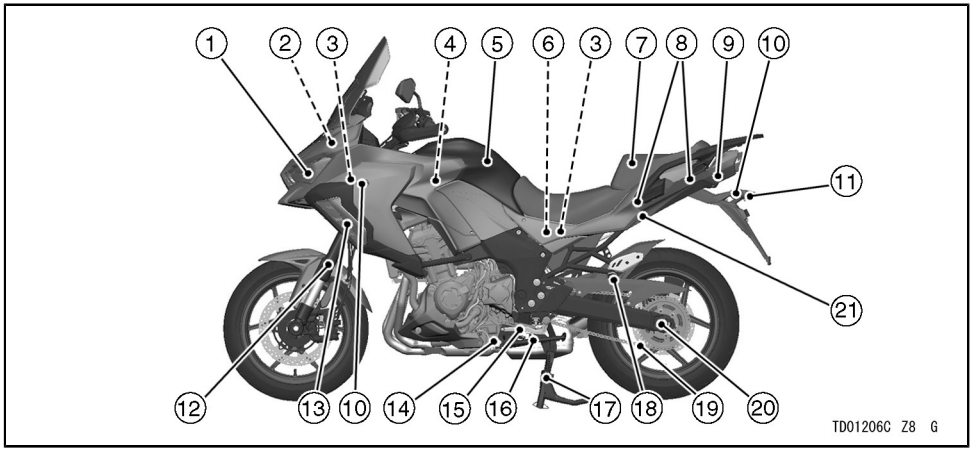
https://pws.ktivs.net/dispeBook?file=99888-0001-01&lang_code=JA



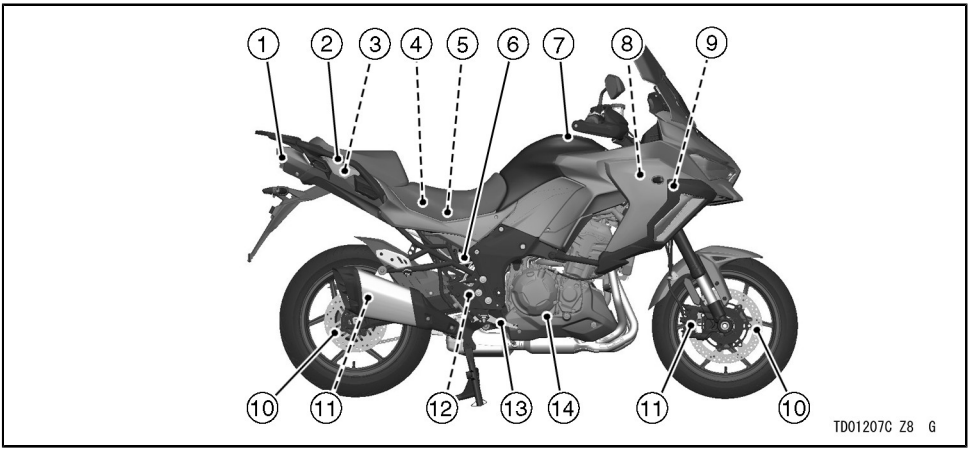
各部の名称



1. バックミラー
2. クラッチレバー
3. スタータロックアウトスイッチ
4. ウインドシールド調整ノブ
5. メータユニット
6. ブレーキリザーバ（フロント）
7. グリップヒータスイッチ
8. 左ハンドルスイッチ
9. USBソケット
10. DC電源ソケット
11. イグニションスイッチ／ステアリングロック
12. 右ハンドルスイッチ
13. スロットルグリップ
14. フロントブレーキレバー



1. ヘッドライト
2. ETCアンテナ
3. ヒューズボックス
4. エアクリーナ
5. 燃料タンク
6. メインヒューズ
7. シート
8. 荷掛けフック
9. シートロック
10. ターンシグナルライト
11. ライセンスプレートライト
12. フロントフォーク
13. コーナリングライト
14. サイドスタンドスイッチ
15. シフトペダル
16. サイドスタンド
17. センタスタンド
18. リヤステップ
19. ドライブチェーン
20. チェーンアジャスタ
21. ヘルメットロック

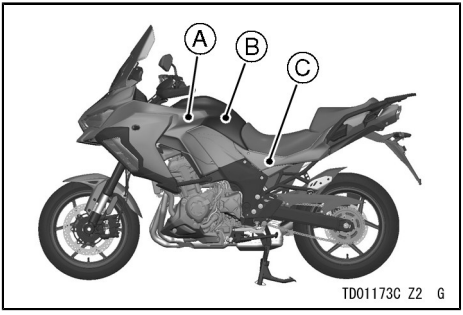


1. ブレーキ／テールライト
2. グラブレール
3. ETC車載器
4. ブレーキリザーバ(リヤ)
5. バッテリ
6. リヤショックアブソーバ
7. 燃料タンクキャップ
8. 冷却液リザーブタンク
9. ヒューズボックス
10. ブレーキディスク
11. ブレーキキャリパ
12. リヤブレーキライトスイッチ
13. ブレーキペダル
14. オイルレベル点検窓

ハイリーデュラブルペイント(一部のカラーバリエーションのみ)

ハイリーデュラブルペイントには特殊な性質の塗料が使用されており、日常使用での擦り傷の防止に効果があります。

対象部品



A. インナミドルカウリング
B. 燃料タンク
C. シートカバー

アドバイス

- 修復は、場合によっては1週間程度かかる可能性があります。
- 硬貨やキー、ファスナーなど鋭利な物による傷には効果がありません。

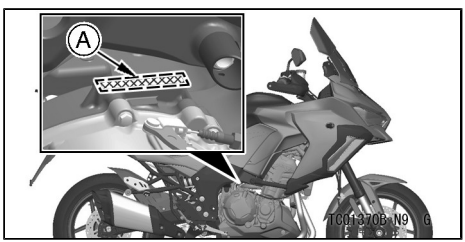
エンジン番号・車台番号

エンジン番号・車台番号は車の登録のために使われます。これらの番号はカワサキ正規取扱店に部品を注文するときに必要であり、盗難にあった場合、多くの同機種の車、あるいはいくらか特徴の似ている車の中からあなたの車を捜し出す手掛かりにもなります。

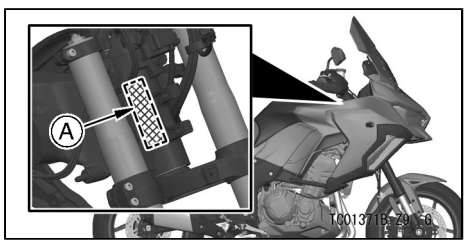
あなたの車のエンジン番号・車台番号を下記の欄に記入してください。

エンジン番号

車台番号



A. エンジン番号

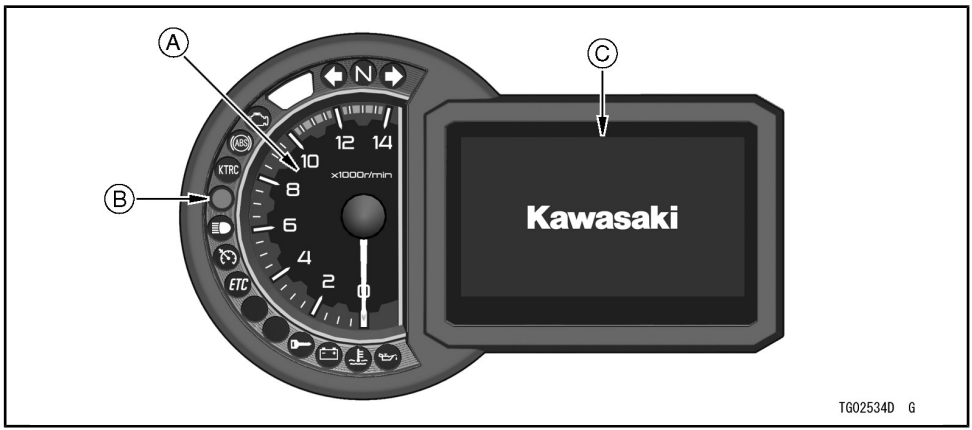


A. 車台番号

メータの見方・使い方

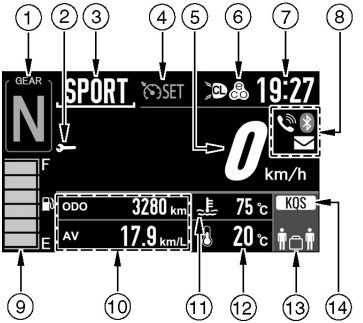
メータユニット

画面表示は2つのタイプから切り替えることができます。「メニューモード」の項を参照してください(70ページを参照)。



A. タコメータ
B. 光度センサ
C. ディスプレイスクリーン

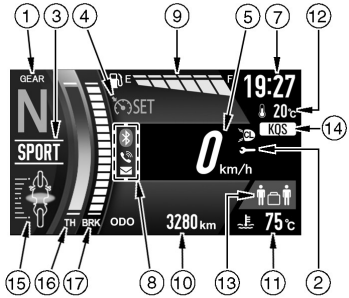
画面タイプ1



1. ギヤポジションインジケータ
2. サービスインジケータ
3. インテグレイテッドライディングモードインジケータ
4. クルーズコントロールシステムインジケータ
5. スピードメータ
6. ECO走行インジケータ
7. 時計
8. Bluetooth®接続インジケータ
9. 燃料計
10. マルチファンクションディスプレイ
    - オドメータ
    - トリップメータA/B
    - リーン角
    - 最大リーン角
    - 瞬間燃費
    - 平均燃費
    - 航続可能距離
    - 平均車速
    - 経過時間
    - バッテリ電圧
11. 水温計
12. 外気温計
13. KECSプリロードモードインジケータ
14. KQSモードインジケータ

画面タイプ2

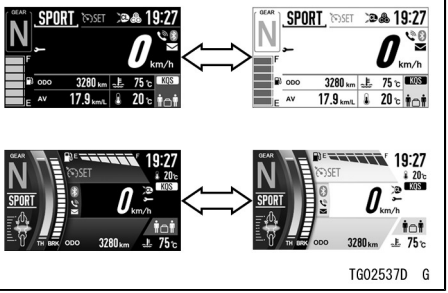
1. ギヤポジションインジケータ
2. サービスインジケータ
3. インテグレイテッドライディングモードインジケータ
4. クルーズコントロールシステムインジケータ
5. スピードメータ
7. 時計
8. Bluetooth®接続インジケータ
9. 燃料計
10. マルチファンクションディスプレイ
    - オドメータ
    - トリップメータA/B
    - リーン角
    - 最大リーン角
11. 水温計
12. 外気温計
13. KECSプリロードモードインジケータ
14. KQSモードインジケータ
15. 加速度／減速度インジケータ
16. スロットル開度計
17. フロントブレーキ圧計



TG02747D G

背景色の切り替え

● RESETボタンを押すとディスプレイスクリーンの背景色が反転します。



⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

光度センサ

メータユニットの照明は、周囲の明るさに応じて自動調整されます。

アドバイス

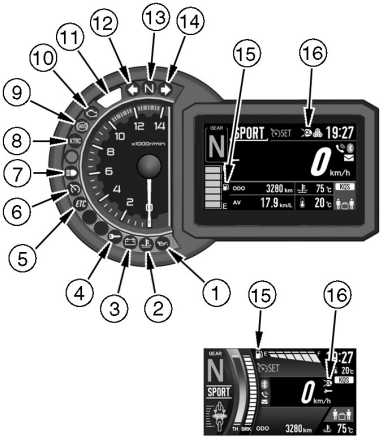
○ 光度センサを覆ったり、影になるものを取り付けたりすると、自動調整機能が正常に作動しない可能性があります。

メータユニットの明るさの設定

● メータユニットの明るさを、手動で3段階に調整できます。「メニューモード」の項を参照してください(71ページを参照)。

インジケータ

1. 赤色油圧警告インジケータ
2. 赤色水温警告インジケータ
3. 赤色バッテリ電圧警告インジケータ
4. 赤色イモビライザ警告インジケータ
5. ETCインジケータ
6. 白色クルーズコントロールインジケータ
7. 青色ハイビームインジケータ
8. 黄色KTRCインジケータ
9. 黄色ABSインジケータ
10. 黄色エンジン警告インジケータ
11. 黄色シフトアップインジケータ
12. 緑色左ターンシグナルインジケータ
13. 緑色ニュートラルインジケータ
14. 緑色右ターンシグナルインジケータ
15. 燃料警告インジケータ
16. コーナリングライトインジケータ



TG02540D G

インジケータ初期動作



TG02543D G

イグニションスイッチをオンにすると、次の表のとおり、すべてのインジケータが点灯または消灯します。もし動作しない場合は、カワサキ正規取扱店にて点検をお受けください。

↻	⌛	🔑	インジケータ
□	□	□	(ABS)* N
□	□	■	
□	■	■	ETC KTRC

↻ : イグニションスイッチをオンにしたとき
⌛: 数秒後
🔑: エンジン始動時
□: 点灯
■: 消灯
＊: 車両が動き始めてから消灯

警告インジケータが点灯または点滅したとき

警告インジケータが表示された場合、車両に問題がある可能性があります。安全な場所に車両を停車した後、次の表の対応をしてください。

インジケータ	状態	対応
	点灯	油圧が低いとき、またはイグニションスイッチをオンにしたときに点灯します。エンジン始動後も継続して点灯する場合は、エンジンを直ちに停止し、エンジンオイルレベルを確認してください。エンジンオイルが不足している場合は補充してください。オイル量が正常でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	水温が高温になると点灯します。安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンが冷えてからリザーブタンクの冷却液の量を確認してください。冷却液の量が不充分な場合は、リザーバタンクに冷却液を補給してください。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	バッテリ電圧が11.0V以下または16.0V以上になっています。11.0V以下の場合は、バッテリを充電してください。16.0V以上の場合もしくはバッテリを充電した後でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

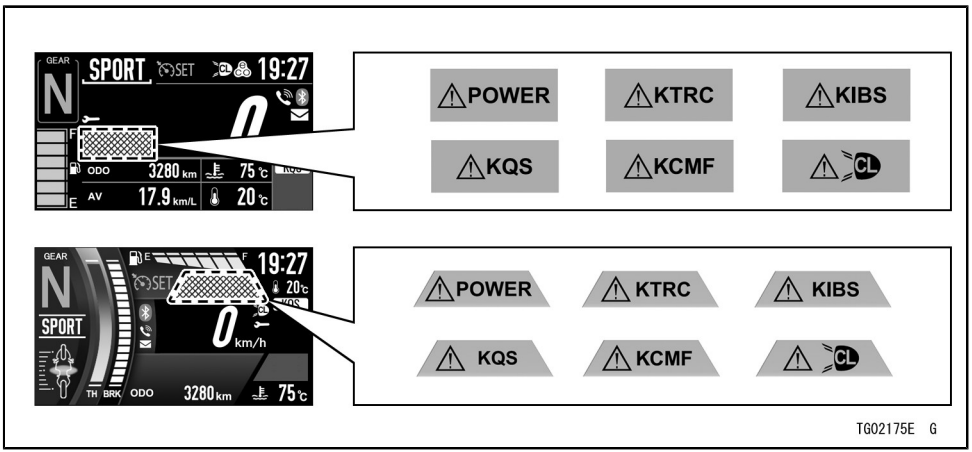
インジケータ	状態	対応
	点滅	車に登録されているイグニションキーを使用しない場合、またはキーと車の間で通信不良が起こるとイモビライザ警告インジケータが点滅します。もし点滅したときは、登録された専用のイグニションキーを使用するか、またはキーの周りに他のキー等による金属部品がないことを確認してください。確認後も点滅する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点滅（一番下のセグメントと共に）	点灯時の燃料残量： 約4.0 L
		燃料を早めに補給してください。サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。
	点滅（全てのセグメントと共に）	燃料警告システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	FI（フューエルインジェクション）システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点滅	

インジケータ	状態	対応
(ABS)	点灯	特定の条件*1で点灯することがあります。インジケータが点灯した場合は、一旦イグニションスイッチをオフにして、再度イグニションスイッチをオンにした後、走行するとインジケータは消灯します。ABSに問題がある場合は点灯し続けます。点灯中にはABSは作動しませんが、通常のブレーキシステムは正常に作動します。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

*1：
- 連続して悪い路面を走行したとき。
- スタンドで後輪を持ち上げ、ギヤを入れた状態でエンジンを始動して、後輪を回転させたとき。
- 前輪が地面から離れるような、急激な加速をしたとき。
- ABSが強力な電波障害を受けたとき。
- タイヤの空気圧が異常なとき。（空気圧を調整してください。）
- 標準とは異なるサイズのタイヤが使用されたとき。（標準タイヤを使用してください。）
- ホイールが変形しているとき。（ホイールを交換してください。）

警告メッセージ

画面に警告メッセージが表示されたときは、その機能に問題があります。カワサキ正規取扱店にて点検をお受けください。



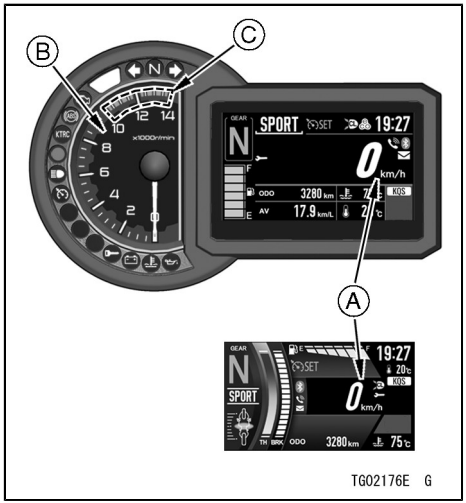
その他のインジケータ

インジケータ	状態
	イグニションスイッチをオフにしたとき、インジケータが点滅*2し始め、システムが作動していることを知らせます。24時間経過後に点滅は終わりますが、システムは継続して作動しています。
ETC	ETC車載器の状態を表示します。詳細は「ETCの取り扱い方」の章を参照してください（132ページを参照）。
	クルーズコントロールシステムをオンにすると点灯します。詳細は「正しい運転操作」の章、「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください（169ページを参照）。
	ヘッドライトの照射をハイビーム（上向き）にすると点灯します。
KTRC	KTRCが作動しているときに点滅します。
	シフトアップインジケータは設定したエンジン回転速度になると点滅し、シフトアップに最適なタイミングを運転者に知らせます。詳細は「メニューモード」の項を参照してください（64ページを参照）。
	ターンシグナルスイッチを左の方に入れると点滅します。
N	トランスミッションがニュートラルのときに点灯します。

インジケータ	状態
➡	ターンシグナルスイッチを右の方に入れると点滅します。
CL	コーナリングライト機能をオンにすると点滅します。

*2: イモビライザ警告インジケータ点滅モードはオン／オフが設定できます。詳細は「メニューモード」の項を参照してください(68ページを参照)。

スピードメータ／タコメータ



A. スピードメータ
B. タコメータ
C. レッドゾーン

スピードメータ

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

アドバイス

○ 日本国内では、スピードメータの表示をキロメートル(km/h)に合わせてください。切り替え方法は「メニューモード」の項、「表示単位(Units)」を参照してください(84ページを参照)。

タコメータ

毎分のエンジン回転速度を示します。タコメータにはレッドゾーンがあります。バーがレッドゾーンに入らないように運転してください。

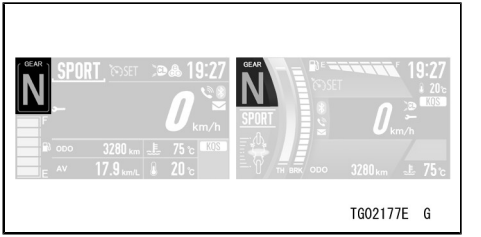
注意

レッドゾーンは、エンジンの許容回転速度を超える領域を示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジン故障の原因となりますので、そのような運転をしないようにお願いします。

イグニションスイッチをオンにすると、タコメータの指針は動作確認のために最大位置まで動き、その後“0”に戻ります。もし指針が正常に動かないときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

機能

ギヤポジションインジケータ



トランスミッションのギヤ位置を表示します。ギヤがニュートラルのときは“N”を表示します。

アドバイス

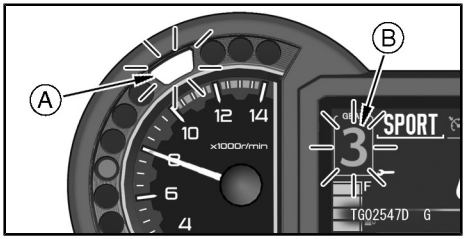
○ ギヤが正しく入っていない場合、ギヤポジションインジケータは表示されなくなります。

ギヤポジションインジケータはシフトアップインジケータも兼ねています。

シフトアップインジケータ機能

シフトアップインジケータはシフトアップに最適なタイミングを運転者に知らせる機能です。

設定したエンジン回転速度になる手前からギヤポジションインジケータがゆっくり点滅し始め、エンジン回転速度が設定した値になると、シフトアップインジケータとギヤポジションインジケータが速く点滅します。

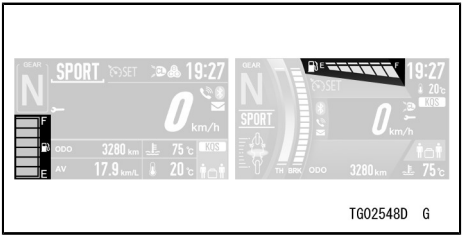


A. シフトアップインジケータ（点滅）
B. ギヤポジションインジケータ（点滅と変色）

シフトアップインジケータ機能の設定方法

シフトアップインジケータ機能はオン／オフおよび作動するタイミングを設定できます。「メニューモード」の項を参照してください(64ページを参照)。

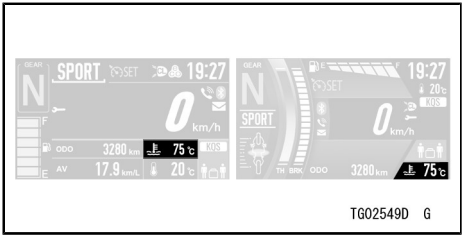
燃料計



燃料タンクの残量がセグメントの数で表示されます。燃料計が正しく表示されない場合は、カワサキ正規取扱店で燃料計の点検をお受けください。

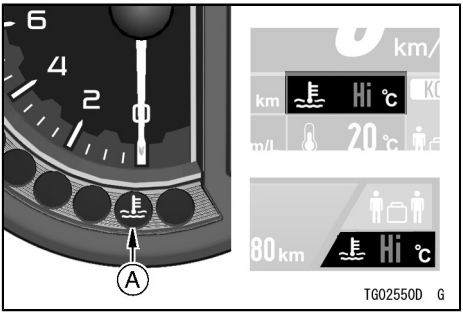
燃料が少なくなると、一番下のセグメントと燃料警告インジケータが点滅します。燃料を早めに補給してください。サイドスタンド状態においては、燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。

水温計



冷却液の温度を表示します。水温計の表示は、下表のとおりです。

水温	水温計表示
40°C以下	──
115°C以上	点滅
120°C以上	“Hi”の点滅表示

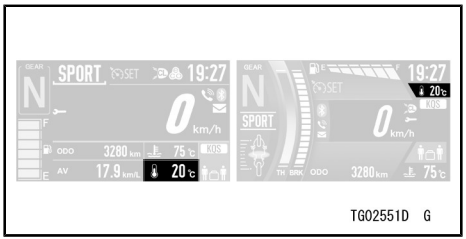


A. 水温警告インジケータ

注意

水温警告インジケータが点灯した時は走行しないでください。もし続けて走行すると、エンジンが損傷する原因となります。

外気温計



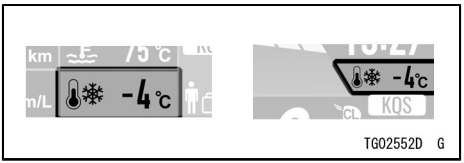
周囲の気温を表示します。

アドバイス

- –20°C ~ 60°Cの範囲で表示できます。
- 車速が20 km/h以下、または外気温センサが濡れている場合は正しく表示されない場合があります。

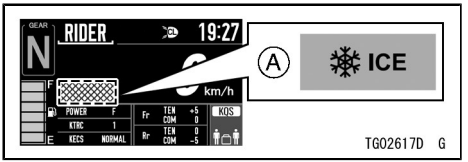
⚠ 警告

キーON時に外気温3°C未満になっていた場合、外気温計の色変化や警告表示によって、路面が凍結している可能性があることをお知らせします。外気温低下時は、路面状況に特に注意して運転してください。



アドバイス

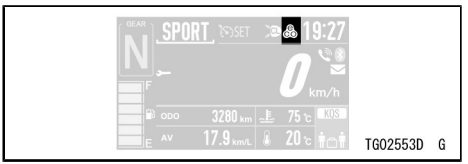
○ 外気温計を表示していなかった場合は、警告メッセージが表示されます。



A. 外気温低下警告メッセージ

ECO走行インジケータ

（画面タイプ1のみ）



運転者が燃料消費を抑えた走行を行っているときはECO走行インジケータが表示され、低燃費走行であることが確認できます。ECO走行インジケータが表示される運転を心がけること

で、燃料効率を高めることができます。

⚠ 警告

ECO走行インジケータに気を取られ過ぎて道路や交通の状況への注意を怠ると、死亡や傷害につながる事故を引き起こす可能性があります。常に広い視野をもって運転してください。

加速度／減速度インジケータ

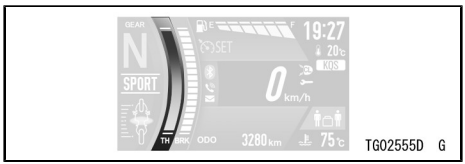
（画面タイプ2のみ）



車両にかかっている加速度、減速度を表示します。加速度が大きくなるほど、インジケータは車体図の後方に移動します。逆に減速度が大きくなるほど前方に移動します。

スロットル開度計

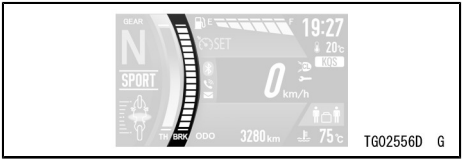
（画面タイプ2のみ）



スロットルバルブの開度を表示します。

フロントブレーキ圧計

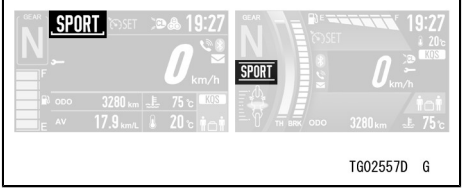
（画面タイプ2のみ）



TG02556D G

フロントブレーキの液圧を表示します。

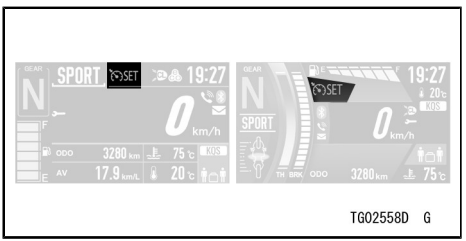
インテグレイテッドライディングモードインジケータ



TG02557D G

使用中のライディングモードを表示します。「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください(156ページを参照)。

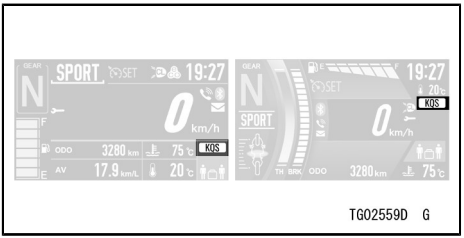
クルーズコントロールシステムインジケータ



TG02558D G

クルーズコントロールシステムの状況を表示します。詳細は「正しい運転操作」の章、「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください(169ページを参照)。

KQSモードインジケータ

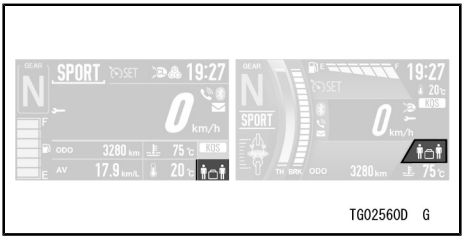


KQSをオンにすると表示されます。「正しい運転操作」の章、「KQS」の項を参照してください(173ページを参照)。

KQSの設定方法

「メニューモード」の項、「車両設定（Vehicle Setting）」を参照してください(66ページを参照)。

KECSプリロードモードインジケータ

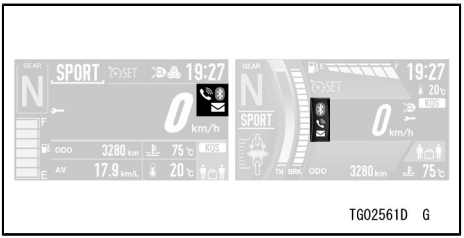


使用中のKECSプリロードモードを表示します。「正しい運転操作」の章、「KECS」の項を参照してください(166ページを参照)。

KECSプリロードの調整方法

「メニューモード」の項、「車両設定（Vehicle Setting）」を参照してください(66ページを参照)。

Bluetooth®接続インジケータ



車両とスマートデバイスが無線接続されると、ブルートゥースアイコンが表示されます。スマートデバイスに電話の着信があると受話器アイコンが表示されます。Eメールやテキストメッセージを受信したときは、メールアイコンが表示されます。



A. 受話器アイコン
B. メールアイコン

ブルートゥースの設定方法

- 「メニューモード」の項、「ブルートゥース（Bluetooth）」を参照してください(80ページを参照)。

Bluetooth®について

車両に内蔵されたブルートゥース無線接続技術を介してスマートデバイスと接続できます。

専用アプリ「RIDEOLOGY THE APP MOTORCYCLE」をダウンロードして使用することで、車両の情報をスマートデバイスに表示させたり、車両の設定を変更したりすることが可能です。詳細

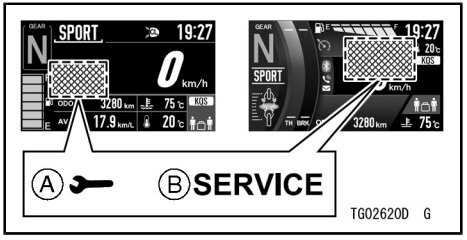
についてはアプリを参照してください。

アドバイス

- 安全のため、走行中はスマートデバイスを使用しないでください。
- ご使用の機器がブルートゥースに対応していても、場合によっては接続できない可能性があります。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。



サービスインジケータ



A. サービスインジケータ
B. サービス通知メッセージ

この車にはメンテナンスに関する通知機能を3種類（カワサキの標準設定および個人で指定できるエンジンオイル用とその他用）設定できます。

日付または距離が設定した値に達すると、イグニションスイッチをオンにしたときに、ディスプレイスクリーン上にサービスインジケータとサービス通知メッセージが表示されるようになります。

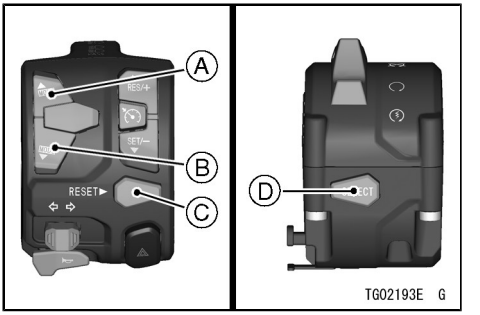
サービス通知メッセージは30秒経過後に非表示となります。

メンテナンス通知機能の設定

- 「メニューモード」の項、「サービス（Service）」を参照してください(76ページを参照)。

操作ボタン

メータユニットの操作は、左ハンドルスイッチの上MODEボタン、下MODEボタン、RESETボタン、および右ハンドルスイッチのSELECTボタンで行います。



A. 上MODEボタン
B. 下MODEボタン
C. RESETボタン
D. SELECTボタン

マルチファンクションディスプレイ



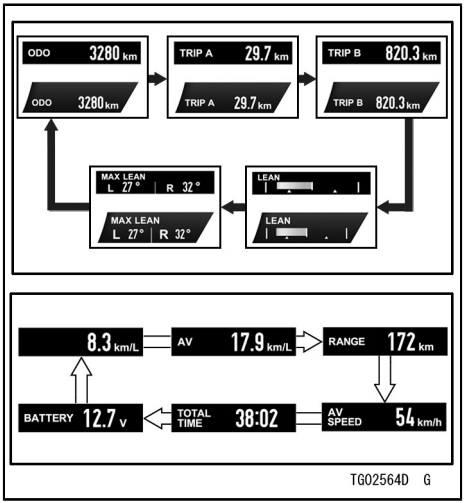
TGO2563D G

上MODE、下MODEボタンを押すと、表示項目が次の順序で切り替わります。

オドメータ
トリップメータA
トリップメータB
リーン角
最大リーン角

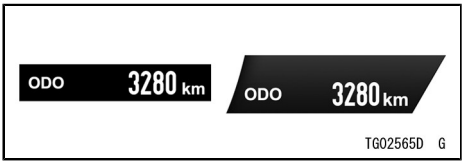
（画面タイプ1のみ）

瞬間燃費
平均燃費
航続可能距離
平均車速
経過時間
バッテリ電圧



➡ :上MODEボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :下MODEボタンを押したときの切り替わり方

オドメータ

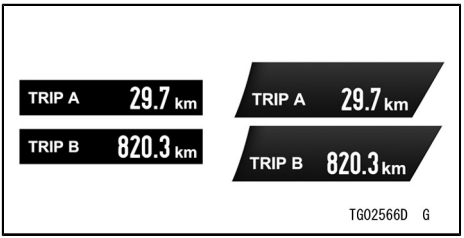


総走行距離を表示します。定期点検整備の目安となります。オドメータは“0”に戻すことはできません。

アドバイス

○ 値は“999999 km”までカウントされ、以降は固定されます。

トリップメータA/B



リセットした時点からの走行距離を表示します。

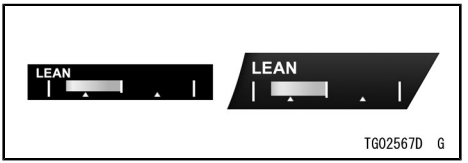
アドバイス

○ トリップメータは、“9999.9 km”を超えると“0.0”に戻ります。

トリップメータのリセット方法

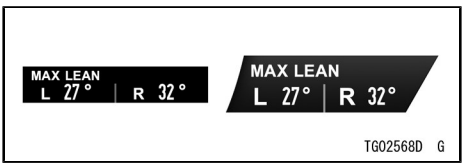
この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(60ページを参照)。

リーン角



車体の左右の傾き（リーン角）を表示します。角度が大きいほどゲージが増えます。

最大リーン角



リセット時点から最も大きい車体の左右の傾き（最大リーン角）を表示します。

最大リーン角のリセット方法

この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(60ページを参照)。

瞬間燃費



走行中に瞬間の燃料消費率を表示します。値は4秒ごとに更新されます。

アドバイス

- **イグニションスイッチをオンにした時点では“––.–”が表示されます。走行開始から数秒後に数値が表示されます。**

平均燃費

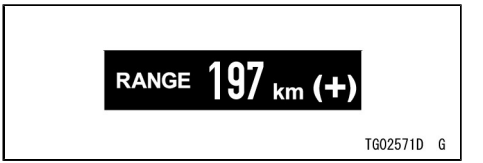


リセット時点からの平均の燃料消費率を表示します。値は5秒ごとに更新されます。

平均燃費のリセット方法

この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(60ページを参照)。

航続可能距離



燃料タンクの残量に基づいて航続可能距離を表示します。値は20秒ごとに更新されます。

アドバイス

- 燃料が充分にあるときは、数値の横に「(＋)」が表示されます。
- 燃料が少なくなり燃料シンボルが点滅し始めた後、しばらく走行を続けると航続可能距離は表示されなくなります。
- 燃料を補給すれば燃料シンボルの点滅は止まり、航続可能距離が表示されるようになります。航続可能距離は、燃料残量が少ないときにも表示されますが、正確ではありません。

平均車速



リセット時点からの平均の車速を表示します。

平均車速のリセット方法

この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(60ページを参照)。

経過時間



イグニッションスイッチをオンにしている間に経過した時間を表示します。

アドバイス

- 値は“99:59”(99時間59分)までカウントされ、以降は固定されます。

経過時間のリセット方法

この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(60ページを参照)。

バッテリ電圧



現在のバッテリ電圧を表示します。

アドバイス

- 表示範囲は9.0 ~ 16.0 Vです。範囲外の場合は、最小値または最大値で固定されます。
- 表示される値は、他の電圧計で測定した値と異なる場合があります。

マルチファンクションディスプレイのリセット

下記の表示項目はリセットできます。

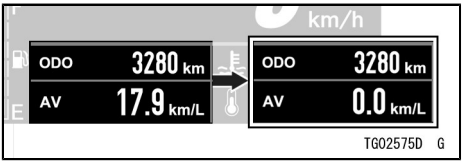
トリップメータA/B
最大リーン角
平均燃費
平均車速
経過時間

アドバイス

- リセットする項目の選択中に他のボタン（上 MODE、下 MODE、ミドル、SELECT）を押すと、キャンセルとなります。
- リセットする項目の選択中に5秒間ボタン操作がなければ、キャンセルとなります。

リセットできる項目がひとつ表示されている場合:

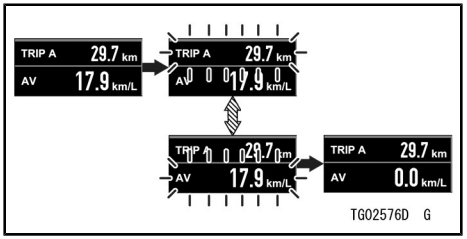
- 数値がリセットされるまでRESETボタンを押し続けます。



➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

リセットできる項目がふたつ表示されている場合:

- RESETボタンを長押しすると、表示項目が点滅し始めます。
- RESETボタンを押して表示項目を選択してください。点滅している項目がリセットされます。
- 数値がリセットされるまでRESETボタンを押し続けます。

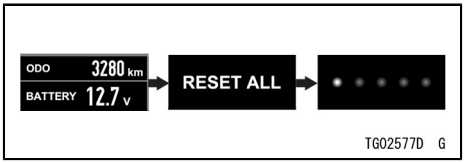


➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

リセットできる項目が表示されていない場合:

- RESETボタンを長押しすると、"RESET ALL"と表示されます。
- "RESET ALL"はリセットできるすべての項目をリセットします。RESETボタンを押し続けるとリセットが始まります。

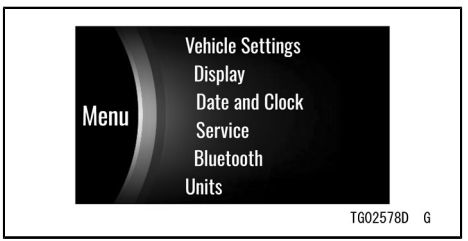


➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

アドバイス

○ リセット中にイグニションスイッチをオフにすれば、リセットは中止されます。

メニューモード



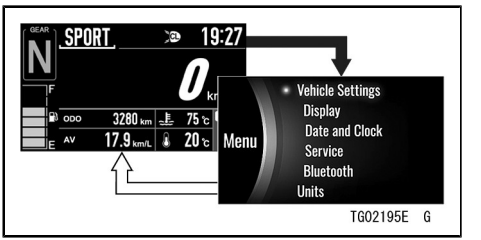
各種機能の設定変更ができます。

アドバイス

○ 車速が5 km/hを超えるとメニューモードは表示できません。

メニューモードの開始／終了方法

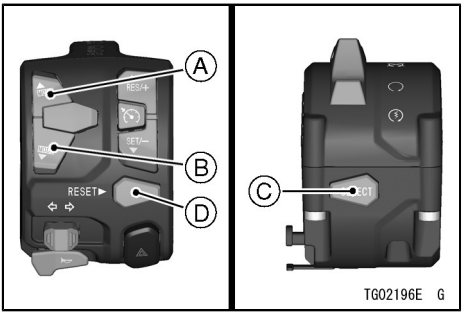
- SELECTボタンを押し続けると開始します。
- RESETボタンを押すと終了します。



➡ :SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

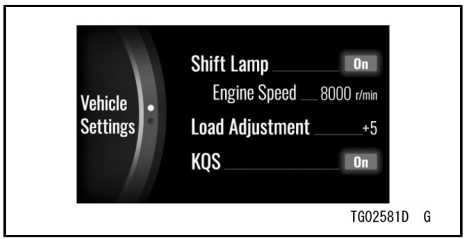
メニューモードの基本操作



A. 選択項目の移動
B. 選択項目の移動
C. 次の画面に進む（決定）
D. 前の画面に戻る（キャンセル）

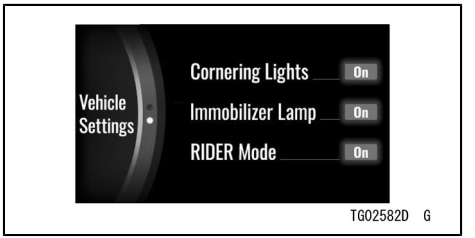
車両設定（Vehicle Settings）

画面 1 / 2



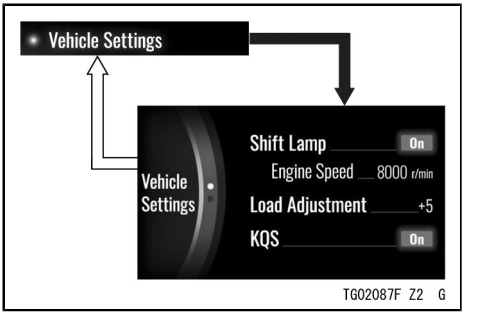
Shift Lamp：シフトアップインジケータのオン／オフ切替
Engine Speed：シフトアップインジケータ作動タイミングの設定
Load Adjustment：KECSプリロードモードの微調整
KQS：KQSのオン／オフ切替

画面 2 / 2



Cornering Lights：コーナリングライトのオン／オフ切替
Immobilizer Lamp：イモビライザ警告灯点滅モードのオン／オフ切替
RIDER Mode：ライダモードのオン／オフ切替

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って“Vehicle Settings”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。



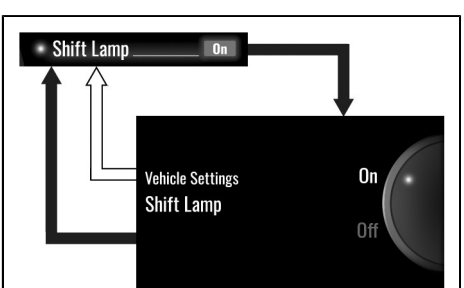
➡ ：SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ ：RESETボタンを押したときの切り替わり方

Shift Lamp

シフトアップインジケータのオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“Shift Lamp”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。

- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

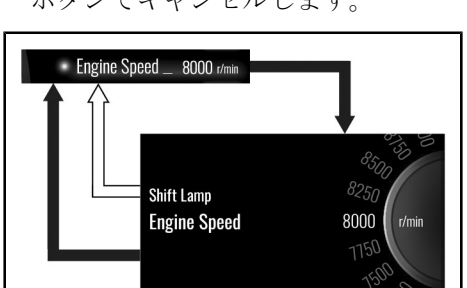
Engine Speed

シフトアップインジケータが作動するタイミングを設定します。

アドバイス

○ “Shift Lamp”の設定がオフのときは選択できなくなります。

- 上下のMODEボタンを使って“Engine Speed”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってエンジン回転速度を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

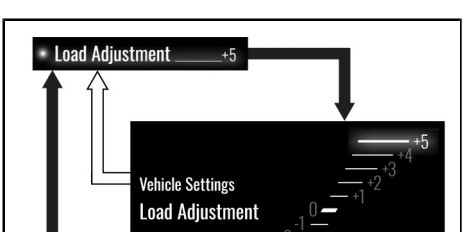


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Load Adjustment

KECSのプリロードセッティング値を±5段階の範囲で微調整します。

- 上下のMODEボタンを使って“Load Adjustment”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってプリロードセッティング値を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



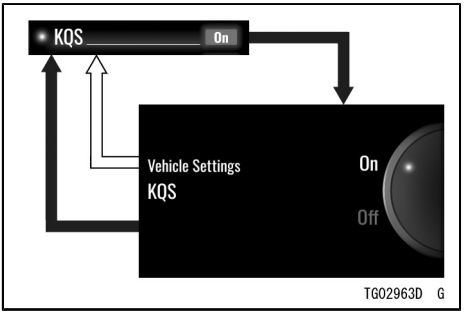
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

KQS

KQSのオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“KQS”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。

● SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

○ KQSの詳細は、「正しい運転操作」の項、「KQS」を参照してください(173ページを参照)。

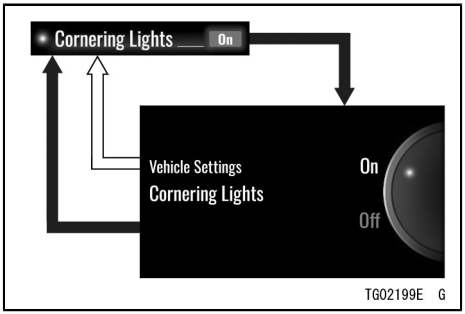
Cornering Lights

コーナリングライトのオン／オフを切り替えます。

アドバイス

○ エンジンを停止している間は選択できなくなります。

● 上下のMODEボタンを使って“Cornering Lights”を選択してください。
● SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
● 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
● SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

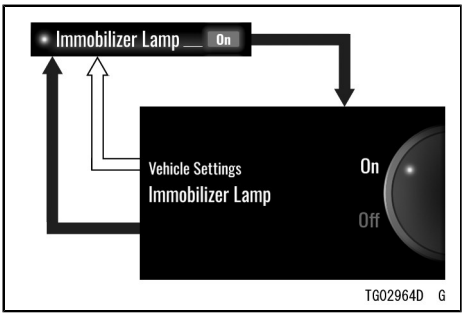


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Immobilizer Lamp

イモビライザ警告灯点滅モードのオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“Immobilizer Lamp”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

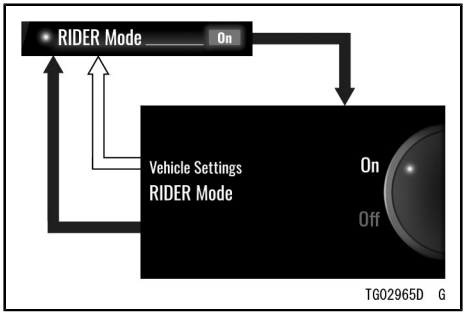
アドバイス

○ イモビライザ警告灯点滅モードの詳細については、「インジケータ」の項を参照してください(37ページを参照)。

RIDER Mode

ライダモードのオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“RIDER Mode”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

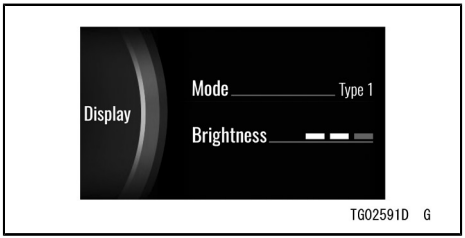


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

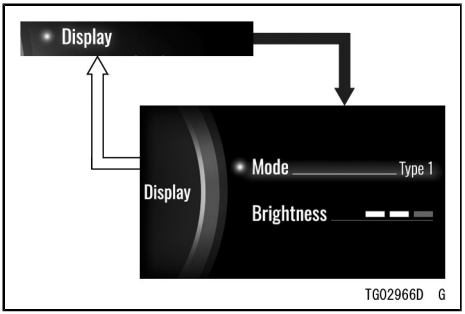
○ ライダモードの詳細は、「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください(156ページを参照)。

画面表示(Display)



Mode:画面レイアウトの切替
Brightness:画面の明るさの設定

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って"Display"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。



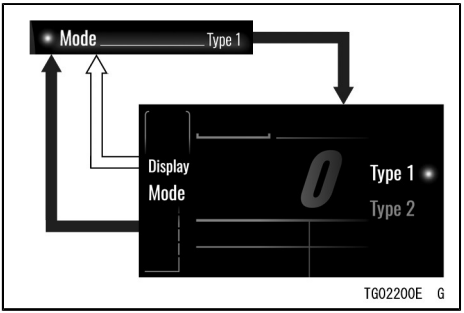
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Mode

画面の表示レイアウトを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って"Mode"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って表示タイプを選択してください。

- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

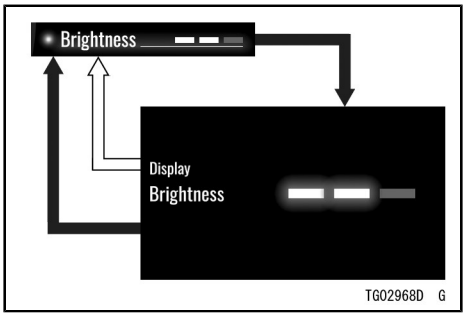


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Brightness

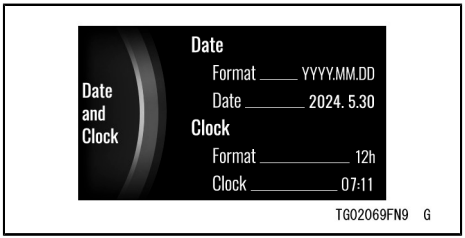
画面の明るさを3段階から選択します。

- 上下のMODEボタンを使って“Brightness”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って明るさを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



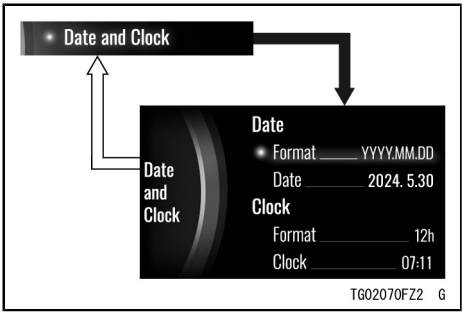
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

日付と時刻(Date and Clock)



Date:日付の設定
Clock:時刻の設定
Format:日付と時刻の表示方法の切替

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って"Date and Clock"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。



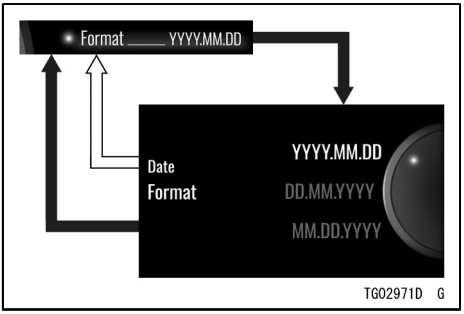
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Format (Date)

日付の表示方法を切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って"Date"側の"Format"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って表示方法を選択してください。

- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

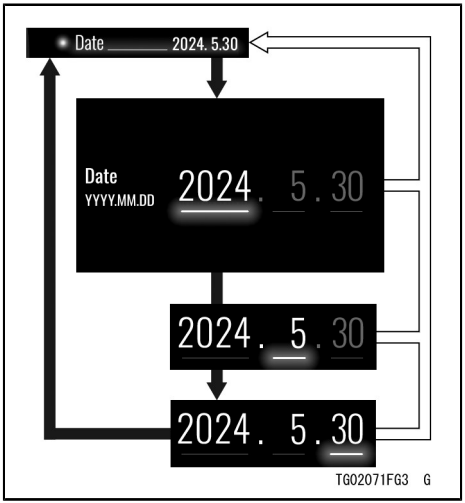


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Date

日付を設定します。

- 上下のMODEボタンを使って"Date"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って日付を設定してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

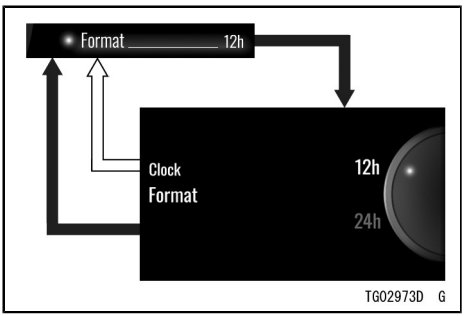


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Format (Clock)

時計の表示方法を切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“Clock”側の“Format”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って12時制か24時制かを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

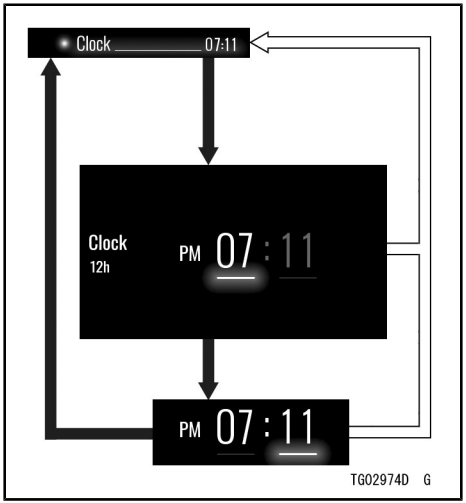


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Clock

時刻を設定します。

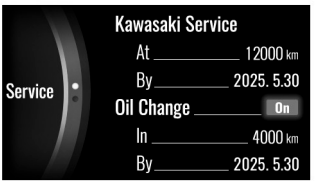
- 上下のMODEボタンを使って“Clock”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って時刻を設定してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ : SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

サービス(Service)

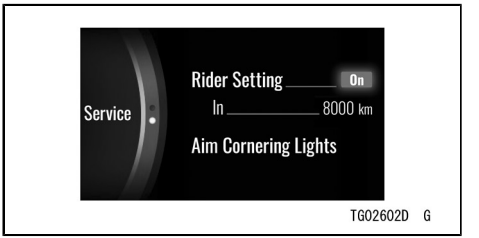
画面 1 / 2



Kawasaki Service:店舗で設定する定期点検用の項目(カワサキ正規取扱店で有効/無効の切替えが可能です)

Oil Change:ユーザーが設定するエンジンオイル交換用の項目(通知する距離と日付を設定できます)

画面 2 / 2



Rider Setting:ユーザーが設定するその他メンテナンス用の項目(通知する距離を設定できます)

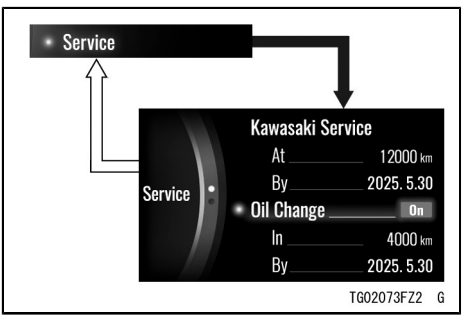
Aim Cornering Lights:光軸調整用にコーナリングライトを点灯させるモード(カワサキ正規取扱店が使用します)

アドバイス

- 無効になっている項目は選択できなくなります。
- 表示されている距離はサービスインジケータが表示されるまでの残りを示しており、走行距離に応じて減少していきます。

○ 設定した距離または日付に達した項目は、文字がオレンジ色に変わります。

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って“Service”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

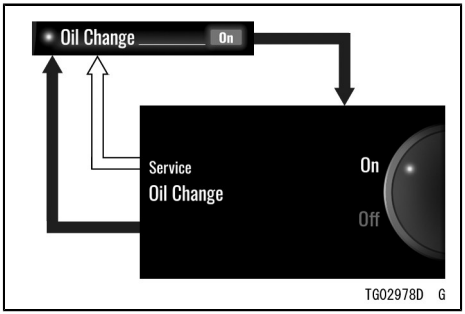


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Oil Change

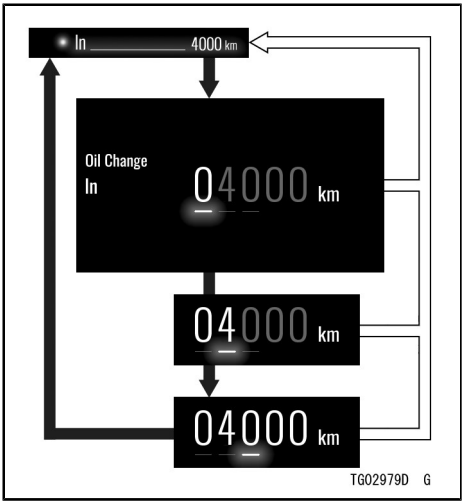
エンジンオイルについての通知のオン／オフを切り替えます。距離の設定が可能です。

- 上下のMODEボタンを使って“Oil Change”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 上下のMODEボタンを使って“Oil Change”の下にある“In”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って次に通知を行う距離を設定してください。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

○ 通知する日付は変更できません。通知をオンにしたとき、または距離を変

更したときに、自動的に1年後に設定されます。現在日が2024年5月30日の場合は2025年5月30日となります。

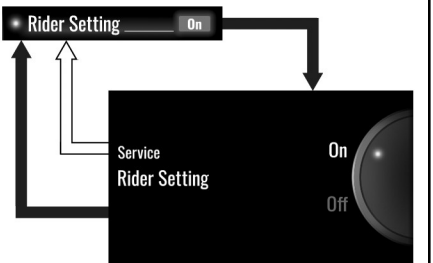


TG02074FZ1 G

Rider Setting

ユーザーが距離を設定できるメンテナンスの通知機能です。

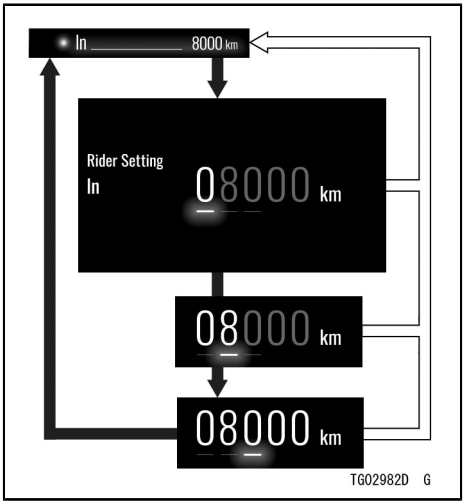
- 上下のMODEボタンを使って“Rider Setting”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



TG02981D G

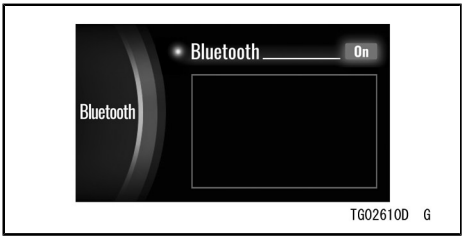
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 上下のMODEボタンを使って“Rider Setting”の下にある“In”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って次に通知を行う距離を設定してください。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

ブルートゥース®(Bluetooth)



Bluetooth:ブルートゥース機能のオン／オフ切替

アドバイス

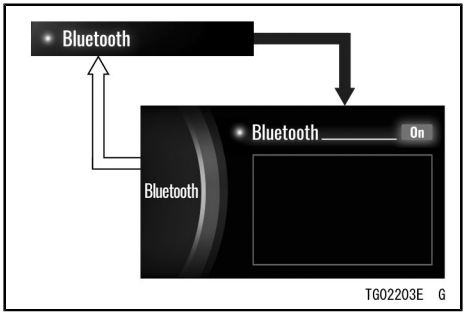
○ 車両とスマートデバイスとの接続には専用アプリ「RIDEOLOGY THE APP MOTORCYCLE」が必要です。

アプリのダウンロードおよびご利用方法

https://www.kawasaki-cp.khi.co.jp/kawasaki_connect/jp/mc.html

TG02048FZ1 S

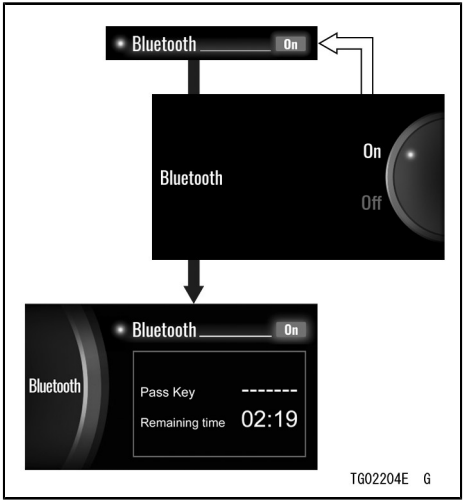
- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って“Bluetooth”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。オンにすると、車両はスマートデバイスの検索を開始します。

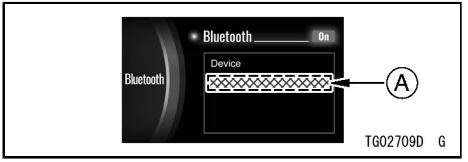
- スマートデバイスのブルートゥース機能をオンにして、専用アプリを起動してください。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

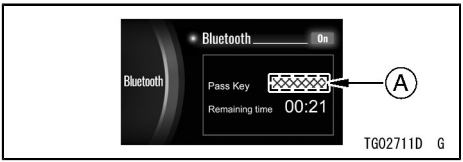
アドバイス

○ ペアリング済みの機器を検知すると自動的に接続を行います。



A. 接続した機器の名称

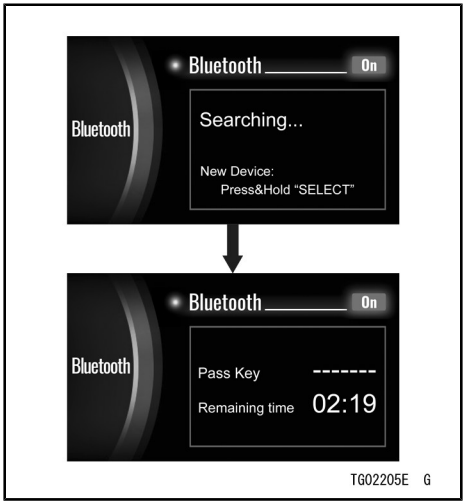
- 専用アプリのペアリング設定メニューでお客様の車両を選択し、「connect」ボタンをタップしてください。メータの画面にパスキー（PIN）が表示されます。
- スマートデバイスにパスキーを入力してください。



A. パスキー（PIN）

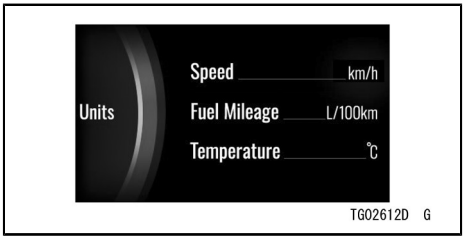
アドバイス

- ○ 車両が機器を検知しない場合は、機器をメータに近付けてください。
- ○ 他のスマートデバイスをペアリングさせたい場合は、メータのブルートゥース機能をオンにした後、SELECTボタンを長押しします。メータの画面に残り時間が表示されたら、アプリを操作してください。



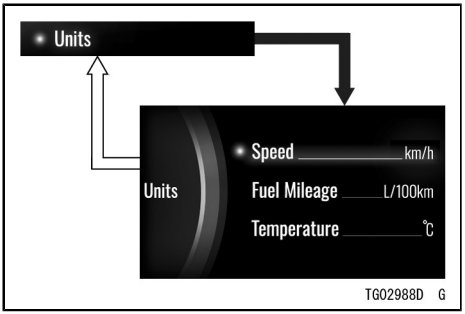
➡ :SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

表示単位(Units)



Speed:速度の単位の変更
Fuel Mileage:燃費の単位の変更
Temperature:温度の単位の変更

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って"Units"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。



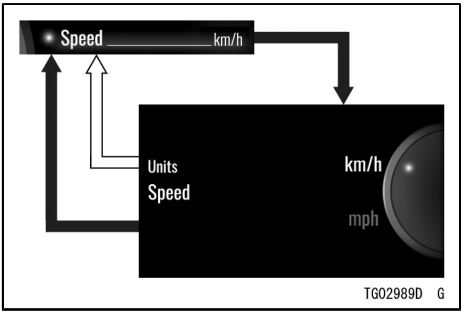
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Speed

速度の表示単位を切り替える項目です。

- 上下のMODEボタンを使って"Speed"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って"km/h"を選択してください。

● SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

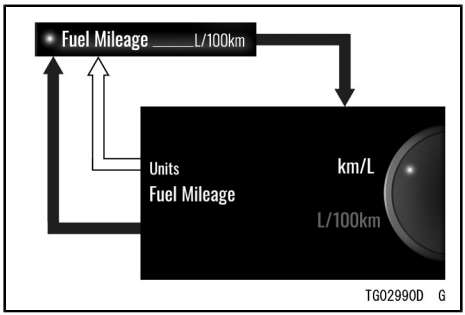


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Fuel Mileage

燃費の表示単位を切り替える項目です。

● 上下のMODEボタンを使って"Fuel Mileage"を選択してください。
● SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
● 上下のMODEボタンを使って表示単位を選択してください。
● SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

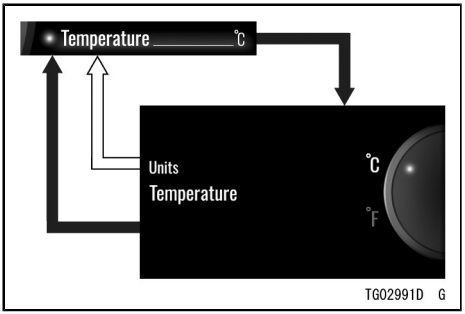
アドバイス

○ 選択肢は速度の表示単位に従って変化します。

Temperature

温度の表示単位を切り替える項目です。

- 上下のMODEボタンを使って“Temperature”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って“°C”を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

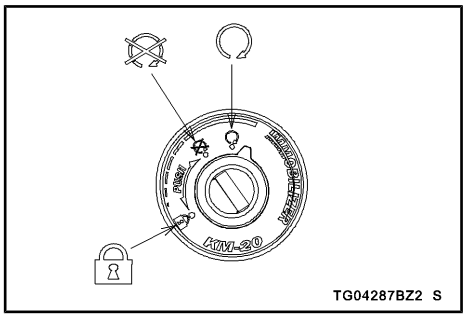


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

スイッチの使い方

イグニションスイッチ

イグニションスイッチは3段切換えです。キーを回してオン、オフ、ロックを切り替えます。



- **ON**
  - エンジンは始動し走行できる。
  - すべての電装部品が使用できる。
  - キーは**抜けない**。
- **OFF**
  - エンジンが停止する。
  - エンジンは始動できない。
  - 電気回路を遮断する。
  - キーは**抜ける**。
- **LOCK**
  - エンジンは始動できない。
  - 電気回路を遮断する。
  - ステアリングがロックされる。
  - キーは**抜ける**。

⚠ 警告

走行中にイグニションキーをオフやロックに操作すると電気系統の作動が停止し、負傷や死亡事故につながる可能性があります。イグニションキーは必ず停車中に操作してください。

アドバイス

○ イグニションスイッチをオンにしたとき、ヘッドライト、ポジションライト、テールライト、ライセンスプレートライトが点灯します。

⚠ 警告

- **イグニションスイッチをオンにしたまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

イモビライザシステム

この車は、電子的に車に登録されているイグニションキーを使用しないとエンジンが始動できないイモビライザシステムを装備しております。

この車専用に登録されている2本のイグニションキーでエンジンを始動することができます。1本は紛失しないように保管しておくことをおすすめします。

イグニションキーは最大5本まで登録することができます。新しくイグニションキーを追加されるときは、全てのイグニションキーをお車に添えてカワサキ正規取扱店にお申しつけください。

もし5本のイグニションキーを全て紛失された場合は、新しくイグニションキーを登録することができなくなりますので、ご注意ください。

⚠ 警告

キーの保護のために次の注意事項をお守りください。

- **リング等で他のキーをつなげないでください。**
- **水につけたり、高温にさらしたり、磁気を近づけたりしないようにしてください。**
- **キーの上に重い物を置かないようにしてください。**
- **キーを分解しないようにしてください。**
- **キーを落とすまたは、強い衝撃を与えないようにしてください。**
- **イグニションキーを紛失されたときは、ただちにカワサキ正規取扱店にご相談してください。イグニションキーを紛失した場合は残りのイグニションキーすべての再登録をお勧めいたします。**
- **全てのイグニションキーを紛失されたときは、ECUの交換と、新しいイグニションキーの登録が必要となります。**

登録された専用のイグニションキーでないと、エンジンは始動しません。エンジンの始動の際には、登録された専用のイグニションキーをご使用ください。

イグニションスイッチをオフにすると、警告インジケータが点滅し、イモビライザシステムが作動します。警告インジケータは24時間経過後に消えますが、イモビライザシステムは作動しています。

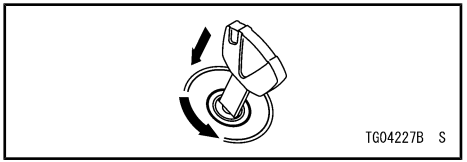
ステアリングロック

車から離れるときは、盗難予防のため必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけ方

- ハンドルを左にきります。
- ロックの位置にするときは、オフの位置でキーを押し込み、そのままロックの位置まで回します。



- ハンドルを軽く左右に動かし確実にロックされているか確認します。
- キーを抜きます。

⚠ 警告

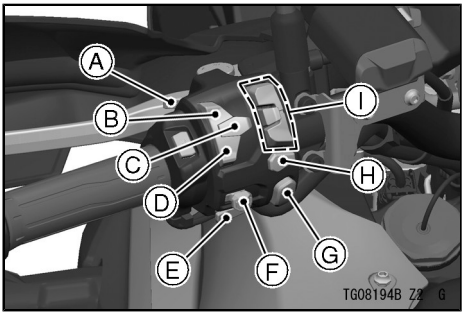
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

はずし方
- キーを差し込みます。
- キーをオフの位置まで回します。

⚠ 警告

ハンドルのきれ角が左右均等でないと、死亡または重大な傷害となる事故につながる可能性があります。走行前にハンドルを左右に動かして、ハンドルのきれ角が左右均等であることを確認してください。

左ハンドルスイッチ



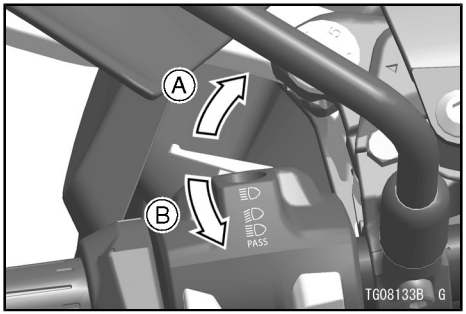
A. ディマ／パッシングボタン
B. 上MODEボタン
C. ミドルボタン
D. 下MODEボタン
E. ホーンボタン
F. ターンシグナルスイッチ
G. ハザードスイッチ
H. RESETボタン
I. クルーズコントロールボタン

ディマ／パッシングボタン

ヘッドライトの照射の上下切り替えは、ディマ／パッシングボタンで行います。ハイビーム（上向き）に切り替えると、メータのハイビームインジケータが点灯します。

ハイビーム（上向き）を使用するときは、ボタンを前方に押し出してください。ロービームに戻す場合は、ボタンを手前に引いてください。

他車に対して合図をするときは、ボタンを手前に引いてください。ボタンを手前に引いている間だけハイビームが点灯します。



A. (押す)ハイビーム点灯
B. (引く)ハイビーム消灯／パッシング

上向き	下向き	パッシング

アドバイス

○ ヘッドライト点灯時にレンズ部分を衣類等でさえぎらないでください。ヘッドライトの熱によりレンズ部が変色、溶損等を引き起こす可能性が有ります。また、さえぎった衣類等にも影響を及

ぼす可能性がありますので、行わないでください。

上MODEボタン／下MODEボタン

メータ表示やインテグレイテッドライディングモードの切り替え等に使用します。

メータ表示

- 「メータの見方、使い方」の章を参照してください。(31ページを参照)

インテグレイテッドライディングモード

- 「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください。(156ページを参照)

ミドルボタン

KECSプリロードモードの切り替えに使用します。

KECS

- 「正しい運転操作」の章、「KECS」の項を参照してください。(167ページを参照)

ターンシグナルスイッチ ⬅ ➡

右左折するときや進路を変更するときは、ターンシグナルで合図します。スイッチを左または右に入れると、メータユニットのターンシグナルインジケータが、ターンシグナルライトと共に点滅します。

⬅ 左折　　➡ 右折

⚠ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ずスイッチを操作して解除してください。つけたままにしておくと他の方の判断を誤らせて事故をまねく可能性があります。

ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正常に作動しないときは、ホーンが故障しています。

アドバイス

○ 必要なとき以外は使用しないでください。

ハザードスイッチ

路肩で緊急停車するときは、ハザードライトで他の運転者に停車していることを警告します。

イグニションスイッチをオンにしてハザードスイッチを押すと、ターンシグナルインジケータとすべてのターンシグナルライトが点滅します。

アドバイス

○ ハザードスイッチを長時間使用すると、バッテリが上がる原因になるため、ハザードスイッチは長時間使用しないでください。

RESETボタン

メータ表示

● 「メータの見方、使い方」の章を参照してください(31ページを参照)。

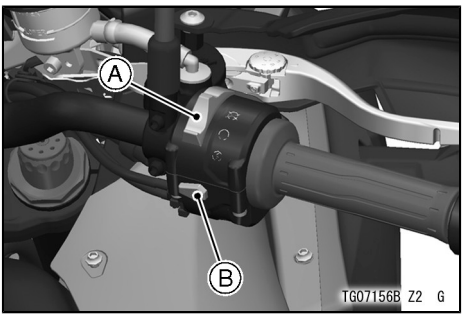
クルーズコントロールボタン

クルーズコントロールシステムの操作に使用します。

クルーズコントロールの設定

- 「正しい運転操作」の章、「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください。(169ページを参照)

右ハンドルスイッチ



A. エンジンスタート／ストップスイッチ
B. SELECTボタン

アドバイス

○ 右ハンドルスイッチに磁石を近づけないでください。スロットルセンサに影響を与える可能性があります。

エンジンスタート／ストップスイッチ

エンジンを始動する手順については、「正しい運転操作」の章、「エンジンのかけ方」の項を参照してください。
(143ページを参照)

注意

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

非常時にエンジンを停止するには、エンジンスタート／ストップスイッチを ⊠ の位置にします。

通常、車を作動させるためには、エンジンスタート／ストップスイッチを ☊ の位置にしなければなりません。

アドバイス

○ エンジンストップスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなどの非常時にエンジンを停止させるために使用します。
○ 通常、エンジンを停止するときは、イグニションスイッチを使用します。

注意

- **エンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合は、すぐにイグニションスイッチをオフにしてください。オンのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。**
- **走行中にエンジンストップスイッチを ☊ → ⊠ → ☊ にするとエンジン回転が円滑に作動しなくなり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**

SELECTボタン

メータ表示

- 「メータの見方、使い方」の章を参照してください(31ページを参照)。

各部の取り扱い方

サイドスタンド

この車にはサイドスタンドがあります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが下りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。

アドバイス

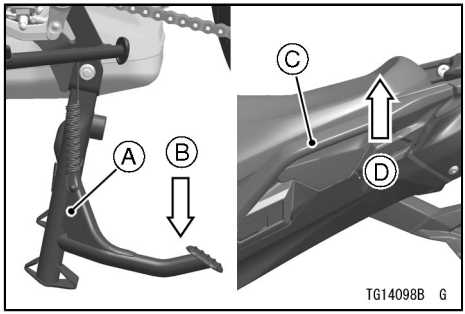
- サイドスタンドを使用するときは、ハンドルを必ず左にきってください。
- 車から離れる前にサイドスタンドが確実にセットされているか確認してください。

センタスタンド

センタスタンドを使用する場合、スタンドの上にしっかりと右足を置き、グラブレールを持って、右足に全体重をかけると同時に車を矢印の方向に持ち上げます。

アドバイス

- センタスタンドを使用するときにシートを持って車を持ち上げるとシートに損傷を与えますので、必ずグラブレールを持って車を持ち上げるようにしてください。



A. センタスタンド
B. 踏み降ろす
C. グラブレール
D. 持ち上げる

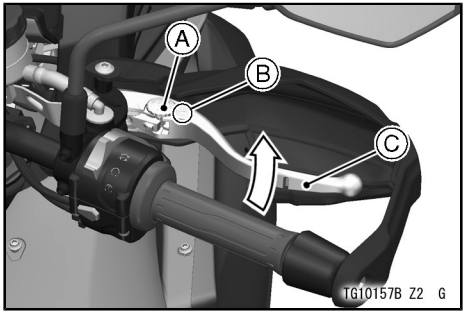
ブレーキレバーアジャスタ

ブレーキレバーとグリップの距離をお好みの位置に調整できます。

- レバーを前方に押しながらアジャスタを回して、アジャスタの番号をレバーのマークに合わせ、レバーを放します。

[ブレーキレバーの位置調整]

アジャスタの位置：					
1	2	3	4	5	6
レバーとグリップの距離：					
遠い		←→		近い	



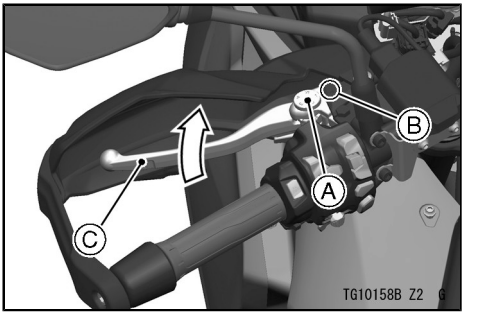
A. アジャスタ
B. マーク
C. ブレーキレバー

クラッチレバーアジャスタ

クラッチレバーとグリップの距離をお好みの位置に調整できます。

[クラッチレバーの位置調整]

アジャスタの位置：				
1	2	3	4	5
レバーとグリップの距離：				
遠い		←→		近い



A. アジャスタ
B. マーク
C. クラッチレバー

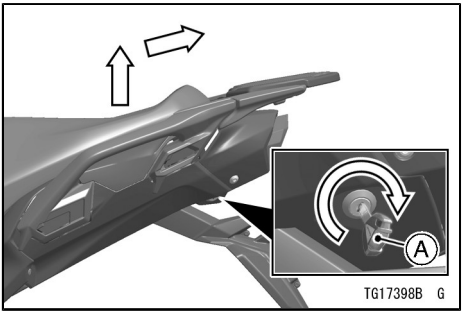
シート

シートはキーを使って取り外すことができます。

シートの取り外し

- シートロックにキーを差し込みます。
- キーを時計回りに回し、シートの後側を引き上げます。

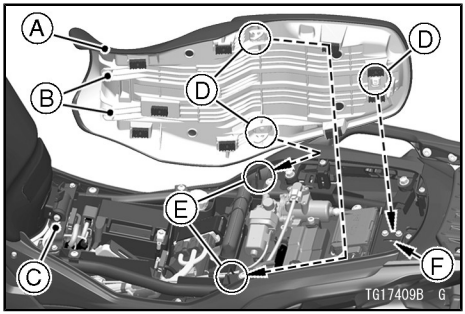
- シートを後方へ取り外します。
- キーを抜き取ります。



A. イグニションキー

シートの取り付け

- シートの前側にあるタブを燃料タンクブラケットの下に差し込みます。
- シート中央のフックをフレームのガイドに引っ掛けます。
- シートの後側にあるフックを車体のラッチ穴に差し込みます。



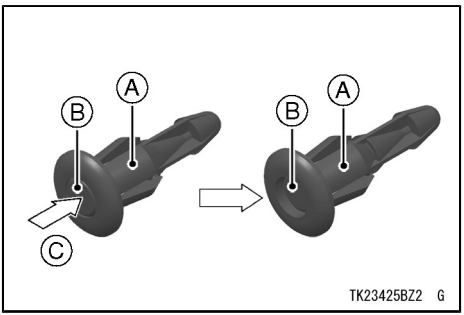
A. シート
B. タブ
C. 燃料タンクブラケット
D. フック
E. ガイド
F. ラッチ穴

- シートの後側を上から押してロックします。
- シートの前後を引き上げて確実にロックされていることを確認します。

アウタミドルカウリング

クイックリベット(ピンタイプ)の取り外し

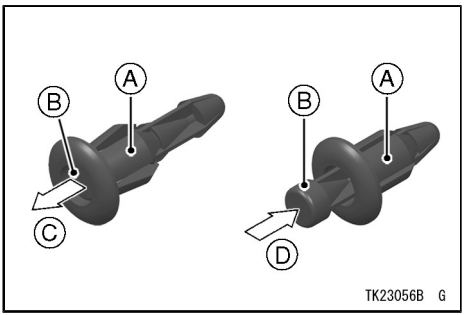
- 中央のピンを押し込んで取り外します。



A. クイックリベット(ピンタイプ)
B. 中央のピン
C. 押し込む

クイックリベット(ピンタイプ)取りつけ

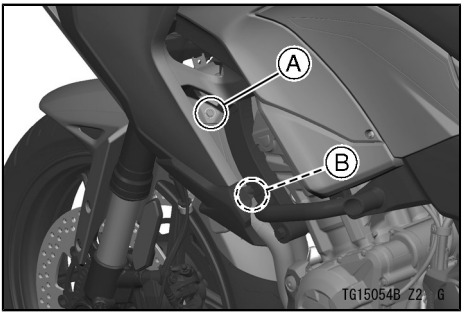
- 中央のピンをいっぱいまで引き出し、カウリングの穴にリベットを差し込み、中央のピンを確実に押し込みます。



A. クイックリベット(ピンタイプ)
B. 中央のピン
C. いっぱいまで引き出す
D. 押し込む

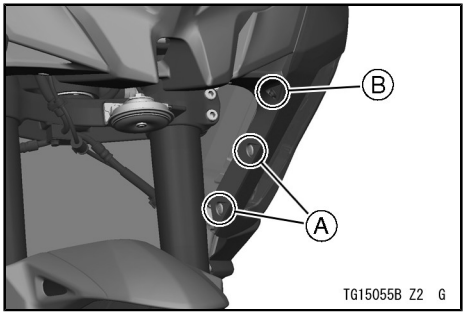
左アウタミドルカウリングの取り外し

- ボルトおよびカラーを取り外します。



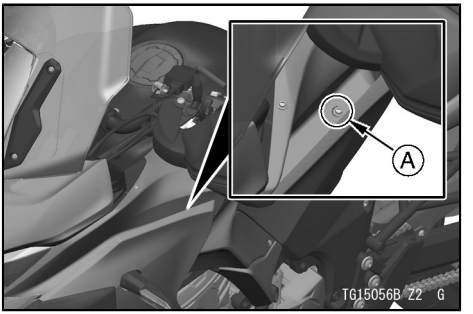
A. ボルトおよびカラー
B. ボルト

- クイックリベットおよびボルトを取り外します。



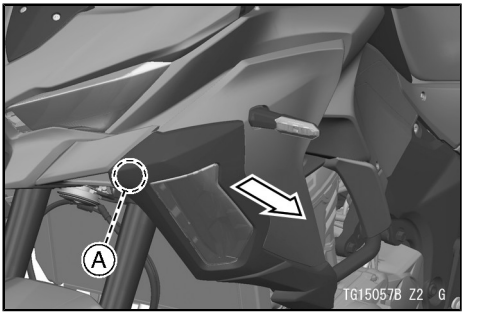
A. クイックリベット
B. ボルト

- ボルトおよびワッシャを取り外します。



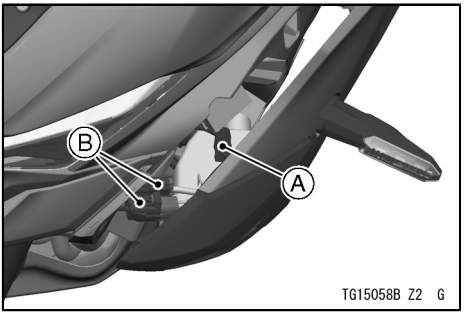
A. ボルトおよびワッシャ

- 左アウタミドルカウリングを外側に引いて、突起部をはずします。



A. 突起部

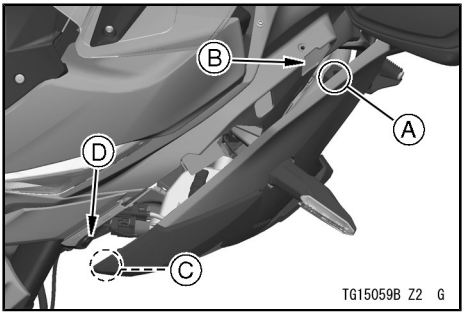
- フロント左ターンシグナルライトコネクタをはずします。
- 左コーナリングライトコネクタをはずします。
- 左アウタミドルカウリングを取り外します。



A. フロント左ターンシグナルライトコネクタ
B. 左コーナリングライトコネクタ

左アウタミドルカウリングの取り付け

- フロント左ターンシグナルライトコネクタを接続します。
- 左コーナリングライトコネクタを接続します。
- ボスを穴に差し込みます。
- 突起部をグロメットに差し込みます。

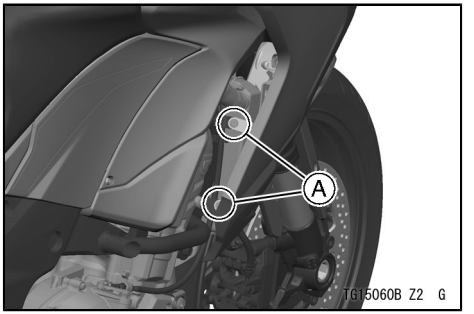


A. ボス
B. 穴
C. 突起部
D. グロメット

- 取り外した部品を取り付けます。

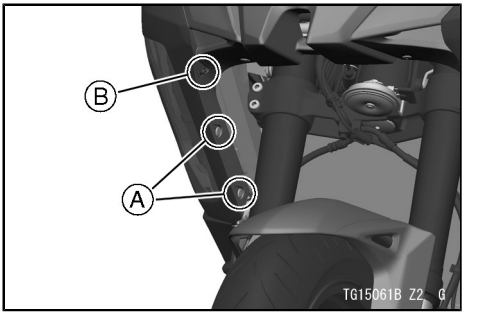
右アウタミドルカウリングの取り外し

- ボルトを取り外します。



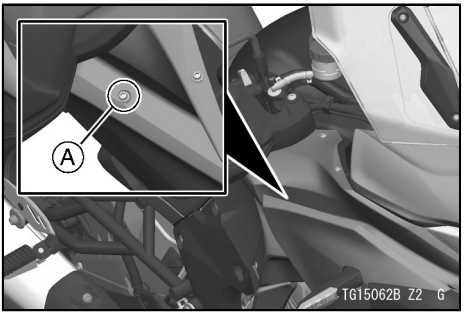
A. ボルト

- クイックリベットおよびボルトを取り外します。



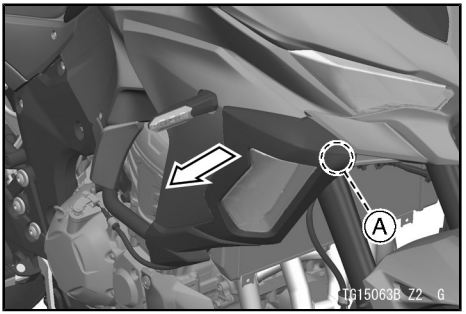
A. クイックリベット
B. ボルト

- ボルトおよびワッシャを取り外します。



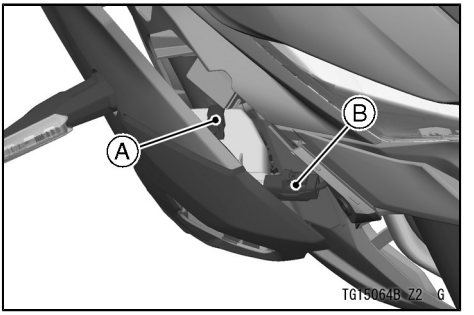
A. ボルトおよびワッシャ

- 右アウタミドルカウリングを外側に引いて、突起部をはずします。



A. 突起部

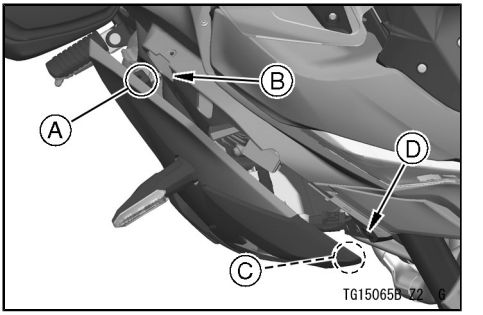
- フロント右ターンシグナルライトコネクタをはずします。
- 右コーナリングライトコネクタをはずします。
- 右アウタミドルカウリングを取り外します。



A. フロント右ターンシグナルライトコネクタ
B. 右コーナリングライトコネクタ

右アウタミドルカウリングの取り付け

- フロント右ターンシグナルライトコネクタを接続します。
- 右コーナリングライトコネクタを接続します。
- ボスを穴に差し込みます。
- 突起部をグロメットに差し込みます。



A. ボス
B. 穴
C. 突起部
D. グロメット

- 取り外した部品を取り付けます。

バックミラー

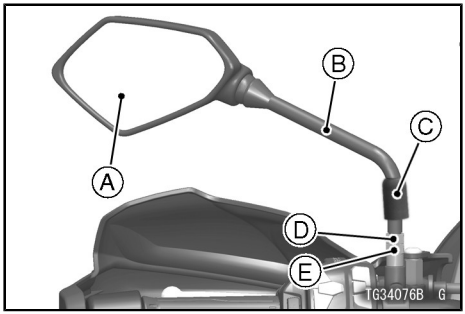
乗車位置から後方の安全を充分確認できる位置にミラーを合わせます。

バックミラーの調整の仕方

- ミラー部を動かして微調整をします。
- ミラー部で充分に調整できない場合は、ダストカバーをずらしてステー取り付け部の上側ナット部をゆるめ、ステーを手で回して調整してください。

注意

ロックナットとステー取り付け部分は左ねじを使用しているので、回転方向を間違わないようにしてください。反対方向に回すとねじを傷めて使用不能になる可能性があります。



A. バックミラー
B. ステー
C. ダストカバー
D. 上側ナット部
E. 下側ナット部

- 調整後、ステーを押さえて、規定トルクでナットを締め付けます。

締め付けトルク

下側ナット部： 30 N·m (3.1 kgf·m)
上側ナット部： 18 N·m (1.8 kgf·m)

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

グリップヒータ

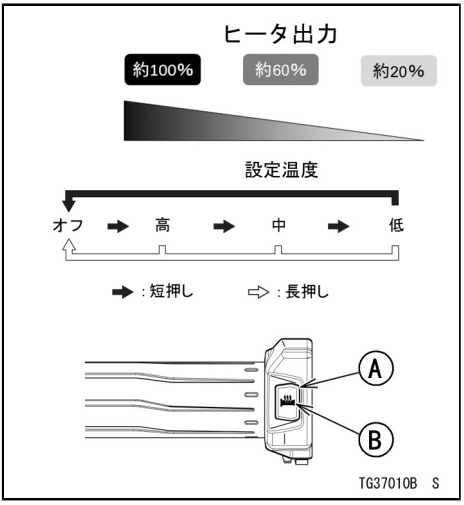
この車は、温度調整が可能なグリップヒータを装備しています。

⚠ 警告

- **走行中にグリップヒータスイッチの操作は行わないでください。ボタン操作に気をとられると、思わぬ事故を招く危険性があります。**
- **やけどする危険性がありますので、グリップヒータを使用するときは必ず手袋を着用してください。**
- **グリップが損傷したまま使用するとやけどする危険性がありますので、新しいものと交換してください。**

グリップヒータの操作方法

- グリップヒータスイッチを押すと、図のようにオン／オフの切り替えや設定温度の変更ができます。



A. グリップヒータスイッチ
B. インジケータ

- グリップヒータの作動状態や設定温度をインジケータで確認してください。

状態／温度	インジケータ
オフ	消灯*
高	3回点滅を5回繰り返した後、点灯
中	2回点滅を5回繰り返した後、点灯
低	1回点滅を5回繰り返した後、点灯

*：バッテリ電圧低下時は点滅します。

アドバイス

- **イグニションスイッチをオフにすると、グリップヒータもオフになります。**
- **イグニションスイッチをオンにしたときにインジケータが点滅した場合は、バッテリ電圧が低下していますので、バッテリの充電を行ってください。充電後も点滅が止まらない場合は、グリップヒータが故障している可能性がありますので、交換してください。**

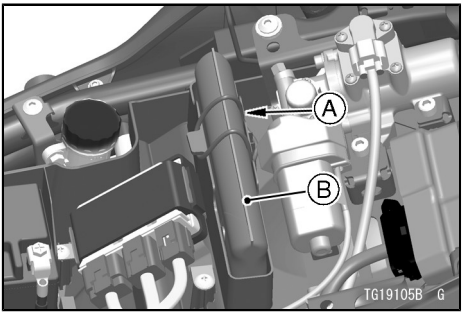
○ グリップヒータの使用中にバッテリ電圧が低下すると、グリップヒータはオフになりインジケータが点滅します。高速走行などで電圧が回復してもインジケータは点滅し続けますので、スイッチを押して一度オフにしてください。バッテリ電圧が回復していれば、グリップヒータは再度オンにできます。
○ グリップの温度は外気温に比例します。暖かい日に高温で使用することは避けてください。

注意

- **エンジンを始動させない状態またはアイドリング状態で長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。**
- **高圧洗浄機を使用しての洗車はグリップヒータの故障となるので行わないでください。**
- **グリップヒータが正常に作動しない場合は、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

ツールキット

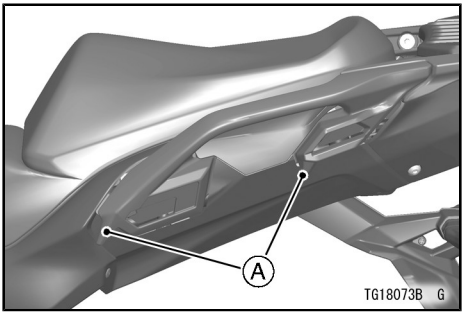
ツールキットはシートの下側にあります。整備や調整などに使用しますので、常備してください。



A. バンド
B. ツールキット

荷掛けフック

シートとキャリアに軽い荷物を結びつける場合、グラブレールにある左右の荷掛けフックを使用してください。



A. 荷掛けフック

ヘルメットロック

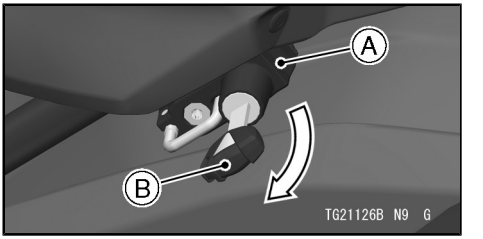
この車には、ヘルメットをかけるためのヘルメットロックが車体の左側に装備されています。

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットロックにつけた状態で走行すると、走行の妨げになり事故につながる危険性があります。また、ヘルメットに損傷を与え機能を低下させる可能性があります。ヘルメットをヘルメットロックにつけたまま走行しないでください。

ヘルメットロックの使い方

- ヘルメットロックにキーを差し込み、キーを時計回りに回してロックをはずします。
- ヘルメットロックのフックにヘルメットの金具をかけます。
- フックを閉じてキーを抜きます。



A. ヘルメットロック
B. イグニションキー

アドバイス

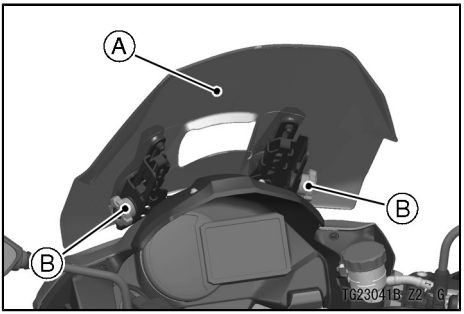
○ **ヘルメットロックは、常にロックした状態にしておいてください。**

ウインドシールド

ウインドシールドの高さは、お好みによって約45 mm調整することができます。

調整方法

- ウインドシールド調整ノブをゆるめます。

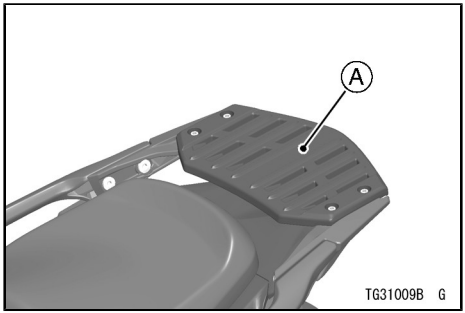


A. ウインドシールド
B. ウインドシールド調整ノブ

- ウインドシールドの高さを調整します。
- ウインドシールド調整ノブを締め付けます。
- ウインドシールドが確実に固定されていることを確認してください。

リヤキャリア

車両後方にキャリアが装備されています。



A. リヤキャリア

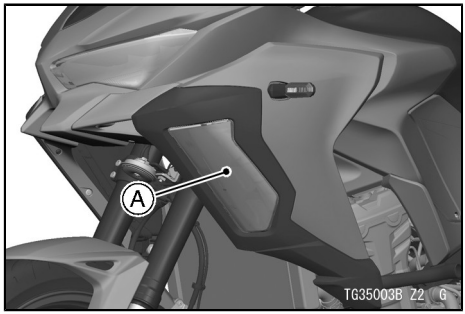
⚠ 警告

- **荷物の積みすぎや左右の積載荷重が偏っていると、車の走行安定性を失い、負傷や死亡にいたる事故につながる可能性があります。リヤキャリアの積載荷重は6 kgを超えないようにし、左右の荷重がほぼ等しくなるように荷物を積載してください。**
- **運転者、同乗者、荷物、アクセサリを含めた積載荷重は220 kgを超えないようにし、同乗者や荷物を積んだ場合は時速130 km以上は出してはいけません。また、事故や走行安定性を失わないように路面状況、雨降りなど、状況に応じてスピードを調整してください。**

コーナリングライト

コーナリングライトは、旋回時にカーブに沿って道を照らす補助ライトです。車両が左右に傾いたときに、その角度に従ってLEDが3段階に点灯します。

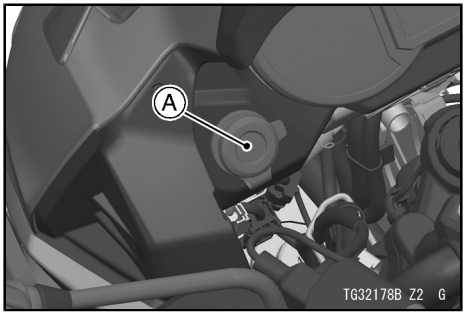
コーナリングライトはメニューモードでオン／オフの切り替えができます。「メータの見方、使い方」の章、「メニューモード」の項を参照してください。(67ページを参照)



A. コーナリングライト

DC電源ソケット

DC電源ソケットからバッテリ電源を取り出すことができます。以下の注意事項に従ってご使用ください。



A. DC電源ソケット

注意

- **ソケットにアクセサリを接続するときは、アクセサリ部品またはリード線がハンドル操作を妨げないようにしてください。**

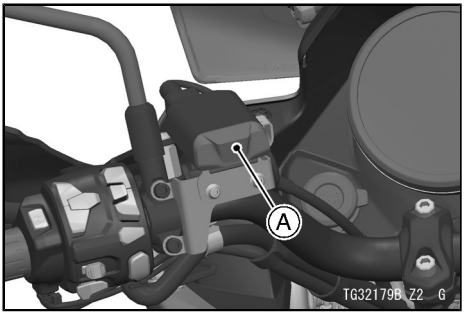
注意

- **ソケットに防水型でないアクセサリを接続している場合は、雨天時の走行や洗車はしないでください。配線がショートして故障の原因となります。**
- **アクセサリを使用しないときには、必ずソケットにキャップを取り付けてください。**

- 他のアクセサリを併用するときは、アクセサリ用回路の定格ヒューズと許容電力を確認してください(119ページを参照)。

USBソケット

USBソケットからバッテリ電源を取り出すことができます。以下の注意事項に従ってご使用ください。



A. USBソケット

注意

- **ソケットにアクセサリを接続するときは、アクセサリ部品またはリード線がハンドル操作を妨げないようにしてください。**

注意

- **ソケットにアクセサリを接続している際は、雨天時の走行や洗車はしないでください。USB端子が腐食し、充電ができなくなる可能性があります。もしソケットを濡らしてしまった場合は、イグニションスイッチをオフにした状態で十分に乾燥したのち、使用してください。**
- **携帯電話端末以外の充電、給電に使用した場合、正常に動作しないことがあります。**
- **アクセサリを接続しないときは、必ずキャップを取り付けてください。**

⚠ 警告

- **動作中はUSBソケット表面が熱くなります。やけどの可能性があるため、充電中、充電直後はUSBソケットに触らないようにしてください。**
- **USB端子に5.5 V以上の電圧を加えないでください。USBソケットの故障および発煙、発火の可能性があります。**

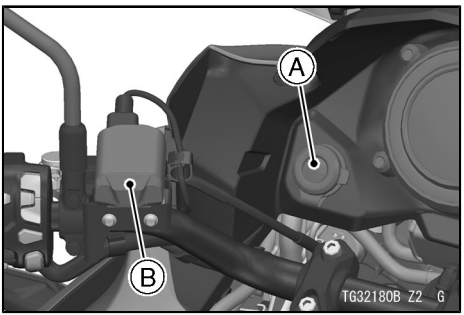
- 他のアクセサリを併用するときは、アクセサリ用回路の定格ヒューズと許容電力を確認してください(119ページを参照)。

アクセサリコネクタ

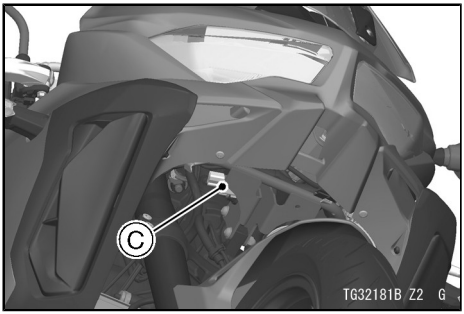
アクセサリコネクタからバッテリ電源を取り出すことができます。以下の注意事項に従ってご使用ください。

アドバイス

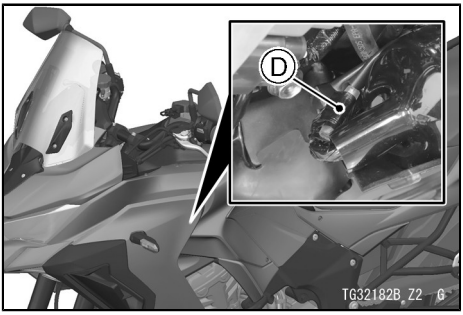
○ 専用のリレーが必要となる場合があります。アクセサリコネクタをご使用になる際は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. DC電源ソケット
B. USBソケット



C. フォグライト用（ヘッドライト裏）



D. アクセサリ用(左インナミドルカウリング裏)

用途:	許容電力:
A. DC電源ソケット	40 W
B. USBソケット	18 W
C. フォグライト用	16 W
D. アクセサリ用	---W
許容電力合計: 74 W	
定格ヒューズ: 15 A	

注意

- **アクセサリ用回路には必ず定格のヒューズを使用してください。**
- **このアクセサリ用回路には許容以上の負荷をかけないでください。負荷が大きくなると、エンジンをかけていてもバッテリが放電してしまう可能性があります。**

ETCの取り扱い方

ETCとは

- ETC（Electronic Toll Collection）とは、有料道路（高速道路）において料金所の通過をスムーズに行うため、無線通信を用いて利用料金を自動精算するシステムです。

ETC2.0の情報提供サービス

- ETC2.0は、道路側のITS（高度道路交通システム）スポットアンテナと無線通信することで、ITSスポットから発信されている交通情報（安全運転支援情報、渋滞回避支援情報、災害時支援情報など）を受け取ることができます。本モデルでは、受け取った交通情報をメータユニットのETCインジケータでお知らせします。

ETCを利用するには

- ETCを利用するには、事前にETCカードの取得が必要です。お客様ご自身によりクレジットカード会社等へお申込みください。
- すでにETCカードを所有している場合は、車種を問わずにご利用いただけます。
- 車両の情報を車載器に登録するため、ご利用前にセットアップが必要です。詳しくはカワサキ正規取扱店にご相談ください。
- ナンバープレートが変更になった場合等には、再セットアップが必要です。

ETC利用上の注意

- ETCシステムを安全に使用していただくため、ご利用前に必ず以下の事

項をお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。
- ETCカードを挿入する前に、車載器本体のカードソケット、ETCカードのコンタクト面に汚れ、濡れが無いことをご確認ください。
- 汚れや濡れがあると接触不良を起こし、車載器の故障の原因となります。汚れや濡れがあった場合は、柔らかい乾いた布等で取り除いてください。
- ETCカードの出し入れは雨等に濡れない場所で行ってください。
- 車載器のアンテナ周辺を物などで遮らないでください。
- アンテナの位置は「各部の名称」の章を参照してください。(26ページを参照)
- 車載器は二輪車専用ですので、四輪車には使用できません。
- 乗車前にETCカードを車載器に確実に挿入し、正常に作動することを確認してください。
- ETCカードの有効期限をあらかじめご確認ください。
- 有効期限切れのETCカードを車載器に挿入した場合でも、車載器はカードを正常に認証しますが、料金所の開閉バーは開かず利用料金の自動精算も行えません。
- 盗難防止のため、車両から離れる際はETCカードを車載器から取り出してください。
- ETCカードを車載器に挿入したまま放置すると、カードが高温で変形し、車載器が正常に作動しなくなる場合があります。また、ETCカードに強い力を加えることもカード変形の原因となりますので、取り扱いにはご注意ください。
- ETCカードの取扱いは、ご契約された発行会社の注意事項に従ってください。
- 車載器管理番号は、お持ちの車載器に記載されている19桁の固有の番号で、ETCの各種割引サービスを受け

る場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。

- 車載器を他の車両に載せ換える場合や、住所変更等により車両の登録住所が変更となり、ナンバープレートを変更する場合には車載器への車両情報の再登録が必要になります。再登録する場合にはカワサキ正規取扱店へご相談ください。

⚠ 警告

ETC車載器の取り扱いを誤ると、火災や感電による負傷や、死亡事故につながる危険性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- **ご自身での車載器の載せ替え等は絶対に行わないでください。取り付け方法を誤る可能性があります。**
- **ETCアンテナの周辺に物を置いたり、周囲を塞がないでください。料金所通行時に通信エラーとなり、開閉バーが開かない可能性があります。**

注意

ETC車載器の取り扱いを誤ると、破損、故障、誤作動の原因となる可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- 分解や改造を行わないでください。不法改造により法律で罰せられます。
- 車載器の上に荷物を載せるなど、圧迫しないでください。
- 車載器内部へ水、金属などの異物が混入した場合や異常に高温となった場合、または異臭や煙が出ている場合などは、イグニションスイッチをオフにして、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

注意

ETC車載器の取り扱いを誤ると、破損、故障、誤作動の原因となる可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- 分解や改造を行わないでください。不法改造により法律で罰せられます。
- 車載器の上に荷物を載せるなど、圧迫しないでください。
- 車載器内部へ水、金属などの異物が混入した場合や異常に高温となった場合、または異臭や煙が出ている場合などは、メインスイッチをオフにして、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

- 料金所では、案内板等により、ETCが利用可能であることを確認し、ETCレーンでは路面表示に従って走行してください。
- ETCレーンには、十分な車間距離をとり、20km/h以下に減速して進入し、徐行して通行してください。ETCレーンでの並走、追い抜き、車群走行は禁止です。
- ETCレーンを走行中に開閉バーが開かなかった場合は、路側表示が停車と出る場合もありますが、後続車による追突防止のため、後退や停車をせず、開閉バーを避けてETCレーンから退避し、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
- 有料道路の入口料金所から出口料金所を出るまでは、同一のETCカードを継続して使用してください。ETCカードには、通行料金の計算に必要な情報が記録されます。異なるETCカードを使用すると料金が正しく計算されない場合があります。
- 一部の料金所では、左側のETCレーンの利用を推奨しています。対象となる料金所では、「ETC 二輪 左へ」等の案内板が設置されています。
- 通信エラー等により、入口料金所のETCレーンで通行券を受け取られた場合は、出口料金所でのお支払いは係員のいるレーンで一旦停止し、ETCカードと通行券を係員にお渡しください。清算機のあるレーンでは、インターホン等で係員を呼び出してください。
- ETCを利用して入口料金所を通過した場合で、出口料金所でETCレーンが利用できないとき、あるいは設置されていないときは、一旦停止してETCカードを係員にお渡しください。
- 点検等によりETCレーンが閉鎖されている場合は、係員のいるレーンでETCカードでの支払いが可能です。

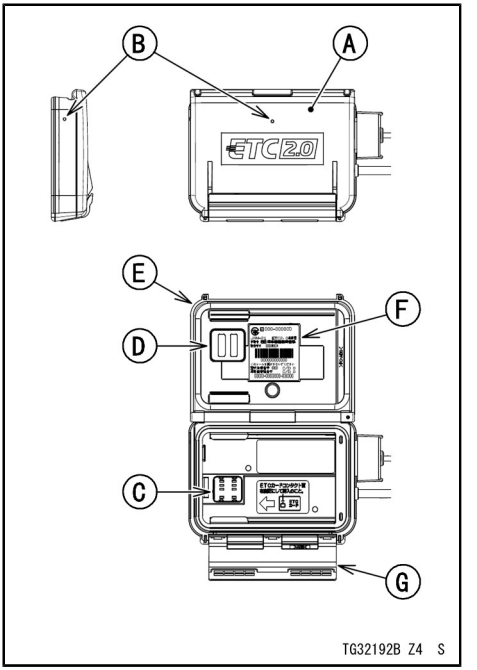
- ETCシステムのご利用方法、通行方法、制限事項等については、「ETCシステム利用規定」をご覧ください。

https://www.go-etc.jp/

TG32165BZ1 S

車載器各部の名称

A. ETC車載器本体
B. 呼吸穴
C. カードソケット
D. 耐振ゴム
E. カバー
F. 銘版
G. バックル



(A)ETC車載器本体
ETCカードを装着させ、路側アンテナとの通信の制御を行います。

(B)呼吸穴
ケース内の気圧を調整し、防水性を保ちます。防水性の低下およびカバーが開かなくなる可能性があるため、呼吸穴は塞がないでください。

(C)カードソケット
ETCカードとの通信を行います。

(D)耐振ゴム
ETCカードとカードソケットの接触を保持します。カード認証ができなくなったり、カード破損の原因となるため、耐振ゴムは剥がさないでください。

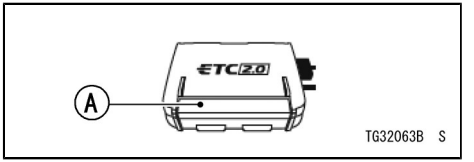
(E)カバー
ETCカード着脱時に開閉します。

(F)銘版
型式、製造年月日、技適番号、車載器管理番号等が記載されています。認証機器としての証明ですので、銘版は剥がさないでください。

(G)バックル
カバー開閉時に付け外しします。車載器の使用/不使用に関わらず、常にロックしてください。

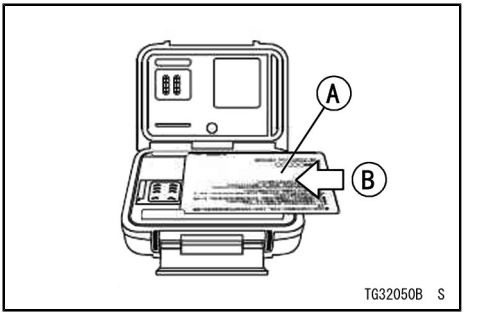
ETCカードの挿入

- バックルを外し、車載器本体のカバーを開いてください。



A. バックル

- ETCカードの端子面と車載器本体のカードソケットが接触するようにスライドさせて突き当たるまで挿入してください。

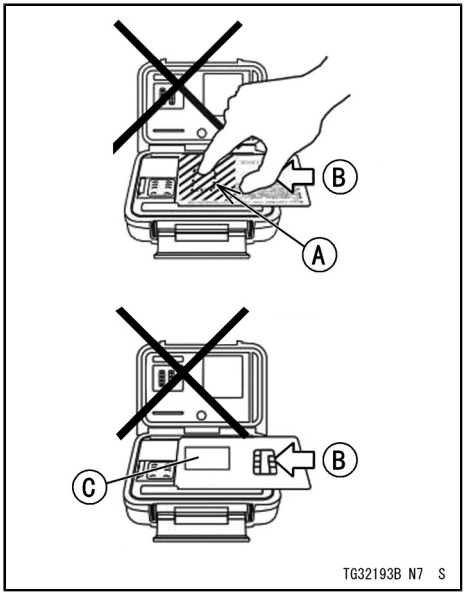


A. ETCカード
B. 挿入方向

- カバーを閉じ、バックルでカバーを固定します。
- イグニションスイッチをオンにすると、カード認証が開始され、メータユニットのETCインジケータが緑/赤に交互点滅します。
- カードが正常に認証されると、メータユニットのETCインジケータが緑色に点灯します。

注意

- ETCカードを挿入する際、カードのICチップ付近を押さえながら入れると、車載器のカードコネクタピンが破損する可能性があります。カードの端を軽く押してゆっくりと挿入してください。
- ETCカードの向き（前後、表裏）を誤ったり、ETCカードではない物を挿入した場合も、カードコネクタピンが破損する可能性があります。カードの向きや種類をよくご確認ください。



A. ICチップ
B. 挿入方向
C. 表面

ETCインジケータの表示について

状態	ETCインジケータのパターン
車載器が利用できるとき 料金所で正常に情報を受け取ったとき	緑　（点灯）
ETCカードが未挿入のとき 車載器が利用できないとき	赤　（点灯／点滅）
料金所で異常情報を受け取ったとき	赤　（点灯）
ETCカード認証中	緑／赤 （交互点滅）
車載器が未セットアップのとき	赤　（点滅）
イグニションスイッチをオフにしたとき	消灯
ETCカードの更新をお知らせするとき	2秒おきに3回 赤　（点滅）
ITSスポットで注意喚起情報を受け取ったとき	赤　（高速点滅） ［約5秒間］
ITSスポットで一般情報を受け取ったとき	緑　（高速点滅） ［約2秒間］

注意

ETCカードの更新をお知らせする機能は簡易的な機能です。GPS信号を受信していないときは、ETCカードの有効期限切れ判定は行わず、インジケータ表示は緑点灯のままとなります。

⚠ 警告

メータユニットのETCインジケータが緑色に点灯していない場合、ETCシステムは利用できません。ETCレーンの開閉バーが開かず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。

ETCレーンでの注意

- ETCレーンに進入する前に、メータユニットのETCインジケータが緑色に点灯していることを確認してください。
- 確認する際は、インジケータを注視せず、運転の妨げにならないようにしてください。
- ETCレーンでは路面表示（レーンマーク）に従って走行してください。
- ETCレーンには、十分な車間距離をとり、20km/h以下に減速して進入し、徐行して通行してください。ETCレーンでの並走、追い抜き、車群走行は禁止です。
- 渋滞などでETCレーンに他の車両が停車している場合も、絶対に追い抜きはしないでください。

⚠ 警告

ETCレーンで並走、追い抜き、車群走行などを行った場合、ETCが正常に作動せず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。充分な車間距離を保ち、1台ずつまっすぐに進入してください。

- スマートインターチェンジ*を利用する場合は、車両停止状態で通信が行われるため、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。一旦停止しても開閉バーが開かない場合は、レーンに設置されたインターホン等で係員を呼び、案内に従ってください。

＊：高速道路の本線、サービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができ、ETCを搭載した車両のみ通行が可能なインターチェンジ。

- 運営時間、出入り方向、対象車種等に制約がある場合がありますので、ご注意ください。

⚠ 警告

ETCアンテナの周辺に物を置いたり、周囲を塞ぐと通信エラーの原因となります。料金所通行時に開閉バーが開かず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。

故障かなと思ったら

- 次の表で内容を確認し、ご対応ください。
- 症状が改善されない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

症状	確認事項	対応
ETCインジケータが緑色に点灯しない	ETCカードが挿入されているか。	ETCカードを正しく挿入してください。（挿入方向、表裏等）
	ETCカードが正しく挿入されているか。	
	ETCカードのICチップ、車載器本体のカードソケットに汚れや濡れがないか。	ETCカードのICチップ、車載器本体のカードソケットを掃除してください。
	ETCカードが変形していないか。	変形していないETCカードをご使用ください。
ETCレーンの料金所で開閉バーが開かない	料金所との通信トラブル。	開閉バーが開かなかった場合、後続車による追突防止のため、後退や停車をせず、開閉バーを避けてETCレーンから退避し、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
	ETCカードの有効期限が切れていないか。	有効なETCカードをご使用ください。
	アンテナの周囲に遮蔽物がないか。	アンテナ周辺に電波を遮るものを置かないでください。

症状	確認事項	対応
ETCカードが入らない	ETCカードが変形していないか。	変形していないカードをご使用ください。
	車載器の内部に異物が入っていないか。	異物を取り除いてください。
請求金額が違う	下記のホームページにて利用履歴をご確認ください。 https://www.etc-meisai.jp/  TG32166BN1 S	料金については、ご利用のETCカード発行会社（クレジットカード会社）にお問合せください。

燃料の補給

⚠ 警告

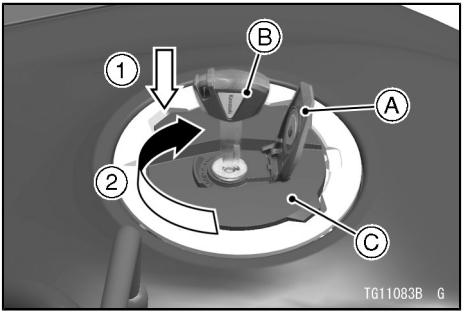
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **タバコを吸うなど火気を近づけないでください。**
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。**
- **給油は必ず風通しのよい屋外で行ってください。**

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります。次のことは必ず守ってください。

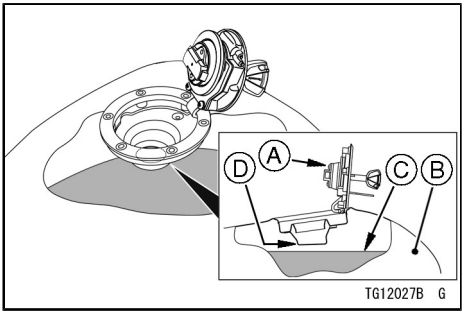
- **タンクキャップを開ける前に車体または、給油機等の金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。**
- **ガソリンまたは燃料がこぼれた場合は、布などで完全に拭きとってください。**
- **タンクキャップを開けるなど、給油機の操作は必ず、静電気の除去を行った人お1人で行ってください。**
- **給油口に他の人を近づけないでください。**

- キーホールカバーを引き上げます。
- 燃料タンクキャップのロックにキーを差し込み、燃料タンクキャップを軽く押しながらキーを時計回りに回します。



A. キーホールカバー
B. キー
C. 燃料タンクキャップ

- 燃料タンクキャップを開けます。
- 燃料を給油します。燃料は注入口にあるレベルプレートの下端以上入れず、図のように少し控え目に入れてください。



A. 燃料タンクキャップ
B. 燃料タンク
C. トップレベル
D. レベルプレートの下端

タンク容量：21 L

使用燃料：無鉛プレミアムガソリン

注意

- **必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。燃料を補給するときは、必ず無鉛プレミアムガソリンであることを確認してから行ってください。無鉛レギュラガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**
- **高濃度アルコール燃料を使用しないでください。高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。**
- **粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす可能性があります。**

- タンクキャップを閉じるときは、キーをキャップに差し込んだ状態で、キャップを手で押し下げます。
- キーを"LOCK"の位置に回して抜きます。

アドバイス

- タンクキャップはキーを差し込んでいないとロックできません。また、キャップが確実にロックされていないとキーは抜けません。
- タンクキャップを閉じるときに、キーを持って押し付けないでください。正しくロックできません。

- キーホールカバーを閉めます。
- サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。

⚠ 警告

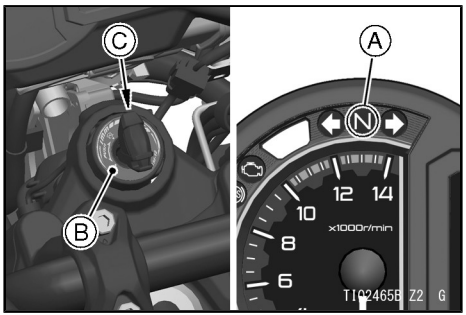
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **燃料タンクに燃料を入れすぎると、走行中燃料が膨張してタンクキャップのブリーザホースからにじみ出ることがあります。燃料は入れすぎないでください。**
- **タンクキャップは確実に閉めてください。**
- **燃料がこぼれた場合は、ただちに布などで完全に拭きとってください。**

正しい運転操作

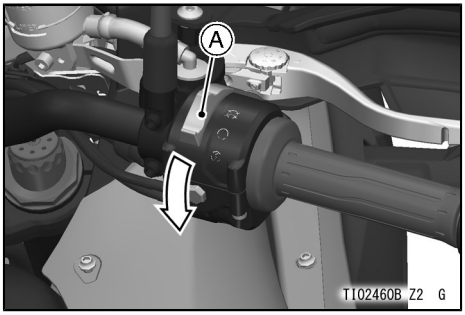
エンジンのかけ方

- イグニションスイッチをオンにします。
- トランスミッションをニュートラルにします。ニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータで確認します。



A. ニュートラルインジケータ
B. イグニションスイッチ
C. オンの位置

- メータの初期動作が終了したのち、スロットルグリップを動かさずにクラッチレバーを握り、エンジンスタート/ストップスイッチを の位置にスライドし、エンジンを始動させます。



A. エンジンスタート／ストップスイッチ

アドバイス

○ エンジン冷間時にはファストアイドル機構が自動的に働き、エンジン回転速度が高くなります。このとき、無理なスロットル操作を行うとエンジン警告インジケータが点灯する可能性があります。

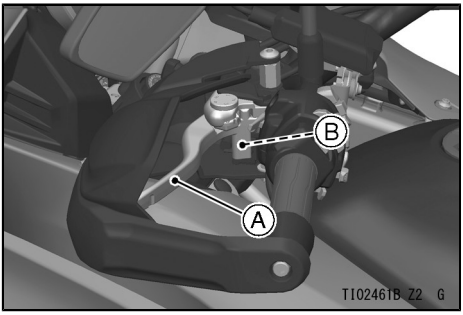
○ この車には、転倒した際に自動的にエンジンを停止させるための転倒センサを採用しています。再度エンジンを始動させるには車体を垂直に起こした後、一旦イグニションスイッチをオフにして、それから再度イグニションスイッチをオンにします。

⚠ 危険

排気ガスには、無色無臭の有毒ガスである一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと、意識不明になったり、死亡する可能性があります。閉め切った場所でエンジンを運転しないでください。換気の良い場所で作業してください。

アドバイス

○ スタータロックアウトシステムにより、サイドスタンドが下りているときは、ニュートラル以外でエンジンは始動できません。



A. クラッチレバー
B. スタータロックアウトスイッチ

アドバイス

○ エンジンスタート/ストップスイッチをスライドして5秒以内でエンジンが始動しないときは、一旦イグニションスイッチをオフにし、10秒くらい休んでから再度イグニションスイッチをオンにしてエンジンスタート/ストップスイッチをスライドしてください。これはバッテリ電圧を回復させるためです。

○ 不必要な空吹かしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を及ぼします。

○ アイドリング状態で長時間放置すると、充電不良を起こし、バッテリに悪影響を及ぼします。

ならし運転

最初の1 000 kmを走行するまでは下表のエンジン回転速度以下でならし運転をしてください。ならし運転を行うと、車の性能を維持し寿命を延ばします。

走行距離	エンジン回転速度
0 ~ 350 km	4 000 rpm
350 ~ 600 km	6 000 rpm
600 ~ 1 000 km	控えめな運転

アドバイス

○ 必要に応じて一時的に制限回転速度を超えることは問題ありません。

○ 不必要な空吹かし、急加速、急減速はつつしんでください。
○ 法定速度を守って走行してください。

走り方

● サイドスタンドが完全に戻っているかを確認します。

アドバイス

○ サイドスタンドが下りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。
○ サイドスタンドが滑らかに作動しないときは取り付け部に注油を行い、滑らかに作動するか確認してください。

⚠ 警告

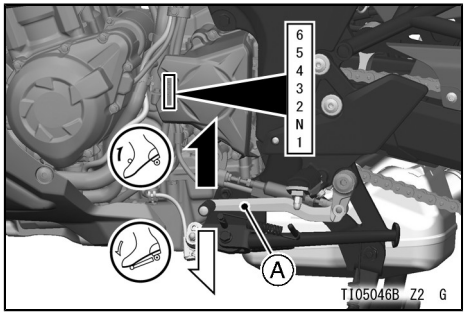
走行中はサイドスタンドを操作しないでください。走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが止まり、思わぬ事故の原因となることがあります。

● クラッチレバーを握り、シフトペダルを操作してギヤを１速に入れ、静かに発進します。

アドバイス

○ 車が静止状態のときは、ニュートラルから1速にしか入りません。

● 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。ギヤチェンジは6段リターン式です。



A. シフトペダル

アドバイス

- ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻し、クラッチレバーを完全に握ってから行ってください。
- チェンジ操作は、ペダルにコツンと感じるまで確実に行ってください。
- チェンジ操作が堅く感じられるときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命を延ばします。

⚠ 警告

- **無理なチェンジ操作やシフトペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ機構やクラッチを傷める原因となります。**
- **走行中に異常を感じたときは、ただちにカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

シフトダウンの仕方

- 追い越しするとき等、強力な加速が必要な場合は、シフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うとエンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を及ぼします。各ギヤ共、5 000 rpm以下で行ってください。

⚠ 警告

急激なシフトダウンは、走行安定性を損ない転倒等の原因となりますので行わないでください。

ブレーキの使い方

- ブレーキは前後輪同時に使用してください。

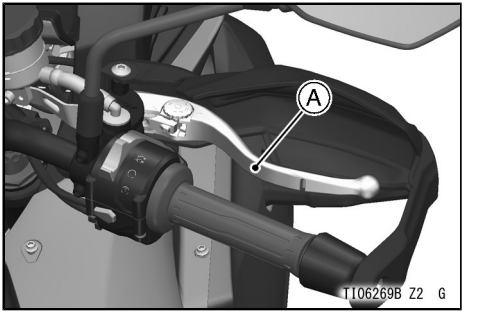
⚠ 警告

前輪または後輪ブレーキだけを使うと、走行安定性を損ない横すべりや転倒の原因となる場合があります。必ず前後ブレーキを同時にかけてください。

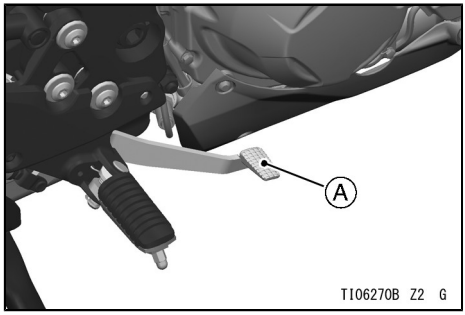
- 不必要な急ブレーキはかけないでください。

⚠ 警告

急ブレーキをかけると、走行安定性を損ない横すべりや転倒の原因となる場合があります。不必要な急ブレーキは行わないでください。



A. フロントブレーキレバー



A. リヤブレーキペダル

アドバイス

- 雨の日や路面が濡れているところ、雪道や凍った道路では路面が滑りやすく、晴天時よりも制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもって運転してください。
- 長い坂道を下るとき等に連続してブレーキを使用すると、ブレーキ部の温度が上昇しブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときはエンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。
- 雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

エンジンブレーキ

走行中、スロットルグリップを戻したときにかかる制動力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

ABS

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、直線走行中に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないように設計されています。

ブレーキの操作は通常の車と同じです。前輪ブレーキはブレーキレバーで、後輪ブレーキはブレーキペダルでかけます。

ABSは車輪のロックを防いで車を安全に停止させますが、次のような特徴がありますので注意してください。

- ABSは悪い路面、誤った判断、または間違ったブレーキのかけ方を良い方向に補うことはできません。ABSがついていない車と同じような注意が必要です。
- ABSは停止距離を縮めるようには設計されていません。すべりやすい、凹凸が多い、あるいは下りの道路などでは、ABS搭載の車の方が搭載されていない車より停止距離が長くなる場合があります。このようなところを走行するときは特に注意してください。
- ABSは直線走行中にブレーキをかけたとき車輪がロックすることを防ぐのに役立ちます。しかし、コーナリング中にブレーキをかけたときに起こる車輪の横すべりをコントロールすることはできません。コーナリング中のブレーキはかけない方が安全です。もしかける必要がある場合は、前後輪共、軽くかけるだけにします。

アドバイス

○ **コーナに入る前にシフトダウンをして、充分に減速してください。**

- ABSに組み込まれているコンピュータは、車の走行速度と車輪の回転速度を比べています。指定サイズ以外のタイヤは車輪の回転速度を変え、コンピュータを誤作動させて停止距離を長くすることがあります。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとABSが誤作動を起こし、停止距離が長くなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

⚠ 警告

ABSシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

アドバイス

○ ABSの作動中に、ブレーキレバーやペダルに振動を感じることがあります。これは異常ではありませんので、ブレーキをかけているのを中断する必要はありません。

○ バッテリが上がっている場合、ABSは作動しません。また、下記の車速ではABSは作動しません。

約10 km/h以下

KIBS

KIBS（カワサキインテリジェントアンチロックブレーキシステム）はスポーツライディングにおいて、よりスムーズなブレーキ制御を行うシステムです。

KIBSは減速中の車輪のロックを防ぐために、前後輪の車輪回転速度に加えてエンジンのデータも使用して自動的にブレーキの強さを制御します。

⚠ 警告

KIBSの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

エンジンの止め方

- スロットルグリップを全閉にします。
- トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにします。

エンジンの非常停止

何らかの原因でエンジンがスロットルコントロールを失うと、非常に危険な状態に陥ることがあります。このような非常時において、イグニションスイッチで停止できないときはエンジンスタート／ストップスイッチを ⊠ の位置にしてください。ハンドルから手をはなさずにエンジンを停止することができます。

駐車の仕方

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

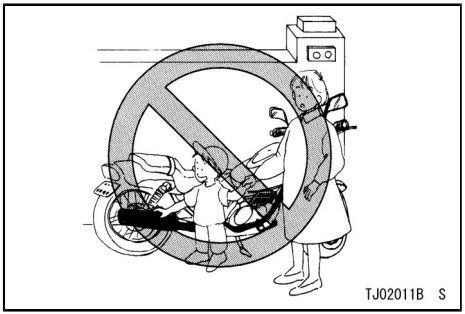
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

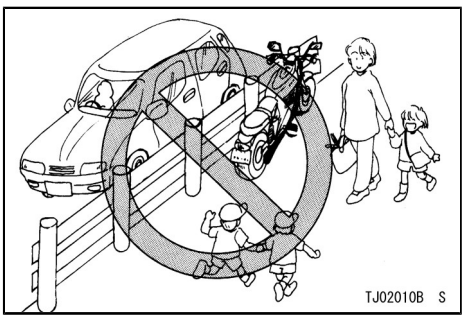
- 車を止め、トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにしてエンジンを停止させます。
- サイドスタンドを使って、水平でしっかりとした場所に駐車します。

⚠ 警告

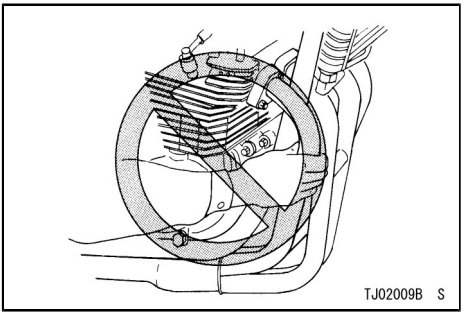
坂道、砂利道や凸凹な所に駐車すると、スタンドが不安定になり転倒する可能性があります。車が安定するところに駐車してください。

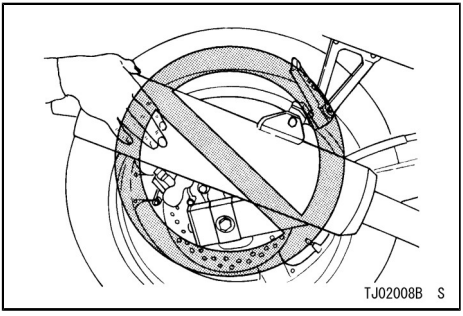
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。





- エンジン回転中や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。





- ガレージまたはその他の建物の内部に駐車するときは、風通しが良く、火気のない所にします。

⚠ 警告

ガソリンは引火性が高く火災の原因になることがあります。ガソリンを取り扱うとき、あるいは燃料を給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- ステアリングをロックします。盗難防止のため、**車から離れるときは必ずステアリングをロックし、キーを抜いてお持ちください。**

インテグレイテッドライディングモード



この車両は、ボタンひとつでその性能特性を変更できます。各ライディングモードはエンジンを統合制御します。

ROAD:

パワーモード	F
KTRC	2
KECS	NORMAL（標準）

SPORT:

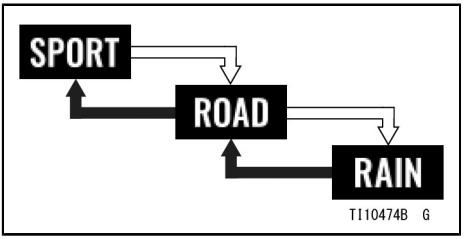
パワーモード	F
KTRC	1
KECS	HARD（硬め）

RAIN:

パワーモード	L
KTRC	3
KECS	SOFT（柔らかめ）

ライディングモードの切り替え方法

- 上下のMODEボタンを長押ししてモードを切り替えます。



➡ : 上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ : 下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
  - スロットルを開けているとき
  - クルーズコントロールを使用しているとき

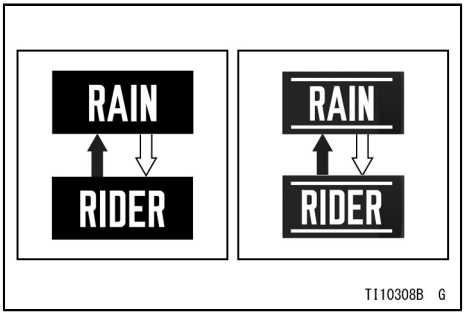
ライダモード(RIDER)

3種類のライディングモードに加えて、好みに合わせて設定を変えられる「ライダモード」が利用できます。

パワーモード、KTRC、KECS(減衰力)の3つのパラメータを調整できます。

ライダモード(RIDER)への切り替え方法

- メニューモードでライダモードを使用できるようにしてください。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード」の項を参照してください(69ページを参照)。
- "RAIN"モードのときに下MODEボタンを押し続けて切り替えます。



➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

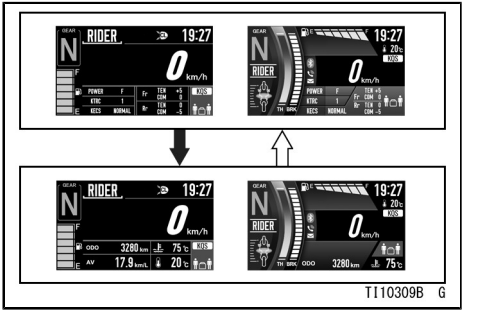
⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
  - スロットルを開いているとき
  - クルーズコントロールを使用しているとき

アドバイス

○ ライダモードに切り替えると、各パラメータの設定状態が図のように表示されます。通常表示に戻すにはRESETボタンを長押ししてください。

○ 各パラメータの設定状態を表示するには、SELECTボタンを押してください。



➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

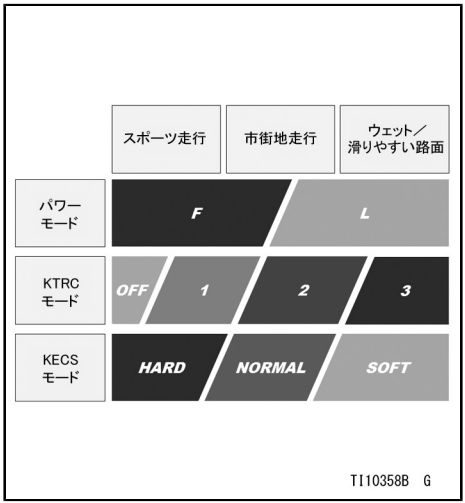
⇨ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

ライダモードのパラメータ

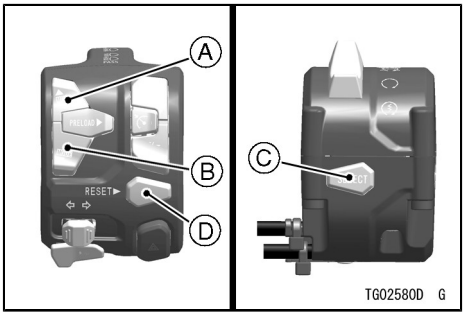
パワーモード、KTRC、KECSのパラメータを組み合わせることにより、好みに合わせた設定を作成できます。

各モードの組み合わせは運転者の技量や路面状況により異なります。組み合わせは、次の表を参考に、運転者自身の判断で行ってください。

組み合わせの例



パラメータの変更方法

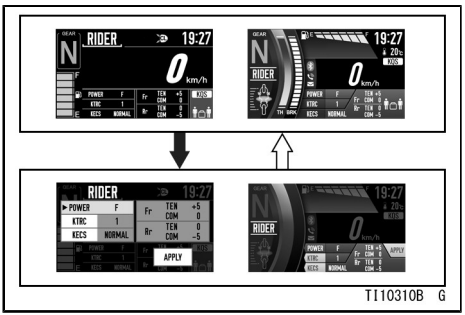


A. 選択項目の移動
B. 選択項目の移動
C. 次の画面に進む(決定)
D. 前の画面に戻る(キャンセル)

アドバイス

○ RESETボタンの代わりにスロットルグリップを回しても前の画面に戻れます。

- ライダモードのパラメータを表示してください。
- SELECTボタンを押すと詳細設定画面に切り替わります。
- 下記の状態では切り替えができません。
  - スロットルを開けているとき
  - 車速が5 km/hを超えているとき



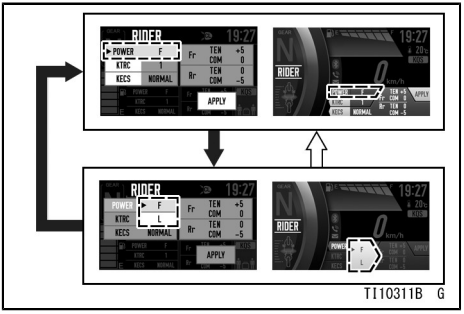
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 上下のMODEボタンを使って"POWER"を選択してください。

- SELECTボタンを押し、上下のMODEボタンでパラメータを選択してください。

パラメータ	出力特性
F	フルパワー
L	ローパワー

- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



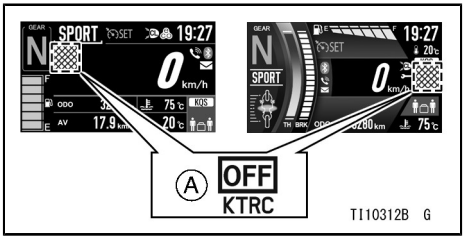
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 同じ要領でKTRCのパラメータを変更します。

パラメータ	システム介入頻度
1	少
2	中
3	多
OFF	なし

アドバイス

○ KTRCをオフにすると後輪の空転が制御されなくなりますので、スロットル操作に注意してください。
○ KTRCをオフにするとディスプレイスクリーンにKTRC OFFインジケータが表示されます。



A. KTRC OFFインジケータ

- 同じ要領でKECSのパラメータを変更します。

パラメータ	サスペンションセッティング
HARD	硬め。高荷重時や高速域用
NORMAL	標準レベル。
SOFT	柔らかめ。軽荷重時や低速域用

アドバイス

- ○ 前後サスペンションの伸側／圧側減衰力セッティングを個別に調整できます。
- ○ KECSの減衰力セッティングはHARD、NORMAL、SOFTそれぞれで個別に保存されます。

- KECSのパラメータを選択しているときにSELECTボタンを押し続けると、減衰力設定画面に切り替わります。
- 変更したい減衰力を選択してSELECTボタンを押します。
- 減衰力セッティングを±5段階から選択してください。

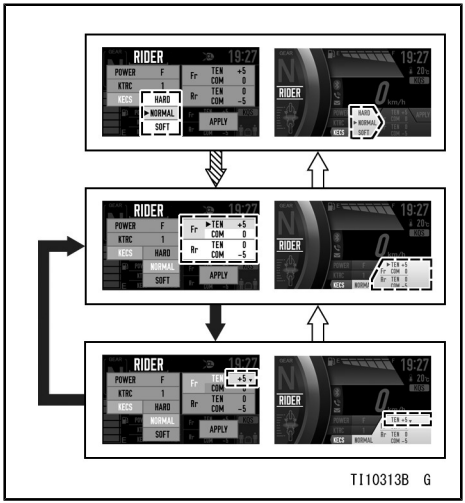
フロントフォークセッティング（Fr）

伸側減衰力（TEN）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め
圧側減衰力（COM）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め

リヤショックアブソーバセッティング（Rr）

伸側減衰力（TEN）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め
圧側減衰力（COM）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め

- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

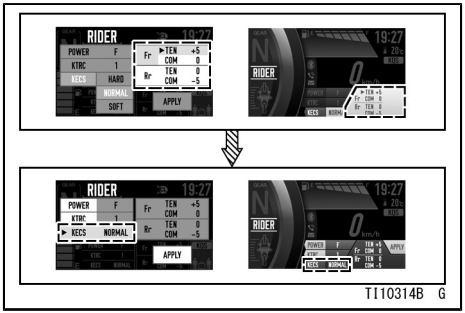


⇛ :SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

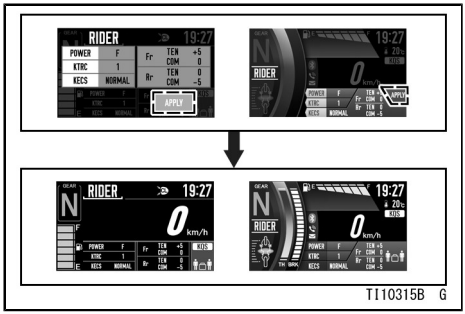
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- SELECTボタンを押し続けて変更を確定します。



⇛ :SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

- "APPLY"を選択してSELECTボタンを押すと、全パラメータの変更が確定します。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

KTRC

KTRC（Kawasaki TRaction Control）は、加速時の後輪スリップ（ホイールスピン）を検出し、ライディング状況に応じた最適なスリップ率を制御するインテリジェントシステムです。スポーツ走行だけでなく、ツーリング先の荒れた路面や滑り易い路面でも安定した走行をサポートします。

KTRCは、公道で使用することを目的にしていますが、あらゆる状況に対応できるものではありません。路面状態によってはホイールスピンが生じ、車両の加速に遅れが生じることがあります。

⚠ 警告

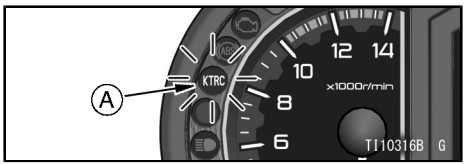
KTRCシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

極端な加速により前輪が浮き上がると、KTRCはエンジン出力を抑制し、前輪を接地させようとします。このような場合には、スロットルグリップを少し戻してできるかぎり早く前輪を接地させてください。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとKTRCが誤作動を起こし、正しく機能しなくなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

KTRCインジケータ



A. 黄色KTRCインジケータ

システム介入中にKTRCインジケータが点滅します。

KTRCモード

KTRCは、道路状況に応じて3種類の作動モードが選択できます。また、KTRCをOFFにすることもできます。

モード1:
スリップ抑制を最も控えめにしたモードです。スポーツライディングに適した加速力が得られます。

モード2:
システムの介入頻度は中程度で、モード1と3の中間レベルになります。

モード3:
システムが早期に介入し、可能なかぎり後輪の空転が抑制されます。路面のグリップ力が弱い場合に使用してください。

OFF:
KTRCが介入しないモードです。後輪の空転が抑制できませんので、スロットルは慎重に操作してください。

パワーモード

パワーモードは、2種類のエンジン出力特性が選択できます。

モードF（フルパワー）:
最高出力を発揮するモードです。エンジンが持つ本来のスロットルレスポンスを発揮します。

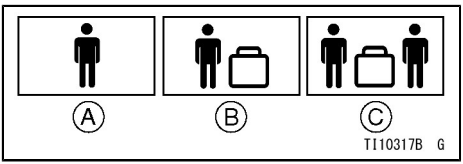
モードL（ローパワー）:
モードFに比べてスロットルレスポンスが穏やかになります。

KECS

KECS（Kawasaki Electronic Control Suspension）は前後サスペンションの減衰力を個別に自動制御します。さらに、リヤショックアブソーバのスプリング初期荷重（プリロード）を調整できます。

プリロードモード

KECSは3種類のプリロードモードが選択できます。ご使用の状況に合わせて切り替えてください。

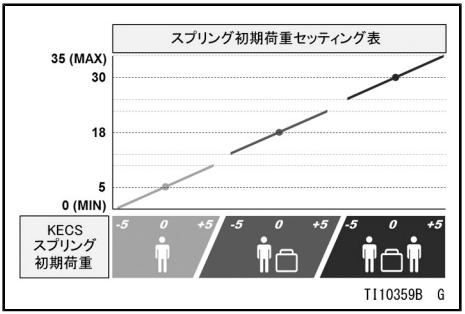


A. 運転者のみ
B. 運転者+手荷物
C. 運転者+手荷物+同乗者

アドバイス

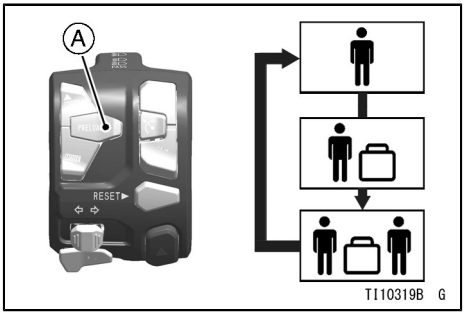
○「運転者+同乗者」の場合は「運転者+手荷物」を使用してください。

また、各モードのセッティングは±5段階で微調整が可能です。



プリロードモードの切り替え方法

- 左ハンドルスイッチのミドルボタンを長押しすると、プリロードモードが下記の順に切り替わります。

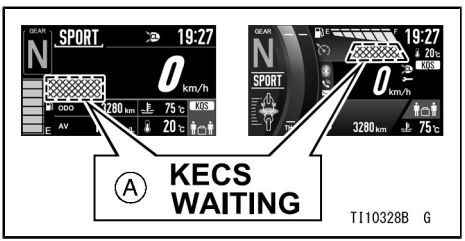


A. ミドルボタン
➡ :ミドルボタンを長押ししたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
  - スロットルを開けているとき
  - クルーズコントロールを使用しているとき

アドバイス

- モータの発熱やバッテリの放電を防ぐため、プリロードモードの変更は繰り返さないようにしてください。
- “KECS WAITING”メッセージが表示されたときは、何らかの原因でスプリング初期荷重調整機構が待機状態となっています。この表示が消えない場合は、カワサキ正規取扱店にて点検をお受け下さい。



A. KECS待機メッセージ

スプリング初期荷重セッティングの調整方法

- 「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード」の項を参照してください(66ページを参照)。

セッティングの微調整方法

減衰力

KECSは3種類の減衰力セッティングが選択できます。KECSは車速や加速度およびサスペンションストロークに基づいて、自動的に伸側減衰力および圧側減衰力を調整するシステムです。

HARD (硬め):
スポーツライディングや高荷重時に適したセッティングです。

NORMAL (標準):
路面の凹凸に対する吸収性を高めた標準的なセッティングです。

SOFT (柔らかめ):
濡れた路面に対して効果的な、最も柔らかいセッティングです。

クルーズコントロールシステム

クルーズコントロールは、スロットルを操作することなく、車速を一定に維持することができるシステムです。

アドバイス

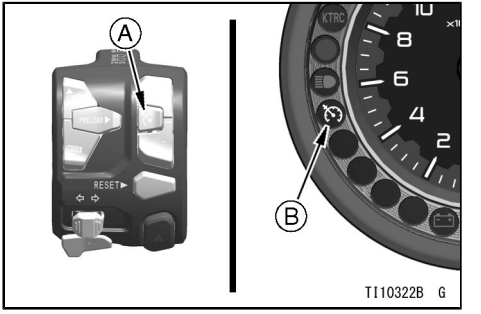
- **エンジン回転速度が低い場合やギヤがニュートラル、1速、2速の場合、クルーズコントロールはセットされません。**
- **3速ギヤの場合、クルーズコントロールは車速約35 km/h 以上で使用できます。**
- **クルーズコントロールを使用するときは、法定速度をご確認ください。**
- **エンジン保護のため、設定可能車速はギヤ位置によって異なります。**

⚠ 警告

クルーズコントロールは、一定速度で安全に運転できない場合には危険を伴います。交通量の多い道路、起伏やカーブの多い道路では、死亡または重大な傷害に至る事故を引き起こす危険性があるため、クルーズコントロールを使用しないでください。

クルーズコントロールの使用方法

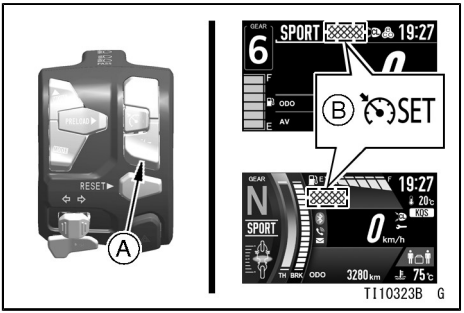
- 左ハンドルスイッチのクルーズコントロールボタン を押してください。システムが起動してクルーズコントロールインジケータが点灯します。



A. クルーズコントロールボタン
B. クルーズコントロールインジケータ

- 希望する車速で「SET/–」ボタンを押してください。クルーズコントロールが現在車速でセットされ、

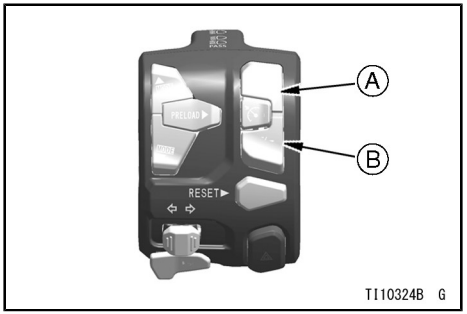
ディスプレイスクリーンにセットマークが表示されます。



A.「SET/−」ボタン
B. セットマーク

設定車速の変更方法

- 設定車速を上げるには、希望の速度になるまで「RES/+」ボタンを押し続けます。
- 設定車速を下げるには、希望の速度になるまで「SET/−」ボタンを押し続けます。

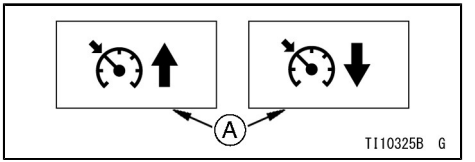


A.「RES/+」ボタン
B.「SET/−」ボタン

アドバイス

- 「RES/+」ボタンを素早く放したときは、設定車速が1.5 km/hずつ増加します。
- 誤操作による設定速度の上昇を防ぐため、「RES/+」ボタンの連打入力は受け付けない場合があります。
- 「SET/−」ボタンを素早く放したときは、設定車速が1.5 km/hずつ減少します。

○ 「RES/+」または「SET/−」ボタンを押している間は、ディスプレイスクリーンに矢印が表示されます。

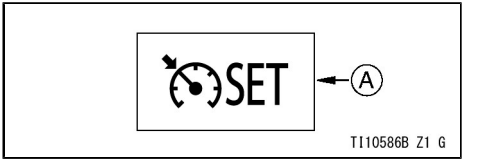


A. 矢印

○ 一時的に加速する場合は、通常のスロットル操作で速度を上げてください。このときブレーキを使わずにスロットルを戻せば、元の設定車速に戻ります。

設定車速の解除方法

- 設定車速は以下の条件で一時的に解除されます。
  - ブレーキレバーを引いたとき
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - クラッチレバーを引いたとき
  - ギヤチェンジを行ったとき
  - スロットルをアイドリング位置より奥に戻したとき
- クルーズコントロールは以下の条件で解除され、設定車速が消去されます。
  - 現在車速が35 km/hを下回ったとき
  - 現在車速が設定車速より15 km/h低下したとき
  - クルーズコントロールボタン を押したとき
- セットマークが消えます。

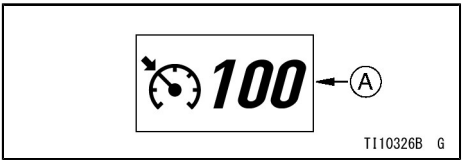


A. セットマーク

設定車速への復帰方法

- 「RES/+」ボタンを押します。

● 設定車速に復帰するまで、設定車速がメインディスプレイに表示されます。



A. 設定車速

アドバイス

○ 設定車速への復帰中に「RES/+」または「SET/–」ボタンを押すと、設定車速は現在車速で再設定されます。

● 現在車速が設定車速に復帰すると、セットマークが再表示されます。

クルーズコントロールの終了方法

● クルーズコントロールボタン を押します。

● システムが終了してクルーズコントロールインジケータが消灯します。設定車速も消去されます。

KQS

KQS（Kawasaki Quick Shifter）はクラッチ操作をせずにシフトアップ/ダウンが可能となる機能です。

KQSは自動的にギヤチェンジする機能ではありませんので、KQSが搭載されていない車両と同様のシフトペダル操作が必要です。

アドバイス

○ クラッチレバーを引いたときには、KQSは作動しません。

○ エンジン回転数が約1 500 rpm以下のときには、KQSは正しく作動しません。

○ KQSを繰り返し作動させるには、ギヤチェンジ後にシフトペダルを完全に戻す必要があります。

シフトアップ

車両加速時、クラッチ操作をせずに、かつ、スロットルグリップを戻すことなく、シフトアップ操作が可能となります。

アドバイス

○ スロットルグリップが閉じているときには、KQSのシフトアップ機能は働きません。

シフトダウン

車両減速時、クラッチ操作をせずにシフトダウンが可能となります。

アドバイス

○ KQSのシフトダウン機能は、スロットルグリップが閉じているときのみ働きます。

○ エンジン回転数が高い（レッドゾーン付近）ときには、KQSのシフトダウン機能は働きません。

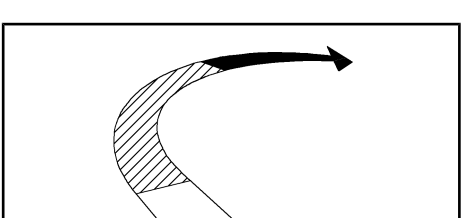
KQSの設定方法

● メニューモードでKQSのオン、オフを選択できます。「メータの見方、使い方」の章、「メニューモード」の項を参照してください(66ページを参照)。

KCMF

KCMF（Kawasaki Cornering Management Function）は、走行中にIMU（慣性計測装置）から得られる精細な車体姿勢の情報を基にして、コーナの入り口から出口に至る全域でエンジン・車体制御のパラメータを監視することでブレーキ力とエンジン出力を調整します。それにより減速から加速に至るまでスムーズに移行でき、意図したとおりにコーナリングを行えるように運転者をアシストします。

- KCMFは、以下の機能を統合制御しています。
  - KTRC
  - KIBS
  - KECS



⇨:カーブの手前(KTRC/KECS)
⇨:カーブ(KIBS/KECS)
➡:カーブの出口(KTRC/KECS)

慣性計測装置(IMU)

IMUは車体姿勢の分析に使用されています。

車両に搭載された電子システムは、IMUの情報を利用することで、よりスムーズな制御を行えるようになります。

点検整備について

法令で定められた点検整備

お車を安全かつ快適にご使用いただくため、法令により日常点検と定期点検整備を行うことが義務付けられています。必ず実施してください。

1. 日常点検

走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施する点検です。

2. 定期点検整備

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
二輪車については1年点検と2年点検があります。
なお、詳細についてはメンテナンスノートをご覧ください。

カワサキが指定する点検整備（メータ指定点検整備）

- **1か月目（または1 000 km）点検整備**

登録日から1か月目または1 000 km走行時点に行う点検です。
お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店にてお受けください。

- **メーカ指定点検整備**

法令で定められた定期点検整備項目のほかに、カワサキが指定する定期点検整備項目があります。所定の時期になりましたら、法令で定められた定期点検整備と同時に実施してください。

なお、点検整備の詳細についてはメンテナンスノートの「お車を安全、快適にご使用いただくために」をご覧ください。

アドバイス

○ 総排気量が251 cm³以上の車の場合、初回3年目、以降2年毎の継続検査（車検）を受けなければ、引き続き使用することができません。車検有効期間の満了前に必ずお受けください。

簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換等の整備が必要となった場合、通常行われることの多い代表例について、その整備の実施方法を述べています。

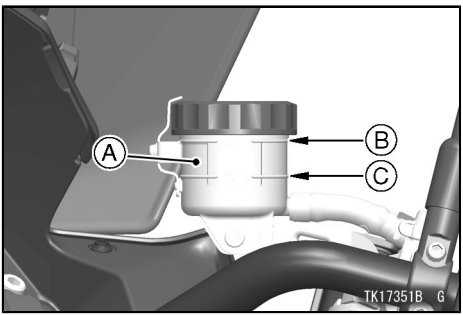
⚠ 警告

整備は安全のためご自身の知識、技量の範囲内で行ってください。難しいと思われる内容、あるいは整備後に何か不審を感じられた場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。整備を行うときは、安全に充分注意してください。

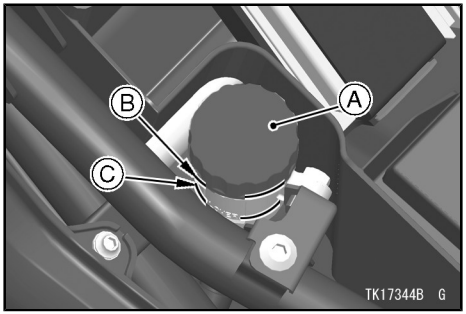
- **場所は、平坦で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **排気ガスには有害な一酸化炭素等の成分が含まれています。エンジンをかけた状態で点検整備を行うときは、通気性の良い場所で行ってください。**
- **エンジンの運転時や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジン、ラジエータ等が熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。**
- **適切な工具を使用してください。もし、不適切な工具を使用して整備作業を行うとけがをする可能性があります。**

ブレーキ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、ブレーキリザーバを水平にします。
- 前後のブレーキリザーバ内の液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかを点検します。



A. フロントブレーキリザーバ
B. 上限ライン（UPPER）
C. 下限ライン（LOWER）



A. リヤブレーキリザーバ
B. 上限ライン（UPPER）
C. 下限ライン（LOWER）

アドバイス

○ もし液面が下限ライン以下の場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきますが、ブレーキ液が早く減少する場合、ブレーキ系統からの液漏れが考えられます。重大な事故につながる可能性がありますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**
- **ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。**

⚠ 警告

リザーバキャップを取り外す前に清掃する。密閉された容器に入ったDOT4ブレーキ液を使用すること。

注意

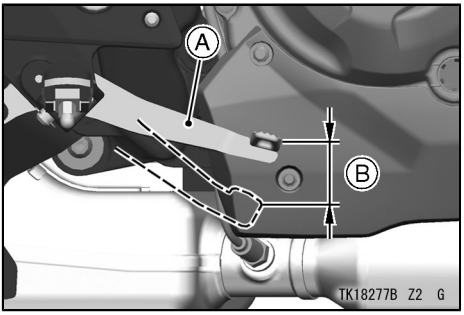
- **ブレーキ液を混用すると変質するので、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。**

ブレーキライトスイッチの調整

適正な量だけブレーキペダルを踏み込んだときに、ブレーキライトが点灯します。

[踏み込み量]

標準値：約10 mm



A. ブレーキペダル
B. 踏み込み量

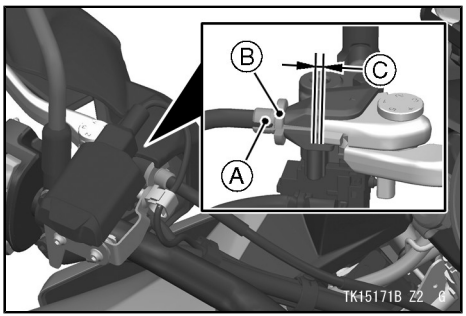
● フロントブレーキをかけたときもブレーキライトが点灯するか確認します。もし異常があれば、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

クラッチレバーの遊びの調整

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引いたとき、クラッチレバーとレバーホルダとの間に遊びがあるのが適正です。もし、クラッチレバーの遊びが適正でない場合は、クラッチケーブルを調整します。

［クラッチレバーの遊び］

標準値：2 ~ 3 mm



A. アジャスタ
B. ロックナット
C. 遊び

● 調整は、クラッチレバー側のロックナットをゆるめ、アジャスタを回して行います。

- 調整ができない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **クラッチケーブルの遊びが大きすぎるとクラッチが切れなくなり、負傷や死亡事故につながる可能性があります。**
- **クラッチケーブルを調整するときは、停車中に行い、アウターケーブルの上端がアジャスタ穴に正しく取り付けられている事を確認してください。**

アドバイス

○ 調整後にエンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しがないかを確認します。
○ 1か月に1度はクラッチケーブルの取り付け部に注油を行ってください。

エンジンオイルの補給

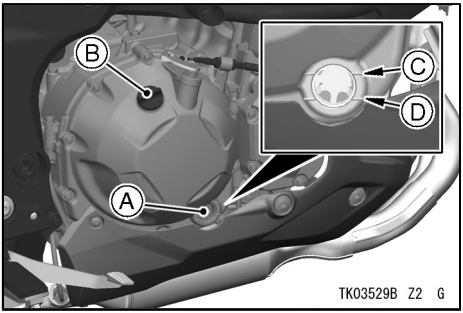
- 平坦な場所で、エンジンを2～3分間アイドリング運転で暖機し、エンジンを停止します。

アドバイス

○ 走行直後でエンジンが充分に暖機していればアイドリング運転は不要です。

- 車体を垂直にし、エンジンを停止して2～3分後に、オイル量がオイルレベル点検窓の上限ラインと下限ラインの間にあることを確認します。
- もしオイルが多いときは、スポイトや適切な器具を使用してオイルを排出します。
- オイル量が下限ラインに近ければ、オイル注油口キャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認しながら、上限ラインと下限ラインの間に入るまでエンジンオイルを補給します。

● オイル注油口キャップを確実に取り付けます。



A. オイルレベル点検窓
B. オイル注油口キャップ
C. 上限ライン
D. 下限ライン

＜推奨オイル＞

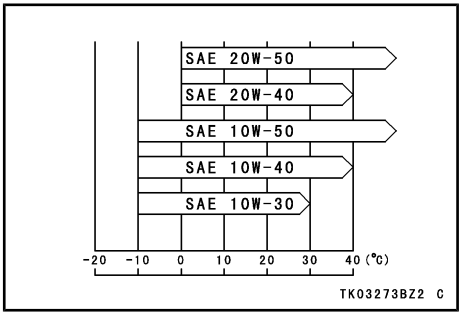
カワサキ純正4サイクルオイル
R4 SJ 10W-40 JASO MA
S4 SG 10W-40 JASO MA

または
API SG、SH、SJ、SLまたはSM（JASO MA、MA1またはMA2適合品）
SAE 10W-40

アドバイス

○ **クラッチの滑りやエンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。**

エンジンオイルの粘度は、次の図を参考にして使用する地域の外気温によって使いわけてください。なお、前述の推奨オイルと同じAPI分類とSAE規格のエンジンオイルでも、それぞれオイルの特性等が微妙に異なっているため、この車には適合しない場合があります。



交換時期は“走行キロ毎交換”と“年(月)毎交換”のどちらか早い方で実施してください。

<エンジンオイル交換時期>

初回： 1 000 km時または1か月時

2回目： 6 000 km時または1年時

以後： 6 000 km毎または1年毎

[エンジンオイル量]

オイルフィルタを取り外していないとき
3.2 L

オイルフィルタを取り外したとき
3.8 L

<オイルフィルタ交換時期>

初回： 1 000 km時または1か月時

2回目： 18 000 km時

以後： 18 000 km毎

アドバイス

- 補給するときには、オイル注油口からゴミなどが入らないようにしてください。
- オイル量は、規定範囲の上限レベルを超えないようにしてください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **オイルをこぼしたときは、完全に拭きとってください。**

注意

銘柄や等級の違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用すると変質してエンジンの故障の原因になることがあります。同一銘柄、等級の良品質オイルを使用してください。銘柄、等級が不明の場合はオイル全てを交換してください。

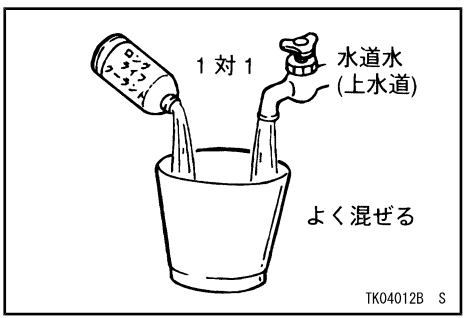
アドバイス

○ 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

冷却液

冷却液の作り方

カワサキ純正ロングライフクーラントと水道水（上水道）を1:1に混ぜ合わせます。



⚠ 警告

冷却液には毒性があります。取り扱いには充分注意してください。
- **皮膚や衣類についた場合**
  すみやかに水で洗ってから、石けん水で洗ってください。
- **目に入った場合**
  水で充分洗い流してから、医師の診察を受けてください。
- **飲んだ場合**
  直ちにおう吐させ、医師の診察を受けてください。

注意

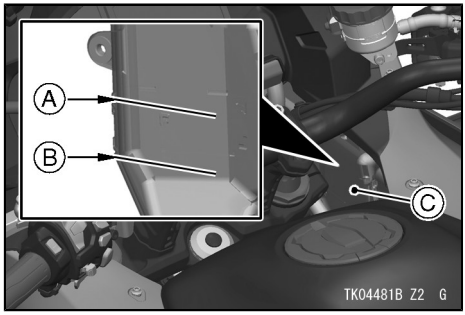
冷却液に混合または補充する水は水道水（上水道）を使用してください。井戸水や塩分を含む天然水はエンジンの損傷につながるので使用しないでください。

冷却液の点検

アドバイス

○ リザーブタンクは右インナミドルカウリング裏側にあります。

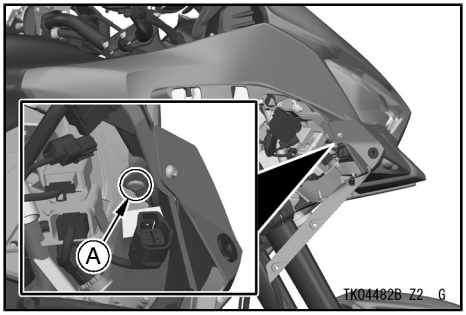
- 車体を地面と垂直に保持します。
- エンジンが冷えているときに、リザーブタンク内の冷却液の量を点検します。液面が下限ラインより下がっている場合は、冷却液を補給します。



A. 上限ライン(F)
B. 下限ライン(L)
C. リザーブタンク

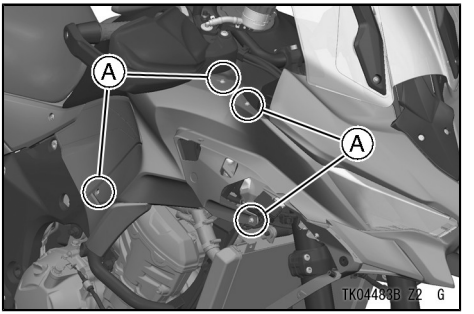
冷却液の補給

- 右アウタミドルカウリングを取り外します(102ページを参照)。
- クイックリベットを取り外します。



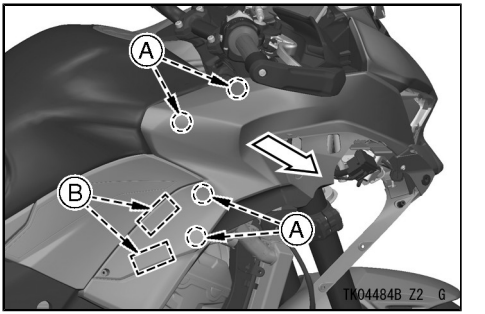
A. クイックリベット

- ボルトおよびワッシャを取り外します。



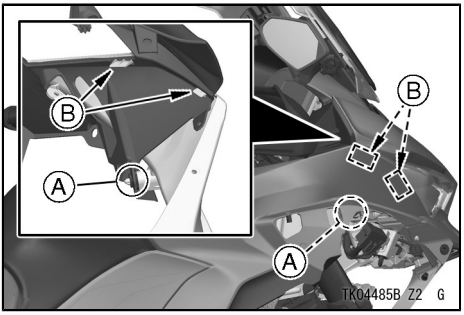
A. ボルトおよびワッシャ

- 右インナミドルカウリングを外側に引いて、突起部およびタブをはずします。



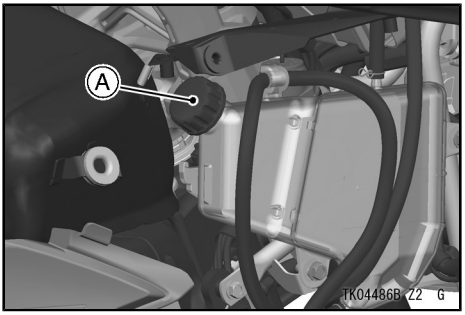
A. 突起部
B. タブ

- 右インナミドルカウリングを外側に引いて、突起部をはずします。
- 右インナミドルカウリングを引いて、タブをはずしカウリングを取り外します。



A. 突起部
B. タブ

- リザーブタンクのキャップをはずし、上限ライン（F）と下限ライン（L）の間に入るまで冷却液を補給します。



A. キャップ

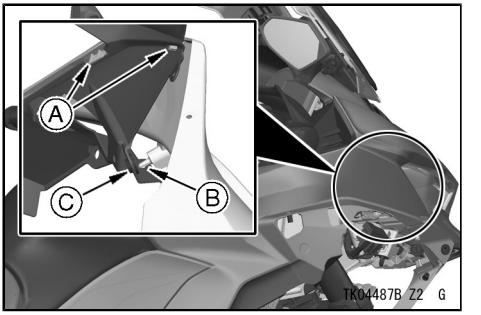
アドバイス

○ 冷却液は上限ライン（F）を超えて補給しないでください。

注意

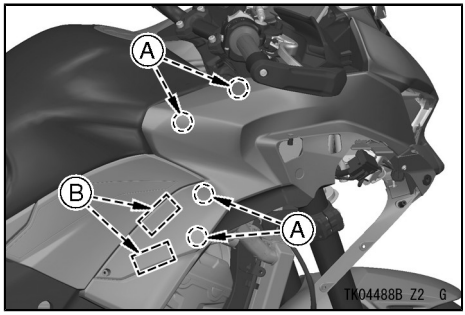
冷却液の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、エンジン内部、ホースなどからの液漏れが考えられますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。冷却液の交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- リザーブタンクキャップを取り付けます。
- タブをスロットに差し込みます。
- 突起部をグロメットに差し込みます。



A. タブ
B. 突起部
C. グロメット

- 突起部をグロメットに差し込みます。
- タブをスロットに差し込みます。



A. 突起部
B. タブ

- ボルトとワッシャを締め付けます。
- クイックリベットを取り付けます。
- 右アウタミドルカウリングを取り付けます(102ページを参照)。

エアクリーナ

エアクリーナエレメントが詰まると吸入空気量が不足し、燃料消費量増加、出力低下、プラグかぶり等の原因になります。

アドバイス

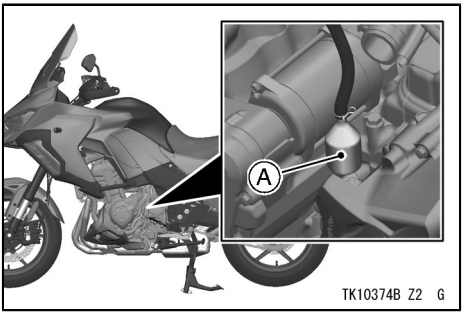
○ 著しくほこり等の多い場所を走行した場合は、定期点検期間よりお早めに点検を行ってください。

エレメントの交換

エレメントの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

オイルの排出

- エンジンの左側にあるキャッチタンクに、エアクリーナハウジングから出た水やオイルがたまっていないか点検します。



A. キャッチタンク

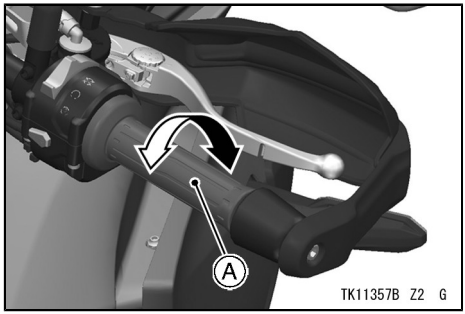
- キャッチタンクに水やオイルがたまっている場合は、キャッチタンクをはずして排出します。
- 排出後、取り外した部品は必ず元通りに取り付けてください。

⚠ 警告

キャッチタンクからオイルが漏れるとタイヤに付着し、タイヤが滑りやすくなり負傷や死亡事故につながる危険性があります。タンクは必ずしっかりと取り付けてください。

スロットルの点検

スロットルグリップが全閉から全開までスムーズに動くか点検します。もし異常を感じた場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. スロットルグリップ

アイドリング回転速度の調整

アイドリング回転速度は電子制御されており、調整の必要はありません。

アイドリング回転速度が不安定な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

[アイドリング回転速度]

標準値：1 000 ~ 1 200 rpm

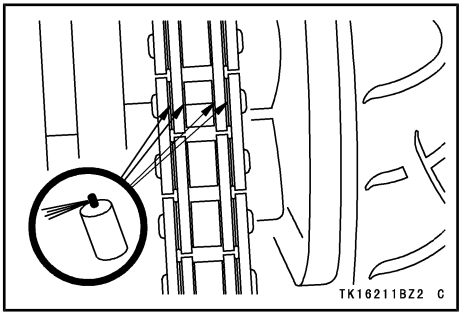
アドバイス

○ 効率的に暖機運転を行うため、エンジン冷間時はアイドリング回転速度が自動的に高くなります。

ドライブチェーン

給油

- 後輪を浮かした状態で、後輪を手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを柔らかいブラシ等で落とし、カワサキ純正チェーンクリーナを使用して洗浄します。
- 乾燥後、後輪を手でゆっくり回しながら給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。



注意

- **オイルは、カワサキ純正チェーンオイルを使用してください。**
- **この車のチェーンは、ゴムシールを使用しています。ゴムシールの損傷を防ぐためスチーム洗浄は行わないでください。**
- **シンナ、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用しての洗浄はしないでください。ゴムシールが損傷します。**

アドバイス

○ 雨天走行後、あるいは洗車後も給油してください。

● 給油後、余分なオイルは拭きとります。

たるみ点検

● サイドスタンドを立てます。

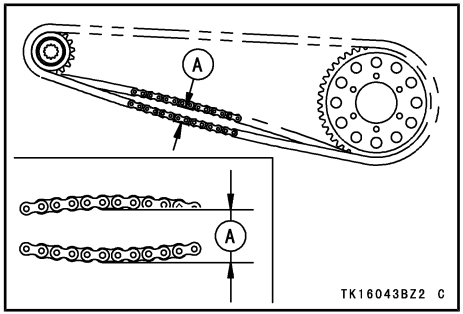
アドバイス

○ チェーンが汚れていたり、乾いている場合は、洗浄および給油を行ってください。

● 後輪を回し、たるみの最も少ない位置で、前後のスプロケットの中間部で垂直の動き（チェーンのたるみ）を測定します。

[ドライブチェーンのたるみ]

標準値：30 ~ 40 mm

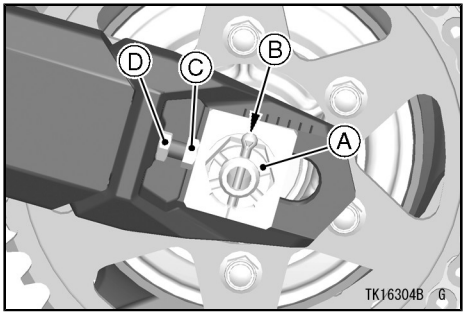


A. チェーンのたるみ

- 標準値から外れている場合は、調整してください。

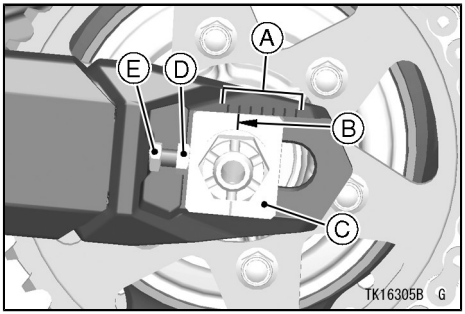
たるみ調整

- 左右のチェーンアジャスタロックナットをゆるめます。
- リヤアクスルナットから割りピンを取り外し、リヤアクスルナットをゆるめます。



A. リヤアクスルナット
B. 割りピン
C. チェーンアジャスタ
D. チェーンアジャスタロックナット

- チェーンアジャスタを回して、たるみを標準値にします。
- ホイールアライメントインジケータとスイングアームの目盛りを左右同じ位置に合わせます。



A. 目盛り
B. 切り込み
C. ホイールアライメントインジケータ
D. チェーンアジャスタ
E. チェーンアジャスタロックナット

⚠ 警告

左右のアライメントインジケータの位置がずれていると、チェーンやスプロケットが異常に摩耗したり、走行安定性を損ない事故につながる可能性があります。アライメントインジケータの調整位置は左右等しくしてください。

- 左右のチェーンアジャスタロックナットを締め付けます。
- リヤアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

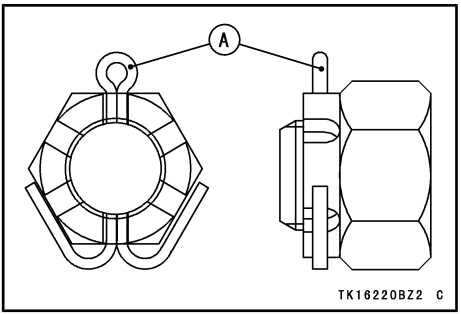
締め付けトルク

リヤアクスルナット：110 N·m (11.2 kgf·m)

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

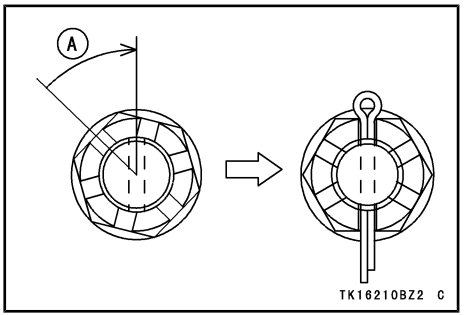
- 後輪を回し、チェーンの張りが最も強くなる位置で再度たるみを点検します。必要があれば再調整します。
- リヤアクスルシャフトとアクスルナットに新しい割りピンを通し、割りピンの両端を折り曲げます。



A. 割りピン

アドバイス

- 割りピンを差し込むときに、アクスルシャフトの穴とアクスルの穴が一致しない場合は、アクスルナットを時計方向（締め付け方向）に回します。
- 締め付け角度は30度以内にしてください。
- 最も近い穴が過ぎたときは、ナットを一度ゆるめてから再度締め付けてください。



A. 時計方向に回す

⚠ 警告

アクスルナットの取り付け不良は走行安定性を損なう可能性があり、負傷や死亡事故につながる可能性があります。規定トルクでアクスルナットを締め付け、割りピンを確実に取り付けてください。

- リヤブレーキの効き具合を点検します。

サスペンションセッティング

各自の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整ができます。

フロントフォーク

- フロントフォークは以下のセッティングを調整できます。
  - スプリングの初期荷重

注意

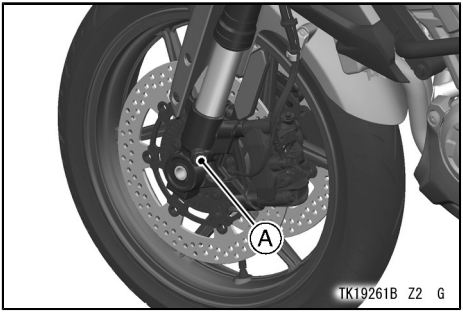
通常走行時や雨天時、未舗装路を走行した際、インナチューブに付着した汚れ（砂埃、泥、虫等）は固まる前に清掃してください。付着したまま使用を続けるとオイルシールが損傷しオイル漏れの原因となります。

スプリング初期荷重の調整

スプリング初期荷重アジャスタは左側のフロントフォーク下部にあります。

- アジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重を変えることができます。アレンレンチまたは適切な工具で調整してください。
  - **硬く**する場合は**時計回り**に回します
  - **柔らかく**する場合は**反時計回り**に回します

- 標準値と調整範囲は「セッティング表」を参照してください。(200ページを参照)



A. スプリング初期荷重アジャスタ

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

セッティング表

フロントフォークスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	0*	5回転**	15回転**
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

＊： アジャスタを反時計回り一杯に回した位置。
＊＊： 反時計回り一杯の位置から時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

タイヤ

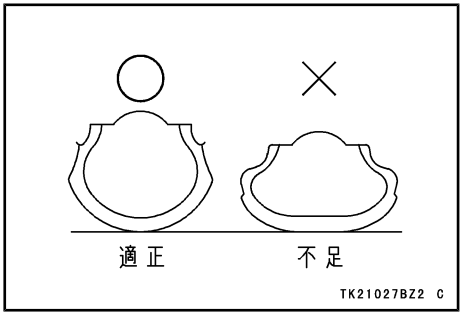
車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが重要です。

⚠ 警告

空気圧が適正でなかったり、タイヤに亀裂や、損傷、異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

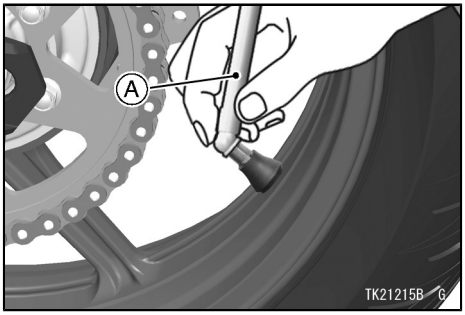
空気圧の点検

常に適正な空気圧を保ってください。タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに、タイヤの接地部のたわみ状態により空気圧が適正であるかを点検します。



アドバイス

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目では分かりにくいものもあるため、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。



A. タイヤゲージ

[前輪タイヤ]

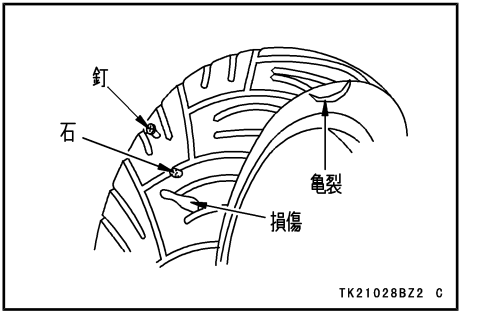
空気圧: 250 kPa (2.50 kgf/cm²)
サイズ: 120/70ZR17 M/C (58W)
指定タイヤ:
ブリヂストン BATTLAX SPORT TOURING T31F G

[後輪タイヤ]

空気圧: 290 kPa (2.90 kgf/cm²)
サイズ: 180/55ZR17 M/C (73W)
指定タイヤ:
ブリヂストン BATTLAX SPORT TOURING T31R G

亀裂と損傷

タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないか点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



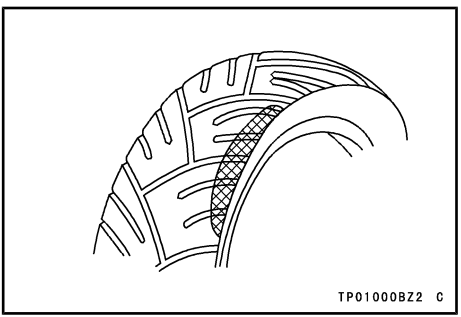
アドバイス

○ **道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。**

異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤが異常に摩耗しているときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



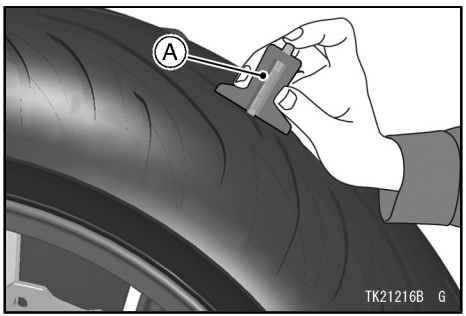
溝の深さ

コーナリング、操縦安定性、さらに安全走行のため、二輪車のタイヤは溝の深さが規定以下になりましたら交換をおすすめします。

タイヤの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

[溝の深さ]

前輪：1 mm **後輪：2 mm**



A. デプスゲージ

⚠ 警告

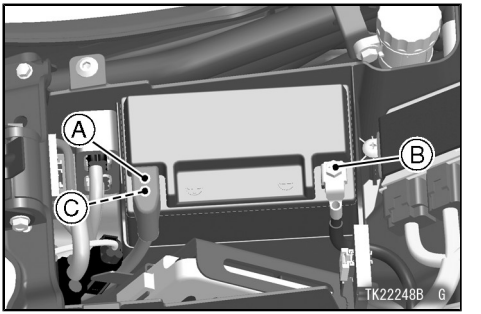
異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車の走行安定性を損ない、けがや死亡にいたる事故につながる可能性があります。前後輪同一メーカの指定タイヤを使用してください。

バッテリ

バッテリ端子部に汚れや腐食がある場合はバッテリをはずして清掃します。

バッテリの取り外しおよび取り付け方

- イグニションスイッチをオフにします。
- シートを取り外します(100ページを参照)。
- マイナス (–) ケーブルを取り外します。
- 赤色のキャップをずらし、プラス (+) ケーブルを取り外します。
- バッテリをバッテリケースから取り出します。



A. 赤色キャップ
B. マイナス(–)端子
C. プラス(+)端子

- バッテリの取り付けは、取り外しの逆順に行います。
- プラス (+) ケーブル (キャップあり) を接続し、それからマイナス (–) ケーブルを接続します。

アドバイス

○ マイナス (–) ケーブル接続時、必ずケーブルの端子をバッテリ端子へ押し当てながら端子ボルトを締め付けてください。

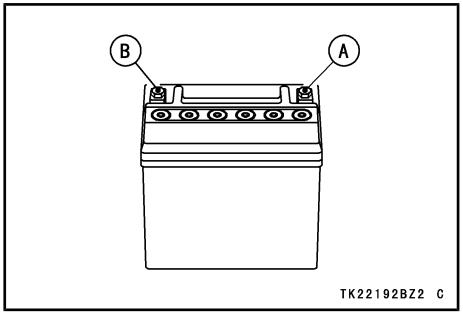
注意

バッテリケーブルの (+) (–) の接続は逆にしないでください。電気系統が損傷します。

- 取り外した部品を取り付けます。

バッテリ端子部の清掃

- バッテリを取り外します。
- 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。なお、端子部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。
- 端子部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシ、サンドペーパで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、端子部にグリースを薄く塗布します。



A. プラス(+)端子
B. マイナス(–)端子

⚠ 危険

バッテリ液は、腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり、金属を腐食させる等非常に危険です。新品のバッテリにバッテリ液を注入するとき、体、衣服、車体等に付着しないよう充分注意してください。万一、目や皮膚等に付着したときはすぐ多量の水で、5分間（目の場合は15分間）以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

⚠ 危険

バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- バッテリの整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてください。
- 作業中、バッテリの（+）（–）端子が工具等により、ショートしないように注意してください。
- ケーブルを取り外す場合は、（–）端子から取り外してください。また、取り付ける場合は、（+）端子を先に取り付けてください。
- ケーブルに緩みが生じないよう確実に接続してください。
- バッテリにガソリン、オイル、有機溶剤等を付着させないでください。電槽割れの原因になります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

注意

- **この車のバッテリにはシール形バッテリを使用しています。シール形バッテリは液の補充は必要はありません。密封栓をこじ開けて液の補充は絶対おやめください。バッテリが損傷します。**
- **寿命がつきたバッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。**
- **使用済みのバッテリを廃却する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**

[バッテリ]

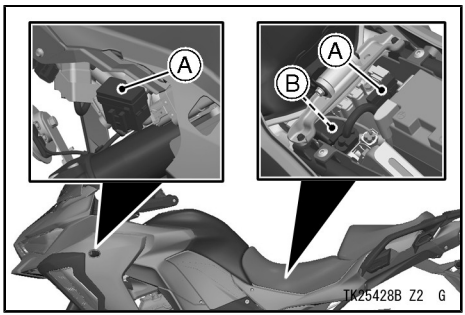
メーカ: GSユアサ
型式: YT12A-BS

アドバイス

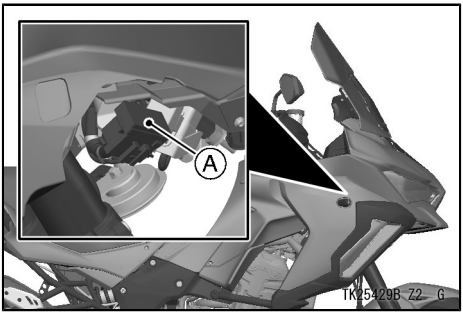
○ エンジンが始動しなかったり、ホーンの音が弱い、ヘッドライトが暗い等の場合は、バッテリが放電しています。バッテリの補充電をカワサキ正規取扱店にご相談ください。

ヒューズの交換

ヒューズはシートの下および左右のアウタミドルカウリングの裏にあるヒューズボックスにあります。メインヒューズはシートの下にあるスタータリレーにあります。

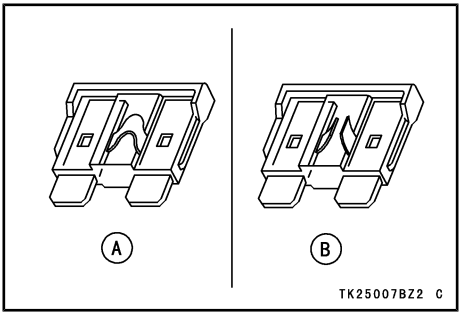


A. ヒューズボックス
B. メインヒューズ



A. ヒューズボックス

ヒューズが切れたときは原因を調べてスペアヒューズと交換してください。



A. 正常
B. 切れた状態

⚠ 警告

指定以外のヒューズを使用するのは火災の可能性があり危険です。かならず指定の容量、規格のヒューズを使用してください。

アドバイス

○ 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、他の原因が考えられます。カワサキ正規取扱店にご相談ください。
○ スペアヒューズを使用した場合は、なるべく早めに代わりのスペアヒューズを補充してください。

ヒューズボックス（アウタミドルカウリングの裏）へのアクセス方法

● 「各部の取り扱い方」の章、「アウタミドルカウリング」の項を参照してください(102ページを参照)。

車のお手入れ

いつまでも愛車を長持ちさせるため定期的にお手入れを行ってください。隅々まで清掃すれば、普段気づかない異常箇所や摩耗が発見でき、故障予防にもつながります。

アドバイス

○ 海岸地域や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は、直ちに水洗いをしてください。温水を使用すると塩の化学反応を強めますので、洗車は冷水で行ってください。洗車後は水分を拭きとり、金属部品やクロームメッキ部には防錆剤を吹き付けてください。

○ 雨天走行後、または洗車直後等に、ヘッドライト内部に結露による曇りが発生することがあります。ヘッドライト内部が曇ったときは、エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させ、しばらくすると、曇りは徐々に消えます。

⚠ 警告

ごみや可燃物が車体、エンジン、排気系部品の中や周囲に堆積すると、故障の原因となることがあり、火災の可能性も高くなります。

- **ごみや可燃物が車体に堆積するような環境で使用するときは、エンジン、電気部品、排気系統を頻繁に点検してください。**
- **ごみや可燃物が堆積している場合は、屋外に車を停めてエンジンを停止し、エンジンが冷えてから堆積したごみ類を取り除いてください。**
- **駐車や狭い囲われた場所に格納する前に、ごみや可燃物が堆積していないか点検してください。**

注意事項

注意

高圧洗浄機の使用は推奨しません。水が電装部品の端子、ベアリング等の可動部、その他部品の内部に浸入し、不具合の原因になる可能性があります。アルカリ性が強い洗剤が使われていた場合、残留物が残ったときにしみの原因となる可能性があります。

- ホースからの散水であっても、普段雨水が入らないような場所へしつこく散水することは避けてください。
- 硬いブラシやスチールウール、やすり等は、ご使用にならないでください。ヘッドライトレンズなどの樹脂部品は傷がつきやすいので、特に注意してください。
- シール部品、ブレーキパッド、タイヤに脱脂剤等がかからないようにしてください。
- ガソリン、ブレーキ液および冷却液等は、塗装面や樹脂部品を傷めますので、これらが付着した場合はすぐに洗い流してください。
- 強力な薬品や溶剤、脱脂剤、電気接点クリーナー、強力な家庭用洗剤などは使用しないでください。塗装部品、樹脂部品、ゴム部品が損傷または劣化する可能性があります。
- コンパウンドを含んだ洗剤の使用は避けてください。
- コーティング剤などは部品の素材に合わせて適切なものを使用してください。

アドバイス

○ **用品の説明書をよく読み、用途や注意事項を必ずお守りください。**

⚠ 警告

ブレーキディスクおよびブレーキパッドにワックスやオイルが付着するとブレーキが効かなくなり、事故につながる可能性があります。もし付着したときは、成分が残らないような洗浄液で洗い流してください。完全に除去できない場合は、パッドを交換してください。

樹脂部品

洗車後、樹脂部品に残った水分は柔らかい布で丁寧に拭きとってください。乾燥後はヘッドライトレンズなどの透明樹脂部品は、樹脂部品専用のワックス/ポリッシュをご使用ください。

注意

- **樹脂部品にガソリン、ベンジン等の有機溶剤が付着すると部品の損傷の原因となります。付着した場合は直ちに水、または中性洗剤で拭きとり、損傷がないかを点検してください。**
- **コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は塗装面に傷を入れる可能性があります。使用しないでください。**

つや消し塗装

中性洗剤と水を使って汚れを落としてください。塗装面を強く擦ると、つや消しの塗装面につやが出るおそれがあります。ご不明な点はカワサキ正規取扱店にご相談ください。

クロームメッキおよびアルミニウム

クロームメッキされた部品や塗装されていないアルミ部品は、専用の研磨剤でお手入れが可能です。

塗装されたアルミ部品は中性洗剤で洗浄し、専用の研磨剤で仕上げを行ってください。

アルミホイールは塗装、未塗装を問わず、アルミホイール専用クリーナを使用してください。

革

車両に革製品が付いている場合は特に注意が必要です。皮革用クリーナ/トリートメントを使用して、革製品の清掃やお手入れを行ってください。革製品を洗剤や水で洗うと寿命を縮めることになります。

ラジエータ

低圧の水流で異物を取り除いてください。

注意

コイン式、家庭用を問わず、高圧洗浄機を使用するとラジエータのフィンが損傷し、冷却効果が損なわれる可能性があります。
ラジエータの前や冷却ファンの後ろにアクセサリなどを取り付けると、ラジエータを通る気流が妨げられ、オーバヒートによってエンジンが損傷する可能性があります。

洗車

- エンジンやマフラ、エキゾーストパイプなど高温になる部品が冷えていることを確認してください。
- テープやビニール袋などを使ってマフラ開口部や鍵穴などに水が入らないようにしてください。
- 水を流しながら、柔らかい布やスポンジを使って目立つ汚れを落としてください。

- 落ちにくい汚れには二輪車・自動車用の中性洗剤を使ってください。
- 洗剤が残らないように、きれいな水でよくすすいでください（洗剤の成分が残っていると、部品を傷める可能性があります）。
- 柔らかい布で拭きとり作業を行いながら、破損や傷がないかを点検してください。自然乾燥は塗装面を傷めますのでおやめください。
- ビニール袋やテープをはがします。
- 防錆のため、洗車後はドライブチェーン、または各可動部の給油を行ってください。
- ブレーキが濡れたままでは効きが悪くなる可能性があります。低速で運転しながら何度かブレーキをかけることで部品が乾燥し、通常のブレーキ性能に戻ります。

長期間の格納

長期間、車を使用しない場合は下記の要領で手入れをしてください。

アドバイス

○ 油脂類の廃却は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗浄します。
- エンジンを充分に暖機後、エンジンを停止します。そして、ドレンボルトをはずし、エンジンオイルを排出します。
- ドレンボルトを取り付け、オイル注油口キャップを取り外し、新しいエンジンオイルを入れます。
- オイル注油口キャップを取り付けます。
- 燃料タンクの燃料をすべて排出します。

⚠ 警告

燃料を排出するときは、通気性のよい、火気のない場所で行ってください。

- タイヤの空気圧を2割減らし、前後輪の下に防湿のために板を敷きます。
- メッキ部には防錆油を吹き付けます。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- ドライブチェーンとすべてのケーブルに注油します。
- バッテリを取り外します。直射日光の当たる所、湿気の多い所、温度が非常に低い所等には保管しないでください。また、1か月毎にバッテリの補充電を行ってください。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のため車全体にカバーをかけてください。

格納した車を使用するときには

- マフラからビニール袋を取り外します。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。

[タイヤの空気圧]

前輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：290 kPa (2.90 kgf/cm²)

- バッテリの補充電を行います。
- 燃料を入れます。
- 車体各部に注油します。
- 日常点検の項目に従って点検します。メンテナンスノートの「日常点検項目」「日常点検の方法」をご覧ください。

環境保護について

車、または使用済みの部品・オイル等を廃棄するときは？

環境保護のため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。これらのものを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃棄する際は、お近くの廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会に登録されている販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証（230 mm × 200 mm）

二輪車リサイクル費用とは？

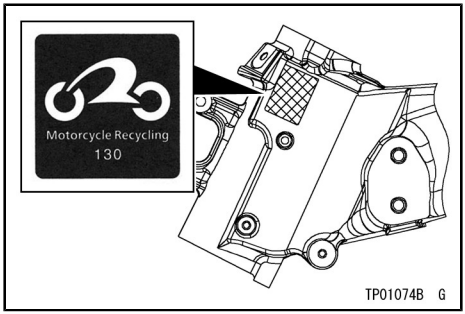
廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化するための費用です。

二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされている二輪車は、リサイクル費用がメーカ参考小売価格に含まれていますので、あらためてリサイクル

料金をお支払いいただくことはありません。ただし、運搬または収集する費用は含まれておりませんのでお客様から廃棄二輪車取扱店、あるいは指定引取場所までの運搬または収集費用はお客様の負担となります。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされています。車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行、部品販売の取り扱いはいたしません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等については、カワサキのホームページまたは、(公財) 自動車リサイクル促進センターのホームページでご確認ください。



二輪車リサイクルマーク(30 mm × 30 mm)

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車のお取り扱いに関しましては、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記までお問い合わせください。

[カワサキモータース]

https://www.global-kawasaki-motors.com/environment/recyc01.html

TP0111OB Z1 S

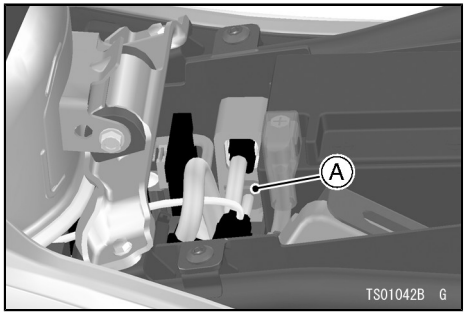
[(公財)自動車リサイクル促進センター]

https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

TP0110ZBZ1 S

DFI自己診断システムコネクタの位置

DFI自己診断システムコネクタはシートの下にあります。



A. DFI自己診断システムコネクタ

車両情報の記録に関して

カワサキでは、この車に搭載されているコンピュータにカワサキ車専用ツールを接続し、記録されている情報を取得する事があります。取得した情報は車両の点検や故障診断、研究開発、法規適合確認を目的に利用する事があります。

取得する情報はモデルやグレード、地域によって異なりますが、主な項目は次のとおりです。

- エンジンや車体の電子制御装置に記録されている使用状況や設定などの情報
- 排気ガス規制に関連する情報

なお、この車の車両制御コンピュータは音声や映像を記録する事はございません。

取得した情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様（または使用者）の同意を得た場合
- 行政や司法機関より法的に要請された場合
- お客様（または使用者）個人や車両を特定せず、加工した情報を研究開発や統計調査などに使用する場合。

イベントデータレコーダ

他の多くの自動車メーカーと同様に、カワサキもこの車にイベントデータレコーダ（EDR）を装備しています。この装置は、一定条件の事故や事故に近い状況が発生したときにのみ、事故発生の直前から事故発生中に車両システムがどのように作動していたかを理解するためのデータを、短時間記録するように作られています。

アドバイス

- **通常走行時もデータは常に記録され上書きされていますが、イグニションスイッチをオフにしたときに消去されます。**
- **事故発生時以外にEDRデータが、後で読み出しできるように保存されることはありません。また、全ての事故がEDRデータとして保存されるものではありません。**
- **この装置に個人情報（例：氏名、性別、年齢）が集められ記録されることはありません。**

このデータにより、事故発生時車両がどのように作動していたかを、運転者とメーカーの双方がより良く理解するのに役立ちます。この車のEDRは、次のような事故時の車両走行状況を示すデータのみを記録するよう設計されています。

- 走行速度
- エンジン回転速度
- スロットル開度

EDRが記録したデータを読み取るには、特殊な装置をEDRに接続する必要があります。カワサキは、警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合を除き、あなたの承諾なしにEDRの情報を提供することはありません。

万一の故障に備えて

日常点検、定期点検を欠かさず行っていただければ、不測のトラブルは未然に防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行って、お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店へ修理をお申しつけください。

エンジンが始動しない

- スタータが回らないとき
  - イグニションスイッチはオンになっていますか。
  - ヒューズが切れていませんか。
  - ギヤがニュートラルになっていますか。
  - バッテリケーブルは確実に接続されていますか。
  - バッテリはあがっていませんか。
- スタータは回るが始動しないとき
  - 燃料タンクに燃料が入っていますか。
  - 燃料系統が詰まっていませんか。
  - 燃料の品質が低下していませんか。
  - スパークプラグはゆるんでいませんか。
  - スパークプラグは正常ですか。
  - スパークプラグギャップは正常ですか。
  - スパークプラグはかぶっていませんか。
  - 転倒後、一度イグニションスイッチをオフにしましたか。
  - 車に登録されているイグニションキーを使用していますか。
  - イグニションキーの周りに他のキー等の金属部品で通信不良が起こっていませんか。

エンジンが止まる

- 1速に入れたとき
  - クラッチの切れは正常ですか。
  - サイドスタンドが下りたままになっていませんか。
- 走行中に
  - 燃料は入っていますか。
  - 燃料タンクキャップのエア抜き穴が詰まっていませんか。
  - エンジンオイルはありますか。
  - バッテリはあがっていませんか。

お客様相談室

名称：　(株) カワサキモータースジャパン お客様相談室

電話番号：　フリーダイヤル：0120-400819
*フリーダイヤルは携帯電話からもご利用いただけます。

受付時間：　月曜～金曜 (祝日および当社休業日を除く)
9：00～12：00、13：00～17：00

郵便番号：　〒673-8666
所在地：　明石市川崎町1番1号

国土交通省ではリコール業務を円滑に行うため、お客様の安全や環境に大きな影響を及ぼすと判断される場合の情報窓口を設定しております。

●自動車不具合情報専用ダイヤル：「自動車不具合情報ホットライン」
フリーダイヤル：0120-744-960 (受付時間 9：30～12：00、13：00～17：30)
24時間電話受付：03-3580-4434 (年中無休・24時間)

●国土交通省ホームページ：https://www.mlit.go.jp/ → 自動車不具合情報コーナー

TP01111B Z1 S

リコールについてのお願い

リコールとは、クルマの構造・装置の不具合による事故を未然に防止することを目的とした制度です。

同一型式・一定範囲のクルマについて、構造・装置・性能などが、安全・公害防止の規定（保安基準）に適合しなくなるおそれがあると弊社が判断した場合に、その旨を国土交通省に届け出て、おクルマをご使用のお客様にご連絡し、無料で修理するものです。

なお、保安基準にかかわらない場合でも、対応の必要があると判断した場合には「改善対策」や「サービスキャンペーン」を行っております。

＜改善対策＞

改善対策とは、保安基準にかかわらない場合でも、弊社が安全確保・公害防止の観点から必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

＜サービスキャンペーン＞

サービスキャンペーンとは、商品品質改善等の観点から、弊社が必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

適合宣言

アメリカ合衆国:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

TR01095B S

カナダ:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause interference.
(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

TR01096B S

Chaque dispositif de radiofréquence installé dans le véhicule est conforme aux exigences et aux normes du règlement ci-dessous:

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

TR01097B S

バッテリに関する補足情報

バッテリ全般に関する情報

ここでは、車両に搭載されているモーター駆動バッテリ、12 Vバッテリ、ボタン型電池に関する追加情報を提供します。使用前によく読んでバッテリについて理解してください。

⚠ 危険

電解液が衣服、皮膚、目に付着すると、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。衣服、皮膚、目についた場合は、すぐに多量の水で5分以上（目の場合は15分以上）洗い、専門医の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリを不適切に取り扱うと、感電、重度の火傷、重傷または死亡を引き起こすおそれがあります。以下の注意事項を厳守してください。

- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- 子供やペットの手の届かないところに保管してください。
- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 端子部に金属などを触れたり、接続したりしないでください。
- 水をかけたり、濡れた手で触れたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 破損、変形、水没した場合は絶対に使用しないでください。
- 煙や異臭がした場合は、すぐに使用を中止してください。

注意

バッテリを不適切に取り扱うとバッテリが損傷するおそれがあります。以下の注意事項をお守りください。

- 落としたり、衝撃を与えたり、穴を開けたり、変形させたりしないでください。
- 上に重いものを置かないでください。
- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- バッテリの排気穴を絶対にふさがないでください。

注意

外気が寒いまたは暑い環境でバッテリを使用または保管すると、バッテリが凍結または過熱し、損傷する可能性があります。外気が冷たい、または暑い環境で使用、保管しないでください。

注意

他のバッテリや金属製品とショートすると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。保管、輸送、廃棄する場合は、端子をテープなどで絶縁してください。

注意

バッテリを電子レンジや高圧容器に入れると、バッテリが発熱、破裂、発火することがあります。電子レンジや高圧容器に入れないでください。

注意

銘柄や種類の異なる電池、新旧の電池を混ぜて使用した場合、電池は特性の違いにより、液漏れ、発熱、破裂することがあります。新旧の電池を混ぜないでください。

注意

バッテリを逆接続したり、接続を誤ったりすると、バッテリや電気系統が損傷する可能性があります。バッテリの損傷を防ぐために、接続が正しいことを確認してください。

注意

規定の充電時間を超えて充電を続けると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。規定の時間内に充電が完了しない場合は、バッテリまたは充電器の故障と考えられますので、充電を中止してください。

注意

バッテリが静電気にさらされると、静電気により爆発する可能性があります。点検や整備の前には、車両の金属部分を素手で触って静電気を逃がしてください。

注意

ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤や洗剤などでバッテリを清掃すると、バッテリの劣化や液漏れの原因となります。清掃には使用しないでください。

アドバイス

○ 必ず本書に記載されている仕様・性能のバッテリをご使用ください。

ボタン型電池の追加情報

⚠ 危険

電池を飲み込むと化学火傷や粘膜組織の貫通を引き起こし、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。お子様の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだ場合は取り出す必要がありますので、直ちに医師の診察を受けてください。

注意

充電するとガスが発生したり、内部構造が損傷し、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となることがあります。絶対に充電しないでください。

注意

長時間接続したままにすると、電池から発生するガスにより、電池を漏液、発熱、破裂、発火させたり、機器を破損するおそれがあります。長期間デバイスを使用しない場合や、電池が消耗した場合は、デバイスから取り外してください。

注意
電池をはんだ付けすると、熱損傷による液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。絶対にはんだ付けをしないでください。

注意
機器によっては、電池ホルダーの金属部分が電池の (+)、(–) 端子に接触する場合があります。電池がショートしないように機器に取り付けてください。





KLZ1100C

カワサキモータース株式会社

* 9 9 8 1 7 - 0 1 2 0 *

Printed in Japan